目次

スローでつなぐ「まちカフェ・りんく」

新発田学研究センター委員 趙 晤衍

である。 駅前商店街に生まれた共生型地域活性化のまちづくりプロジェクト「まちカフェ・りんく」は以下6つのコンセプトによって新発田市

スローでつなぐ「まちカフェ・りんく」6つのコンセプト

1「商店街活性化(まちづくり)への貢献」

―地域交流空間づくり

2「コミュニティ再生への貢献」―地域ネットワークづくり

3 「環境・福祉教育への貢献」

一フェアトレード&環境・福祉コミュニティづくり

5「地域文化活動活性化への貢献」―生きがい・自己実現づくり4「地産地消、食の安全・安心への貢献」―地域社会健康づくり

6「若者の起業家精神育成への貢献」―ひとづくり

新たなコンセプトの追加と変更、改善などを行ってきた。プンに際しては従来のまちカフェの考え方や形式を継承しつつも、二○一○年八月九日にリニューアルオープンしたものである。オー年一○月開店、二○○九年一二月閉店)の使命を踏まえながらまちカフェ・りんくは、前身の「まちカフェLink」(二○○八

例えば、これまでの大学中心の運営から新たに地域との連携をよ

すことを狙いとしたのである。
事業と連携させていくことによる地域活性化への相乗効果を生み出ネットワークづくりなど、これまでの様々なノウハウをまちカフェて長い間培ってきた社協ならではの地域づくりや各種の住民組織のが運営に加わったことである。それは、これまで新発田市内においり綿密に行うことを視野に新発田市社会福祉協議会(以下、社協)

その取り組みとして、社協の給食ボランティアの方がまちカフェースの取り組みとして、社協の給食ボランティアの方がまちカフェーのカンチ事業に深く関わっていることである。さらに、した地域社会の健康づくり増進に携わっていることである。さらに、プロのシェフによる本格的な料理の提供を通した起業競争力への強力のをなくし、全学をあげてカフェ経営に興味を持っている学生限わりをなくし、全学をあげてカフェ経営に興味を持っている学生のにチャレンジの機会を平等に与えることによる人材育成の幅を広くにチャレンジの機会を平等に与えることによる人材育成の幅を広くにおかけたことである。以下、まちカフェ開店までの背景について簡単開店したのである。以下、まちカフェ開店までの背景について簡単開店したのである。以下、まちカフェ開店までの背景について簡単開店したのである。以下、まちカフェ開店までの背景について簡単に紹介する。

事業は始まったといえる。

時代の変遷とともに、いつの間にか地方商店街の代名詞として定時代の変遷とともに、いつの間にか地方商店街の代名詞といえる。

しれない。

しれない。

いる言葉であるかもしれない。

ものではなく、よりポジティブなの方にネガティブな見方のみで捉えるのではなく、よりポジティブなのようにネガティブな見方のみで捉えるのではなく、よりポジティブなのおうにネガティブな見方のみで捉えるのではないかという視点からこの見方へと捉えなおす発想こそが大切ではないかという視点からこの商店街の代名詞として定事業は始まったといえる。

である。
の場として地域との関わりを位置づけたのはこの事業の大きな特徴の場として地域との関わりを位置づけたのはこの事業の大きな特徴間のみが学生たちのフィールドではなく、まち全体を見据えた学びこのようなコンセプトの考え方には、まちカフェという物理的空

おり、 には づくりへのスローの意が込められている。カフェという物 いくこともこのプロジェクトの大きな狙いである。 集落といわれる郊外地域の活性化にも学生たちの参画が見込まれて けている。さらには、新発田市との連携事業として、 ティ形成につなげることを今後の事業展開に重要課題として位置づ に関わることを通して地域社会ネットワークづくりや福祉コミュニ での活動を踏まえつつも社協の地域活動事業にも学生たちが積極的 りには時間とエネルギーと努力が必要である。まちカフェ・りんく るひとづくりである。二つ目には、 る商店街活性化への期待とカフェ経営における起業精神の育成によ 消の食を中心とした地域社会健康づくりやその活動から持たらされ 約することができる。一つ目は、カフェという空間における地 まちカフェ・りんくの6つのコンセプトは大きく二つの事業に集 「スローでつなぐ」という文言があるようにこの言葉には地域 この事業を通して多くの学生が地域に入るきっかけになって 地域連携事業がある。 いわゆる限界 地域づく 理 的 空間 産地

地域活性化のまちづくりには必要である。スローで立ち止まり、スローで考え、スローで繋げることが共生型の事にもスピードが求められる現代社会に生きる私たちの生活。

域から学び、地域とともに地域によって成長することの思いがこの敬和学園大学の多くの学生たちがこの事業を機に地域に入り、地

スローでつなぐ まちカフェ・りんく活動写真



まちカフェ・りんくリニューアルに向けて卒業した先輩からコーヒーの入れ方を修業中。 みんな真剣です。



早速、カフェランチの試食会に学長の鈴木先生 と副学長の山田先生が駆けつけてくださいました。お店の繁盛への願いを込めて。



市民の方々から頂いた野菜たちがランチカレーを華麗に装飾しています。



野菜は社協の給食ボランティアの方々から毎日のように頂き、食材として使用し、販売も行っています。



リニューアルオープンに向けて精鋭部隊?の学生たちが揃いました。新発田市社協との協力体制のもと、社協から心強い応援部隊も駆けつけて下さいました。



佐藤シェフ特製の野菜たっぷりのチキンカレー、このボリュームで飲み物付600円。



カフェにはキッズスペースもあり、この日は 近所の子どもさんがお母さんと来店しまし た。スタッフも思わずにつこり。



まちカフェ・りんくの店内風景です。雰囲気も 一新し、新たな出発を迎えることができました。



毎週木曜日はワンディシェフの日!料理に関心のある方のチャレンジの場。その日のメニューに何が出てくるのかお楽しみです。飲み物付500円で提供中。



まちカフェ・りんくには新たな顔があります。 室内壁を利用した市民向けのミニギャラリーの スペースです。何と無料でお貸ししています。



開店早々、何と新発田市まちづくり発表会でスタッフの4人がカフェの活動について見事にプレゼンテーション。



まちカフェは新発田市社協や地元高校との連携も強めています。写真は、新発田農高で作ったジャムやたけのこの水煮。100%地元産です。

新発田祭りにおける台輪の運行とお囃子練習



泉町泉組台輪 諏訪前にて



上町一番組台輪 商店街通りにて



しばたっ子台輪のあおり 地域交流センター付近にて



上町一番組台輪 商店街通りにて



上町一番組台輪 商店街通りにて



下町わ組 お囃子練習風景

新発田祭りの台輪運行



下町わ組台輪 商店街通りにて



下町わ組台輪 諏訪神社にて



下町わ組台輪 下町交番前にて



四之町し組台輪 商店街通りにて



三之町い組台輪、四之町し組台輪 商店街通りにて



下町わ組 諏訪神社にて



[テーマ] 阿賀北地域の「花」

(「創作童話・児童文学部門」への応募作品は、阿賀北における新発田地域(現在の新潟県新発田市、 阿賀野市、胎内市及び聖龍町)の一部又は全部を舞台として下さい。

【小說·隨筆部門】

上記テーマに基づく2,000字以上20,000字以下の小説又は随筆

応募部門		賞金等		
小説部門	一般・大学生の部	大賞 (1編) 賞状·賞金20万円·記念品		
	高校生の部	大賞 (1編) 賞状·賞金5万円·記念品		
随筆部門		大賞 (1編) 賞状·賞金10万円·記念品		

【創作童話·児童文学部門】

新発田地域の魅力を再発見できる上記テーマに基づく2,000字以内の創作童話・児童文学

応募部門		賞金等		
創作童話· 児童文学部門	一般の部 (高校生以上)	大賞 (1編) 賞状·賞金20万円·記念品		
		優秀賞 (2編) 賞状·賞金10万円·記念品		
	中学生の部	大賞(1編)賞状・5万円相当の図書カード・記念品		

※全ての部門で、応募作品には、通常の文学作品のスタイルの他に、自筆のイラストや絵、自身で撮影した写真などによる視覚効果を加え、自らレイアウトした作品も含めます。 ※大賞、優秀賞の選に漏れた作品の中から、著査員特別賞が贈られることもあります。 ※記念品には、新発田の銘酒、ヤスダヨーグルトの乳製品、JA北越後の特産品等、阿賀北地域の最高級品を予定しております。

応募方法 「阿賀北ロマン賞」2009年度作品募集と朱書きした封筒に作品と「応募者シート」を同封し、下記の阿賀北ロマン賞事務局に製送して下さい。「応募者シート」は敬和学書大学新発田学研究センターで配布いたします。「同センターのホームページよりダウンロードも可能です)」。応募者シートには、執業者の氏名と連絡先、どの部門への応募なのかを記載して頂きます。

応募締切

発 表

審査員

◆加藤宗族(作素、「三田文学、編集長)◆哲野由貴子(始本作業)◆新井明(他和学園大学前学長、日本女子大学名誉教授) ◆祖周年(第3年)後新尹俊大夫氏会)◆七地編都(第1年)第七十名を教授)◆鈴木信男(後和学園大学年長) 老の元寅等(第3時光地・地議園所長)◆中田上父子後の中電大学教授)

2009年9月30日(当日消印有効)

2010年1月中旬

(株)北越銀行、(株)北冷モールド、(株)蒲城、(株)毎日コミュニケーションズ、(株)皆徳、有限会社ヤスダヨーグルト、(株)夢ハウス

後 援 新発田市、何賀野市、施内市、聖鴨町、新潟県教育委員会、新発田市教育委員会、阿賀野市教育委員会、施内市教育委員会、聖鴨町教育委員会、新発田地域広域率務組合、新発田商工会議所、新潟県高等学校文化運営、 新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、 エフエムレばた

お申し込み・ お問い合わせ

敬和学園大学 教務係「阿賀北ロマン賞」事務局 〒957-8585 新潟県新発田市富塚1270番地 Tel.0254-26-2514 ホームページ http://i-love.shibata.jp/ 💌 agakitaroman@keiwa-c.ac.jp

第二回 「阿賀北ロマン賞」受賞作品

冏 北 ロマン賞」 につい 7

とで、 学賞と肩を並べられる程の実力をもつに至りました。 をお招きすることができ、「阿賀北ロマン賞」は、 として文学賞の創設を計画されていた新潟県新発田地域振興局 阿賀北地域から作家を誕生させ、阿賀北地域を文学の舞台にするこ 集まることを目的として、二○○八年の の共催事業とさせて頂きました。また、審査員に、 「三田文学」編集長で作家の加藤宗哉氏と絵本作家の菅野由貴子氏の共催事業とさせて頂きました。また、審査員に、慶應義塾大学の 本賞は、 冏 この地域に新たな文化を創造することも意図しています。 **|秀な作品を発信していくことで、** _賀 (北ロマン賞」 新潟県副知事森邦雄様のご紹介もあり、 は 阿 賀北 を題材とした文藝作品 夏に創設致しました。 阿賀北地域に全国 他 地域振興の一環 の全国的な文 の関心が 影を募

て下さる恊賛企業の皆様には、この場をお借りしまして厚く御 た経済情勢が厳しい中、 されております。新潟県新発田地域振興局様や後援団体の皆様、 し上げます。 阿賀北ロマン賞」は、 賞の運営資金や受賞者への記念品を提供し 地域の方々の様々なご支援を賜 つて 運営 礼申 ま

後

と優秀賞を受賞した作品と選評を次頁より紹介させて頂きます。 応募を頂きました。その中から、 回 「阿賀北ロマン賞」 は、 全国一九都府県から計九九編 厳正な二度の審査を通過 し、大賞

(「阿賀北ロマン賞」 事務局 富川 尚

阿 [賀北ロマン賞の

協共主 敬和学園大学新発田学研究センタ

催 新潟県新発田地域振 浜興局

㈱アークベル新発田支社、㈱ 、サービス、 一十嵐邸ガーデン、市島酒造㈱、 株大橋商会、 財団法人 下 ア ĺ ㈱ウオロク、 1 グ ラフィ 越総合健康開発セ 株NIS保 ツ

> 師会、 ス (株) 眼鏡院、 東北電力㈱新発田営業所、 ズ、株皆徳、 ドオフコーポレーション、㈱花安 新発田斎場、 マン㈱、ノブコレクション、 際ソロプチミスト新潟―はまなす、 ㈱北冷モールド、㈱蒲城、㈱毎日コミュニケーション ㈱大光銀行、 島津印刷㈱、 ガス株、 社団法人 新発田 新潟県酒造組合、 有限会社ヤスダヨーグルト、㈱夢ハウス 新発田 ㈱第四銀行、第四リース㈱、 新菖工業株、 越後農業協同 市 歯科医師会、新発田ビルサー ㈱新潟通信サービス、 株長崎屋、新潟運輸株、 酒 野村證券㈱新潟支店、 造 社団法人 新発田北蒲原 曽根建株、 超合、 株神田 小柳産業株、 エンジニアリ 株損保ジャパ 大進電業株 (株) コロ 株北越銀 日東アリ (株) ハ | (株)新潟 ビ 医

員会、聖籠町教育委員会、至新発田市教育委員会、阿賀野市、胎内1 ビ、TeNYテレビ新潟、 NHK新潟放送局、 日新聞新潟総局、 ジオ新潟、 田 [商工会議所、 F M 新潟県高等学校文化連盟 P O R T 7 9 · 0 ` 毎日新聞新潟支局、 BSN新潟放送、 阿賀野市教育委員会、 胎内市、 UX新潟テレビ21、エフエ 新発田地域広域事務組合、新発 聖籠町、新潟県教育委員会 エフエムしばた NST新潟総合テレ 読売新聞新潟支局、 新潟日報社、 胎内市教育委 ムラ

加藤宗哉(作家、 (新潟県新発田地域振興局長) 、北嶋藤郷 新井明 目黒淳 鈴木佳秀 「三田文学」編集長)、 (敬和学園大学前学長、 (新潟日報新発田市局 (敬和学園大学学長) 日本女子大学名 (敬和 神田より子 由貴子 西方真琴 学園大学

不同 敬称略 肩書きは当時 *О* 8 0

第二回「阿賀北ロマン賞」大賞受賞作選評

だよ。 長)、童話・児童文学部門は菅野由貴子氏(絵本作家)によるもの長)、童話・児童文学部門は菅野由貴子氏(絵本作家)によるもの、一説・随筆部門の選評は加藤宗哉氏(作家・「三田文学」編集

■小説部門 一般・大学生の部 大賞

作 者:麻月 鉈(十七歳)

作品名:「夢の中で」

までが語られ、私は思わずドストエフスキーの『白痴』を重ねたほう。きわめて現代的な言葉のなかに、恋と、それが狂気に変わる様が、読む者に違和感なく受け入れられるのは何より作者の筆力だろが、読む者に違和感なく受け入れられるのは何より作者の筆力だろが、読む者に出会うのは愉しい。今回の受賞者は全員一致で十七歳をだが語られ、私は思わずドストエフスキーの『白痴』を重ねたほか、売れて出会の高校生に決まった。主人公の少年が夢の中で見知らぬ少女に出会を表すが語られ、私は思わずドストエフスキーの『白痴』を重ねたほう。きわめて現代的な言葉のなかに、今回の受賞者は全員一致で十七歳をでが語られ、私は思わずドストエフスキーの『白痴』を重ねたほう。

■随筆部門 大賞

上 者:須藤 登茂子(七十六歳)

作品名:「新たに涼し」

文中に「七十半ばを越して」とあるが、いかにも鍛錬された文章とていた。何より、安心して読めた。飾りを落として、無駄がない。肝要なのはやはり文章である。須藤さんの文章はその点で抜きんで小説でも随筆でも、とかく内容やテーマが問題とされがちだが、

うな一日だった」という結語もぴたりと嵌まっている。スに戦時中の記憶が呼び起こされる。「忘れものを取りに行ったよいう感が強い。新発田に一日だけの旅をして、丈高く伸びたコスモ

|作童話・児童文学部門 | 一般の部(高校生以上)| 大賞

創

者:海渡 夕姫(三十二歳)

作品名:「ばあちゃんの花絵」

切なさを感じさせるとてもよい作品だ。
う久美子を、夕日のオレンジ色の光が包みこむ情景表現は、さらにいとおしい気持ちが読んでうかがえる。亡くなったばあちゃんを思表現されている。残されたあやめの花絵から、ばあちゃんの孫への表やめの花を軸に、ばあちゃんに対する心の変化、葛藤がうまく

■創作童話・児童文学部門 中学生の部 大賞

者:石井 まゆ佳(十五歳)

作品名:「カラスの探しもの」

え、幻想的で想像力をよりひきたてている。今後の作品に期待する。立ったカラスが、光を浴びるその黒は、内面を伴った美しい黒に思面・心から変わるという発想はすばらしい。紫色の海を背に飛び話というのはよくあるが、身近にあるものの良さを再発見し、内くさんつまっている。真っ黒なカラスが、きれいな鳥にあこがれる少し無駄な部分も多いが、創作性があり深く想像できる要素がた

小説部門 一般・大学生の部 大賞

夢の中で

麻月 鉈

夢を見た。暗闇の中、一輪の花を抱えた少女が叫んでいる。

『私を見つけて!』

た。 内容はたったそれだけだった。ただ、どうにも後味の悪い夢だっ

* *

れで合間に宿題をしたらあとは目一杯遊ぼう!とか思っていた。だりゲームして夜更かししたり趣味のスケッチでもしたりして、そめる。宿題も今年はそんなに多くない。高二の夏休みは友達と遊んめる。なり、終業式が終わったので今日から待ちに待った夏休みで僕は東京の公立高校に通う二年生だ。部活は美術部に入っている。

一体何なんだよもう……」

それなのに、夏休み初日からこの夢である。

借りたのだ。本人も返却を催促してこないということは忘れているるのを見つけた。野の花を模写する時に名前を調べるのに姉貴からブツブツと呟きながら体を起こすと、枕元に花辞典という本があ

からない。
い悲しみ』。聖籠町のシンボルであると書いてあるが、さっぱり分スという花で、バラ科の落葉低木、花言葉は『見栄えの良さ、美し見たような花を目にし、慌ててページを捲り直した。それはハマナのだろうな、と思いながらページをぱらぱらと捲る。と、どこかでのだろうな、

ことにした。 取り敢えず本をベッドの上に放り出し、まずは朝食を食べに行く

* *

知っている筈もない。い僕には無縁の土地だ。ましてや、聖籠町などという場所なんて、側にある町らしい。新潟なんて、生まれてから東京を出たことのなポソコンで調べてみると、聖籠町というのは新潟県北部、北蒲原

だの夢と一言で片付けるにはちょっと無理そうだ。 たのは埋め尽くされた絶望とその中で芽生えた微かな希望――。ため込まれた、硝子玉の様なその瞳だった。涙で揺れた黒に宿っていめ込まれた、硝子玉の様なその瞳だった。涙で揺れた黒に宿っていたのは生気の失せた顔に埋黒くて長い髪、蒼い唇。だが印象的だったのは生気の失せた顔に埋たの夢と一言で片付けるにはちょっと無理そうだ。

「
ら
ー
ん
、
気
に
な
る
な
あ
」

「なあにが気になるのぉ?」

そこには意地悪そうな笑みを浮かべて乱視と近視の入った眼鏡を指突然後ろから抱きつかれ驚きの声が上がる。首だけで振り向くと、

屋に入る時はノックしろっつったろ」と僕は不機嫌面になる。で上げる姉貴がいた。伸しかかる姉貴を振り払いながら、「人の

なのに、 は? 早かった。 光った、 んたからかい甲斐があるわぁ」姉貴の眼鏡がキラーンと悪戯っぽく は簡単に騙される。単純な思考回路が長所であり短所でもある。が、 吐くときには真実をちょっぴり混ぜるとかなんとか。 ら女の子が助けを求めていたからと言ってもそれは夢の中の話だ。 どうすんのよ」と声を上げた。確かに、どうするのだろうか。 「で、 「ノックしたけど返事しなかったじゃない。 の頭を押し退けて画面を覗く。「新潟ぁ? そんな田舎調べて 期間はどうするの? 資金はどうするの? 気がした。 「知り合いが新潟に住んでいて」なんて言っていた。 矢継ぎ早に質問を浴びせかけられ戸惑っていると、 そもそもいつ行くのよ?」切り返しは 行き方は分かるの? なに考えてたの?」 新幹線の切符 へえ、と姉貴 嘘を いく 「あ

「もー、僕はこれでも真剣なんだから!」

白がっているようである。

一方がっているようである。

一方がっているようである。

一方が降って来たので、顔を上げると目をキかりである。溜息を吐いていると、「ま、あたしが父さん達に掛けかりである。溜息を吐いていると、「ま、あたしが父さん達に掛けからである。溜息を吐いていると、「ま、あたしが父さん達に掛けかりである。

「え、マジで?」

さあ、これでもう後戻りは出来ないぞ。は断れないだろうと思い、僕は姉貴に任せることにした。我が家の両親は僕より姉貴に甘い。その姉貴の頼みごとなら二人

* *

「PASUMO」が使えないことだった!)、聖籠町に到着。ながら(此処に来て一番驚いたのは、首都圏ではどこでも使える描いた)、さらに人に道を尋ね、電車に乗ったりバスに乗ったりし端の計らいで、僕は一人旅という名目で新潟に行けることに姉貴の計らいで、僕は一人旅という名目で新潟に行けることに

「うわー、空気きれー」

宿泊施設くらいは調べてくるべきだったかな。 そんな中で未だに続いているのは絵を描くことだけだ)。 たのはそこまでだった(昔からやる事成す事中途半端な僕だったが ている鞄には絵を描く為の道具が入っている。 料品の入ったキャリーケースとボストンバッグ一つずつ。 ようか。と辺りを見渡すが田んぼと人家しかない。 澄んだ空気に感動……している場合じゃないよな。 いしこりや最悪野宿かも、 塵や排気ガスの混じった東京の空気しか知らなかった僕は新潟の なんてちょっと楽観していたことを早速 知り合いなんていな 事前準備が整ってい これからどうし 荷物は衣類や食 肩に掛け 最寄りの

「おいそこの少年よ」

後悔し始めた。

無かった。男は人懐っこい笑みを浮かべながら陽気に手を振る。そフな服装、狐のような細く吊り上がった目に厚ぼったい唇。訛りはていた。歳は三十歳くらいだろうか。Tシャツにジーパンというラ声を掛けられて振り返るとそこには狐……いや、一人の男が立っ

してみた。男はうんうんと頷 れが僕に向けられたものかを確認する為に人差し指で自分の鼻を差

カヨシト。上はお花の岡、下は大吉の吉に人。よろしくな!」 「そうだお前だよ少年。何だかお困りの様子だが? あ 俺ハナオ

訊ねられてもいないのに花岡吉人と名乗ったその男は、再びどう

したのと訊ねてくる

「あの、 吉人さんはへぇ、と目を丸くし、「旅行って、こんな田舎に 実は旅行にきたんですけど、 泊まる処が無くって……」

鞄の中から「絵を描きに来たんです」と、取り出したスケッチブッ 少女を探しに来たなんて言えるわけ無い。やむなく僕は肩に下げた か?」と珍しいものを見るように僕を見た。まさか夢の中で会った

クを見せた。僕はあまり自分の描いたものを見せるのは好きではな 褒められるのも貶されるのも嫌なのだ、というより疲れる。

かし彼はそんな僕の心情などお構いなしに「絵描きかぁ、すげー

べて足元ばかり見ていた。 な!」とはしゃいだ。なんとも言えないむず痒さに照れ笑いを浮か

しばらく僕の駄作を鑑賞していた吉人さんがスケッチブックを返

どうだ、 ないというのは小学校でも習ったが、他に頼れる人もいないのでそ うせ此処ら辺にホテルなんか無いし、此処で会ったのも何かの縁だ。 しながら、 嫌か?」と言ってきた。知らない人についていってはいけ 「泊まるとこないんだったらウチに泊っていけよ! تغ

吉人さんの家は最後に降りたバス停から歩いて十分のところだっ

の好意に甘えることにした。こうして僕は花岡家へと招待されたの

だ。

た。 は見えなかったので安心した。 デザートに食べた笹団子はとても美味しかった。 んも新潟訛りで喋りかけ、 玄関で吉人さんの両親に迎え入れられ晩御飯を御馳走になる。 嬉しそうに笑っている。二人共悪い人に おじさんもおばさ

る。 天の星空というものか。都会では見られない景色にまた一つ感動す 庭へと出てみたら星がとても綺麗で、 その後、与えられた部屋に荷物を置いて、何をするわけでもなく 思わず溜息を吐く。 これが満

線の先にあるものは一輪の花であった よく見えなかったが、 そんな時、僕は庭の隅っこの方で吉人さんを見つけた。 何かを愛おしむ様な表情をしている。 暗がりで その視

いるのだなとしか思わないその光景に、 別に何でもないその光景。 他人が見たら、 咲いている花を愛でて

- つあ」

怖は浮かんでこなくて、僕はほっと息を吐いた。 ンダルを突っ掛けてこちらへ歩いてくる。その顔には意味不明の恐 い笑顔を浮かべて、「ああ、 向いた。硬直している僕を見て目を吊り上げたが、直ぐに人懐っこ ち 僕は得体の知れない恐怖を感じて立ち竦んだ。 ひゅっと喉が鳴る。 それに気付いたのか、突然吉人さんが振り なんだお前か少年」と言って素足にサ 全身の皮膚が粟立

「何してんの、こんなところで」と訊ねられたので、 星を見ていま

したと正直に答える。

「ああ、東京と違って綺麗だもんなー」

からからと笑う。つられて僕も笑ってしまった。 笑いながら、

こっそり汗ばんだ手をズボンで拭う。

いう。のだが急用が入ってしまったので案内することが出来なくなったとのだが急用が入ってしまったので案内してくれる事になっていたをした。明日、吉人さんが何か思い出したのか僕に申し訳なさそうな顔あっ、と吉人さんが何か思い出したのか僕に申し訳なさそうな顔

物をスケッチするだけですから大丈夫ですよ」首を振った。 ごめんな、と手を合わせる吉人さんに、僕は「いえ、そこら辺の

らな」とまた二人で笑った後、それぞれの部屋に戻った。「そうか、まあ、こんな何もない田舎で迷子にはならないだろうか

の絵。の絵。ハマナスの花を抱き、何かを訴えかける少女を取り出し、開いた。ハマナスの花を抱き、何かを訴えかける少女本棚、荷物は隅の方へ放り出してある。その鞄からスケッチブック僕が与えられた畳六畳分の小さな部屋にあるものは小さめの机と

(i) では、(i) では、

* * *

今度は泣き顔ではなく笑顔だ。見せた。昨日描き直した少女もやはりハマナスの花を抱えていたが翌朝、寝不足で眠い目を擦りながら僕は道行く人々に少女の絵を

知らない人と話すのは正直言って苦手だったが、農作業中のおじ

さんが僕の絵を見て素っ頓狂な声を上げた。

「ヒジリちゃん?」「これぁ聖ちゃんじゃねぇか?」

「ああ、東京から越してきたとか」

「何処に行けば会えますか?」と訊ねると、「それは儂等かて聞き

たいわ」と返された。

「ただ、あの子が花岡の倅と仲良おしとるのはみたことあるぞ」とや川等を探し回ったが今のところ見つかってはいない。になっているらしい。目撃者はおらず、警察も両親も町民も山や海通う二年生だそうだ。僕と同学年である)は二週間前から行方不明聞けばこの少女、荒川聖(ちなみに、村上というところの高校に

「花岡の倅……? それって吉人さんですか?」おじさんは言う。

「そうだ。花岡の倅はな、あれは今時流行りのなんつったかな、

ニー、ニー……」

「ニートですか?」

きた。これだから最近の若者は……」それからは働きもせず、花岡の親父が稼いだ金でギャンブル三昧とはいいものの、会社をクビにされてたった五年で戻ってきよった。「そうそう、それじゃ!」成人したと同時に東京に出稼ぎに行った

身なんです」と言い、これ以上ボロが出ないうちに立ち去った。ちゃんの知り合いかえ?」と訊ねたので取り敢えず「同じ東京都出軽いショックでふらつく僕におじさんは「ところで、お前は聖

「行方不明、か……」

だし。

がはいいのだろう。最初に目的を言う時点で嘘を吐いてしまったのけばいいのだろう。最初に目的を言う時点で嘘を吐いてしまった聞き人さんに聞いた方がいいのかなと思ったが、しかし何て言って聞週間前に行方不明になり、そして吉人さんと知り合いである。なら、あのおじさんから得た情報は、荒川聖は僕と同じ東京出身で、二

勢いよく振り向いてみたが、そこには誰もいなかった。 ぞわりと突然強烈な殺気を背後から感じて体が硬直し、総毛立つ。

------何……今の」

処法が無いからだ。

こんな感覚は今まで生きてきて初めて感じた。それは恐怖に近いこれな感覚は今まで生きてきて初めて感じた恐怖とはまた別のものだともので、しかし昨日吉人さんから感じた恐怖とはまた別のものだともので、しかし昨日吉人さんから感じた恐怖とはまた別のものだとからないということは何よりも恐ろしい。その出来事に対する対分からないということは何よりも恐ろしい。その出来事に対する対分からないということは何よりも恐ろしい。その出来事に対する対分からないということは何よりも恐ろしい。その出来事に対する対分からないということは何よりも恐ろしい。その出来事に対する対分からないということは何よりも恐ろしい。その出来事に対する対分が無いからだ。

から早く離れた方が良いと判断し、先程感じたものを振り払うよう僕は鳥肌の立った二の腕を引っ掻く様に擦る。とにかく、この場

に早足で歩きだした。

* *

「あ、えと、少しの間お世話になってるんです」「あらぁ、アンタ花岡さんとこに住んでるのぉ?」

かける。なかなか質問が出来ず戸惑う。

「どうしてこんなところに?」等の疑問をシャワーの様に浴びせか「どうしてこんなところに?」等の疑問をシャワーの様に浴びせ言った。僕が荒川聖のことを質問する前に「何処から来たの?」と

一通り僕を質問攻めにした後、おばさんはじゃあねと立ち去ろう

とした。

「あ、ちょっと待って下さい! 一つだけお聞きしたいんですけど

を視界に入れないように僕はスケッチブックを開いて見せる。数歩歩きだしたところで慌てて僕は引き留める。少し不機嫌な顔

「これ聖ちゃん? よく書けてるわねぇ。聖ちゃんと知り合い?

同じ学校だったの?」

知りませんか?」と被せる様に言った。再び質問の嵐が始まりそうだったので「彼女を探してるんです。

「そういえば……花岡さんの家に入っていくのを何度か見たことあ

るわ」

「ホントですか?」

「ええ、でも一人じゃなかったわ。同い年くらいの男の子と一緒

だったわね」

「最後に姿を見たのはいつですか?」

校にも馴染めてなかったって聞いたわよ。そう言えばその男の子、じゃないかしら。あまりご両親とも仲良くなかったから。新しい学「行方不明になる三日前かしらねぇ。聖ちゃん、家出でもしたん

札付きの不良らしいわよ。あんな顔して結構遊んでる子なのかもし

れないわよ、聖ちゃん」

「そう……なんですか」

とてもそんな子に見えなかったので、少なくともこのおばさんの

言葉に僕は衝撃を受けた。

て逃げた。その後に腕時計に目をやると、四時を回っていた。おばさんがまた口を開きかける前に僕はさっさと短くお礼を言っ

「もうこんな時間かー」

しまうだろう。 んな田舎に行ったなんて友達に知られたら、きっと物凄く笑われて求めているのかどうか疑問に思えた。夢に出てきた少女を探しにこ求ったりと疲れていた。そして早くも僕は本当に荒川聖が助けを

花岡家に向かった。
その後僕は道端の花や風景を数ページほどスケッチブックに描き、

* *

「よっ!」という声と共に襖を開いたのは吉人さんだった。何だか

ご機嫌である

それを焦りつつも冷静に閉じる。このページは、吉人さんには見せての時僕はスケッチブックの荒川聖を描いたページを開いていた。

「おかえりなさい、吉人さん。……何か嬉しそうですね。どうしたない方がいいかもと何故か思った。

「んー? 別に何でもないさ。それよりお前、スケブ見せろよ、何んですか?」

描いたの?」

いですよ」と僕は言った。

ですよ」と僕は言った。

ですようない僕の手からスケッチブックを養し出した。それを抱え込み、慌てて別のスケッチブックを差し出した。それをおした。それをし出した。それを

しなかった様に思う。見せるとしたらせいぜい仲の良い美術部の人考えてみれば自分の描いた絵を見せたりするというのはほとんど

か顧問ぐらいだろう。

も、荒川聖の似顔絵のページを食い入るように見つめている。さんの方を見ると、あちゃー、やっぱ吉人さんが持っていた。しか気付くと抱えていたスケッチブックが無い。まさかと思って吉人

けど。

さもそもスケッチブックを出しっ放しにしていた僕の責任でもあるがありすぎて物凄く怖い。やはり見せるべきではなかったというかがありすぎて物凄く怖い。やはり見せるべきではなかったというかったこれでもかというほど上がっていた。先程と比べるとギャップスケッチブック越しに見る目は、もともと吊り上がっていたのに

取り敢えずどうしよう。スケッチブックを強引にでも取り返すべ

ないよね、きっと。

とにかく、会話だ。人間話せば分かるものだ。

「あ、あの、吉人さん」

...

「そっちは駄目ですって。全然上手くないし、恥ずかしいから。返

せん。無信教者だけど助けて神様。えない。対する吉人さんは無言。会話が続かない以前に成り立ちま、笑顔を心がけるがどう見ても口の端が痙攣しているようにしか見

間を投げつけた。 間を投げつけた。 で呼んでみせ、なおかつ次の質問に移らせないように自分から疑気よく嘘を吐く。仲がいいと見せ掛ける為に敢えて荒川聖を下の名気よく嘘を吐く。仲がいいと見せ掛ける為に敢えて荒川聖を下の名いました! 吉人さんこそ、あら……聖と知り合いですか?」と完然吉人と、祈りが通じたのか「お前、聖を知ってんのか?」と突然吉人

「友達の紹介でな。それより、向こうでの聖ってどんなんだっ

た?」

「こっちでの聖はどうでしたか?」と返す。えず「明るく優しい子」という可も無く不可も無い回答をしつつ、とは。下の名前で呼んだ以上知らないでは済まされない。取り敢ぐっと言葉に詰まる。まさか転校前の荒川聖の様子を訊ねられる

いようにする。僕は照れている表情を作って言う。た調子で確信を突かれてドキッとしたが、なんとか表情には出さなもしかして此処に来たのは聖に会う為だったりー?」なんておどけ馴染めない、とかそんな感じのヤツだけど……」との後、「お前、「こっちじゃあんま上手くいってないと聞いたな。クラスの奴等と

実は最近聖と連絡が取れないんです」

分は聖に会いに行く為なんですよ、ちょっと気になることがあって

「いやぁ、半分は絵を描く為っていうのもあるんですけど、

もう半

「一週間前」った」。 言って、 可っ「へえ……。 いつから?」

「二週間前からです。吉人さん、何か知りませんか?」

「いや、何も………」

雰囲気に呑まれているからなのだろうか。

雰囲気に呑まれているからなのだろうか。

の考え込んでいるのはきっとポーズだ。何か言おうと思ったい。ただ、雰囲気が変わった。ほんの一瞬だけ、何か嫌なものを感い。ただ、雰囲気が変わった。ほんの一瞬だけ、何か嫌なものを感い。ただ、雰囲気が変わった。ほんの一瞬だけ、何か嫌なものを感

強く握っていた手を開くと汗で濡れている。震える。沈黙の時間は僅か一分だったが僕は一時間にも感じられた。唐突に「ご飯よー!」というおばさんの声がして、ビクリと体が

「もう晩飯かー。どうりで腹が減ってるわけだ」

がれなかった。 い唇に笑みを浮かべて部屋を出て行く。対する僕はしばらく立ち上緒に鞄に放り込む。そして「聖のことはまた後で考えようや」と厚ケッチブックを投げ出した。直ぐにもう一冊のスケッチブックと一明るい声音でそう言った吉人さんは立ち上がって伸びをしてス

わるなと告げている。 僕は吉人さんに恐怖を感じていた。本能が、これ以上荒川聖に関

「でも……」

こんなところで、引き下がれるもんか……-

* *

さんはいつものことだと言うけれど。
でに家を出てしまい、それからまだ戻っていない。おじさんやおば視するだけだった。吉人さんに何か訊ねようにも前日の夕飯の後直校を尋ねて同じクラスの生徒に何人か聞き込みしたが、皆黙るか無荒川聖探しは難航していた。荒川聖が通っていたという村上の高

う情報は本当のようだ。たのだ)。荒川聖を知る人物は少ない。学校に馴染めていないといたのだ)。荒川聖を知る人物は少ない。学校に馴染めていないとい二日目は捜索範囲を広げ過ぎて迷子になったりした(本当になっ

う少し探したら見つかるんじゃないかと自分を騙しつつ三日目も荒まだ三日、もう三日。しかし彼女は未だ見つからない。でも、も

をしたが、本筋と全く関係が無い。 何の発見も無さそうだった。 が、 外大した情報は聞き出せなかったのだが。睨まれた時に感じた感覚 が荒川聖を下の名前で呼んでいた。サヤバヤシマコトという名前以 うこともあるのだけれど。ただ、 動をしに来ていたということで、 得ることは出来なかった。 川聖が通っていた学校を訪れ、 三日間、 いつかの記憶を呼び覚まそうとするが今はそれどころじゃない 荒川聖を探し続けたがもう畑や民家ばかりのこの町では 長期休みに登校している生徒は 緑豊かで空気が美味しい、 聞き込みをしたが思うような成果を 髪の毛を茶色く染めた一人の男子 その人数もかなり少なかったとい という発見 部活

そして四日目の今日。気分転換も含めて僕は花岡家の掃除を引きいのだろうか。だが、もしかしたら荒川聖に関係する何かが見つかったがなんとか昼頃には終わらせることが出来た。……吉人さんかったがなんとか昼頃には終わらせることが出来た。……吉人さんの部屋を除いては。勝手に人の部屋に、掃除目的とはいえ入っても良いのだろうか。だが、もしかしたら荒川聖に関係する何かが見つかるかもしれないという期待が大きい。

た新聞やラジオやパソコンがあるだけの殺風景なものだった。結局好奇心に負けて部屋に入る。中は机や椅子、その上に置かれ

ないことを確かめ思い切って引き出しを開けると、そこには一枚の机の引き出しの一つが少しだけ開いているのが見えた。再び誰もい「こんなところに何かあるはずもないかぁ……」と落胆していると、とか家庭用菜園の道具とか赤いレンガとかそんなものしか無かった。僕は掃除に入った。その名目で襖を開けたりもしたが布団とか枕

吉人さんが意図的に行ったものなのだろうか。だが何故こんなこと情で、吉人さんがファンシーな趣味を持っていない限り使うような物で、吉人さんがファンシーな趣味を持っていない限り使うような物で、吉人さんがファンシーな趣味を持っていない限り使うような物で、古人さんがファンシーな趣味を持っていない限り使うような物でがしたの隣で出土に汚れている。携帯電話はピンク色の可愛らしい物プリクラと、テディベアのキーホルダーのついた携帯電話があった。プリクラと、テディベアのキーホルダーのついた携帯電話があった。

僕は掃除用具を手に歩き出す。 昼にしましょう」直ぐに顔を引っ込めてしまう。複雑な感情のまま、くていいわよ。勝手に入ると怒るから。それより終わったんならお時に廊下の角からおばさんが顔を覗かせ、「吉人の部屋は掃除しな除終わったのー?」という声がして、慌てて部屋を飛び出した。同いき出しをしっかり元通りに戻した時「――――くん、お掃

「これ以上聖に関わるな!」

注意深く眺めると、遠くの方で走り去る人影が見えた。てスリッパのまま庭へ飛び出した。ブロック塀をよじ登って道路を庭の方から聞こえた声に驚いて振り向く。僕は掃除用具を投げ捨

ら、先程の声の心当たりを探すが、咄嗟のことだったのであまり記する。結構な高さだったのでそれなりに痛かった。尻を擦りなが逃げられたことを確認し、体の力が抜けたのか地面に尻から落下

しばらくして、おばさんが僕を呼ぶ声で我に返った。体やスリッと、ってこれじゃどっちが探偵なんだか分かんないや。と言ったのだ。名前を呼び捨てにしたことから声の主は荒川聖と親と言ったのだ。名前を呼び捨てにしたことから声の主は荒川聖と親に残っていない。だがその言葉は良く覚えている。聖に関わるな意に残っていない。だがその言葉は良く覚えている。聖に関わるな

は、この事件をこのまま終わらせて良い筈が無いということだった。分からない事が多すぎる中で一つだけハッキリしている事。それパに付いた土を払って立ち上がる。

視界の一番端で、一輪の花が揺れた。

とことんやってやるぞ。

* *

ている。
いいじゃないか。明日からまた頑張るから、今日はゆっくり寝かせいう声まで聞こえだした。くそ、こんな時にまでリピートせずともに回っているからだ。それらに加えて今度は『私を見つけて!』とろしい形相やプリクラの事等がぐるぐるとメリーゴーランドみたいその日の夜はなかなか寝付けなかった。頭の中では吉人さんの恐

『私を見つけて!』

うるさい。 『私を見つけて!』

『私を見つけて!』

頼むから……、

黙ってくれ!

「お願い……助けて!!

が見える筈が無い。これはもしかすると、ひょっとすると……、り見えている。本当に光が差さない闇の中にいるのなら、自分の体こまで暗いのはおかしい。周りは完全な闇なのに自分の体はくっきた。「僕、ちゃんと蒲団で寝ていたよね。いつの間にこんなとこた。「僕、ちゃんと蒲団で寝ていたよね。いつの間にこんなとこその声の近さにハッとしてあたりを見回すと、僕は暗闇の中にい

「夢でも見てるのか?」

る顔だ。の子がいた。一輪の花を胸に抱きかかえた黒髪の少女。見覚えのあの子がいた。一輪の花を胸に抱きかかえた黒髪の少女。見覚えのあ「そう、此処は夢の中よ」との声に振り返ると、そこには一人の女

ていたのよ」
「やっと、逢えた。私の声が聞こえる人。ずっとあなたに呼びかけ

が無いけど、記憶に焼き付いて離れない顔。そうだ、彼女は―――少女は涙と一緒に微笑みを浮かべた。たった一度しか会ったこと

は荒川聖。聖でいいわよ」

配になったが、彼女は首を静かに横に振った。端に彼女はしょんぼりしてしまう。何か悪いことを言ったのかと心れ!』だのって」と怒られてしまった。僕は慌てて謝るが、その途じゃない。人が助けを求めているのに『うるさい』だの『黙ってくがこの町に来てずっと探していた人物。その人に「それより、酷いかこの野に来てずっと探していた人物。その人に「それより、酷いがこの野に来てずっと探していた人物。

半分も理解出来ていない。
「ううん、私が悪いの。あなたをこんな事に巻き込んでしまったの「ううん、私が悪いの。あなたをこんな事に巻き込んでしまったの

らないんだ」
「そうしたいのはやまやまなんだけど、僕は何がなんだか全く分か

「ああ、そうね。ごめんなさい取り乱して」

聖は一息吐いてその場に座り込んだ。僕も倣って闇の中に腰を下

聖が深呼吸をした後、重々しく語り始める。

ろす。何も感じない、空虚さがそこにはあった。

だったわ」

「私は去年の秋まで東京の高校に通っていた。でもお父さんの仕事がおやんと一緒に住んでいた。聖籠はあまり好きじゃないけど、おの都合でこんな田舎に引っ越すことになったの。私たちは父方のおのおま年の秋まで東京の高校に通っていた。でもお父さんの仕事

「だから、それを持っているんだね」

た時からあったの。お爺ちゃんが守ってくれる気がして、ずっと僕は聖が抱えている花を指差す。彼女はふっと笑って「此処にい

持ってるんだ」と言った。

るいものの、その表情は暗く苦しそうだった。 か酷い方に発展しちゃってさ。辛かったな」と言う聖の口調こそ明とに落書きされていたりとか教科書がゴミ箱に捨てられていたりとれのとに落書きされていたりとか教科書がゴミ箱に捨てられていたりといっているいのでけど、なかなかクラスに馴染

前、お爺ちゃんは亡くなってしまって……」めてくれて。お爺ちゃんがいたから耐えられたの。でも、春が来るら。でもお爺ちゃんは分かってくれた。私の苦しみを理解して、慰「お父さんやお母さんには言えなかった。絶対分かってくれないか

憎しみ。そして自殺を決意するまでの絶望、虚無感。メ、何も分かってくれない両親や自分をイジメる同級生への激しい要は語り続けた。祖父を亡くした悲しみやエスカレートするイジ

微かに微笑んだ、気がする。 鬱にも丁度いいと思っていたの。そしたらさ、先客がいたのよ」と、 所に選んだのは学校の屋上。町のことはあんまり知らなかったし復 遺書を書いて、どこか死に場所を探して彷徨っていた。結局死に場 遺書を書いて、どこか死に場所を探して彷徨っていた。結局死に場 でいるのが苦しくて、こんなことがこの先一生続いていく気がして耐 いるのが苦しくて、こんなことがこの先一生続いていく気がして耐

その男は学校の屋上にいた。丁度その日は大雨だったらしい。彼

分かったのだが、面識は無かったとのこと。服が同じ物だったのでどうやら同じ学校の生徒らしいということはは雨の中、傘も差さずに屋上にあるベンチに座っていたという。制

た。

た。

た。

た。

た。

た。

た。

た。

たの

が、

だらや

がは

がの

境遇や

今からしようとしていたことを全て話した

がい。

どうやら彼は

親と喧嘩をして家を

飛び出したのだという。

そんな

たから」
たから」
たから」
たから」
をったしね。自殺は諦めた。ちょっとでも生きたいと思ってしまっ
の。遺書も雨に濡れて読めなくなっちゃって使いものにならなく
「最後に、『死んだら負けだぞ、悔しくないのか?』って言われた

来る精一杯の恩返しだと信じて日々を生きた。 いることを語った。 りしたこと、ある日を境に突然イジメが無くなったが無視は続いて のだそうだ)の家に行ったことや、 彼の歳の離れた友達 く、そうやって彼とデートしている内に二人の仲は深まった。 掛けたという。 初めてのデートの高揚感、 そして彼と再会を約束して別れた。 新潟の中心の方へ行くと結構色んなものがあるられ ……彼の為に生きよう。 (同じ高校の卒業生、 そこで見た映画のこと。 その友達の悩みを聞いてあげた 一週間後、 つまり先輩に当たる方な それが、 その想いが愛情に変 二人で街の方へ出 今の自分が出 他にも聖は、

をした。彼の良くない噂を聞いたからだと言う。『彼は地元では名そう語った聖の顔はとても輝いていたが、しかし、不意に暗い顔

わるのにさほど時間はかからなかったという。

の知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんて平気でやる』、『少しの知れた不良で、暴力行為や窃盗行為なんで平気でやる』、『少しの知れた不良で、

して凄く怖かった。その時は一目散に家へ逃げ帰ったの」びに行こうって誘われたり。勿論断った。でも追いかけられたりもが彼と一緒にいない時を見計らって近寄ってきたり、二人だけで遊「何回か三人で一緒に遊びに行ったりもしたけど、最近になって私

もっと早く言わなかったのだと怒ったらしい。 そして聖はその日、とうとう彼に相談を持ちかけた。彼は何で

からメールが来た。
そして問題は解決したかのように思われたその数日後、彼の友達ことは無くなった。彼の優しさ、愛情を再確認出来たと聖は言う。合ったそうだ。友達は素直に謝り、以後しつこく付きまとうような彼の行動は早かった。直ぐにその友達を呼び出して三人で話し

来るなら安心だと思って行くことにしたの。学校が終わった後、一ずっと見たいと思っていた映画のDVDだったし何より彼も一緒にことがあった直ぐ後だったから彼に警戒するように注意されたけど、誘ってあるから是非来てくれっていう内容だったの。正直、あんな「それは、この間のお詫びに家に来ないか、DVDを借りたし彼も

しばらく会えないかも、って言われていたから」しょっちゅうあるから気にしなかったの。それに、最近忙しいから応彼にメールしてみたのだけど返信は無かった。でもそんなこと

そうだ。 るだろうし、彼もそこで待っていると思ったからついていったのだ 言った。最初は警戒したが庭なら外から大声で叫べば誰か来てくれ 聖に、君にどうしても見せたいものがあるから庭まで来てほしいと 見えないわ、 たから自分が新しいのをあげたんだと言う。 彼の靴は無かった。聞くと、 と思ったのだそうだ。まず玄関に靴は三足くらいあるのに見慣れた いの後にその家に入るのは初めてだった。 その家には何度かお邪魔したことはあったそうだが、 と言ったら庭の方にいるよって返され、 前に履いていたのは相当古い 家に入った時 それにしては彼の姿が そして友達は 例 ヤツだっ おかしい 0) 話し合

その時の恐怖を思い出したのか、聖は体を震わせて泣いていた。ば、そうすればあんなことにはならなかったのに……」「あの時直ぐ彼に電話とかすれば良かったの。もう少し深く考えれ

その友達について庭に入ると、庭の隅に一輪の花が落ちていた。ハマナスの花に吸い込まれる様に落ちた。数滴の涙は闇に吸い込まれ、小さな波紋を描いて消え、数滴の涙は

それは聖のよく知っている花だっ

たのだ。

の前が真っ暗になって何も見えなくなったけど、音や感覚だけはやれて痛みが走って。何がなんだか分からないまま私は倒れたの。目か聞こうと思ったの。そしたら突然頭に強い衝撃が襲ってきて、遅「私はそれを拾い上げて、どうしてこんな処にこれが落ちているの

けにはっきりしていたわ」

たい息遣いや土を掘る音、自分の体が土の上を移動する感覚や何 たの人は気が付いてくれなかった。光が消えると、私はまた闇の中 での人は気が付いてくれなかった。光が消えると、私はまた闇の中 での人は気が付いてくれなかった。光が消えると、私はまた闇の中 での人は気が付いてくれなかった。光が消えると、私はまた闇の中 で、この花を抱えていて倒れていたわ。どうやっ いが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。 いかが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。 いかが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。 いかが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。 いかが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。 いかが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。 いかが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。 いかが被せられる音、そして嗚咽に混じって自分の名前を呼ぶ声。

もらえると、そして自分は生きるのだと。そして、だった。それでも彼女は希望を捨てなかった。絶対誰かに見つけて涙も枯れることは無かった。ただ、空虚さと寂しさが募るばかりても、また別な光を探し、そこにいる人に助けを求め続けた。声もそれから聖はずっと光を見つける度に叫び続けた。その光が消え

「そしてあなたと出会った」

目を逸らしながら問う。

世別の声を聞いて夢の中で助けを求めてきた少女を探しに見知の中であらしながら問う。

世別の声を聞いて夢の中で助けを求めてきた少女を探しに見知の中であらしながら問う。

世別の声を聞いて夢の中で助けを求めてきた少女を探しに見知とならしながら問う。

「多分だけど、私はまだ死んでない。仮死状態っていう感じかな?「それで、一体此処は何処? 君は今、どういう状態なんだ?」

からだと勘違いしたのでしょうね。そして此処は私の夢の中。此処きっと体は今土の中だと思う。彼が私を埋めたのは、私が死んだ

で私が見た光はその人の夢に通じていたのだと思うの。

こうして私はあなたと話せることに成功した」して呼びかけた。なかなか気付いてくれなくて歯痒かったけど、今、かは分からないけれど、私はあなたの夢に通じている光を何度も探か時の中で、と言ってもこの暗闇の中でどれ程時間が経ったの

「つまり、僕は今、君と夢を共有している……」

「でもこれはあなたにとっての夢であり、私にとっては現実でもあ

る

に。

なら、もし聖がこのまま一生この『現実』から目覚めなかったら、なら、もし聖がこのまま一生この『現実』から目覚めなかったら、のまま一生この『現実』から目覚めなかったら、なら、もし聖がこのまま一生この『現実』から目覚めなかったら、なら、もし聖がこのまま一生この『現実』から目覚めなかったら、

「僕は、君を見つければいいのかい?」

そう言うと、聖は必死に僕にしがみついてきた。

よ……っ」ど、私、まだ生きたい。そして、彼に会いたいの。死にたくないの「私を見つけて、起こしてほしいの。一度は捨てようとした命だけ

いてある手に自分の手を重ねる。(僕の服から手を離し、震える肩を抱いて俯いた。僕はその肩に置

僕は力強く頷く。 に見開かれた。「本当?」という声は今にも消えそうだ。それに、「見つけるよ、君を」そう言うと、ぱっと顔を上げたその目が驚き

「でも私、あなたに何もしてあげられない」

るってもんさ」だ。それに、目の前で泣いてる女の子をほっとくなんて、男が廃だ。それに、目の前で泣いてる女の子をほっとくなんて、男が廃「見返りなんかいらない。僕はただ、もう中途半端でいたくないん

を願うなんて、今まで無かった。僕はその笑顔を、現実の世界で見たいと強く思う。こんなにも何か聖の頬に涙が流れ、しかし次の瞬間には花の様な笑顔が咲いた。

その願いの為に僕は訊ねる。

「君は、何処にいるの?」

きっと、

私は

彼女は、その場所を口にする。僕の知っている場所を。

*

*

て立ち止まり、様子を窺う。この三日間ずっと同じことをしていた。今日は朝からおじさんとおばさんは出掛けている。僕と食卓の吉人今日は朝からおじさんとおばさんは出掛けている。僕と食卓の吉人外出の準備をし、玄関へ行く途中、食事中の吉人さんに挨拶をした。

携帯電話とスコップとカッターナイフ……よし、準備はOK。緊張で、意味も無くバッグの中身を確認。スケッチブックや鉛筆、

登って地面に着地する。そこは花岡家の庭だ。戻って来ないのをしっかりと確かめてから裏口へと回り、塀をよじを出てきた。僕とは反対側の角を曲がる。五分待ち、吉人さんが十分後、三日間一歩も外出しなかった吉人さんが、数十分後に家

「此処か……」と静かに言いつつも心臓が暴れている。深呼吸し震「此処か……」と静かに言いつつも心臓が暴れている。深呼吸し震「此処か……」と静かに言いつつも心臓が暴れている。深呼吸し震「此処か……」と静かに言いつつも心臓が暴れている。深呼吸し震

た。「……あ」という声が漏れる。で呟く。動悸が止まらない。さらに土をすくうと、白い何かが見えで呟く。動悸が止まらない。さらに土をすくうと、白い何かが見え

して色素の薄い、だが整った顔が現れた。それは紛れも無く、夢の払う。そこだけ土の量が少ない。白い喉、薄く開いた蒼白い唇、そ石の一部の様に掘り起こされる。次に、手から上の土をゆっくりといそれは組まれた人の手だった。それの下の方から土を払い退けているがりと、慎重にそれを傷つけないように土を退け、見えた白

中で出会った、しかし現実の荒川聖。

で小さな感情が渦巻く。その感情の名を、僕は知らない。土で多少茶色くなってはいるものの汚いとは思えなかった。胸の中ているように横たわるその、見るからに血の気が失せた蒼白い顔は静かだった。世界から音が消え失せた感覚に胸が苦しくなる。眠っさっきまであんなに暴れていた心臓が止まってしまったみたいに

きている。生きている!と僅かだが浅い呼吸を繰り返しているのを確認出来た。大丈夫、生と僅かだが浅い呼吸を繰り返しているのを確認出来た。大丈夫、生また心臓が暴れだすのを意志の力で押さえつけ、口に手をかざす

きっと奇跡か、神様が助けてくれたのだ。所為か、顔に乗っていた土が少なかった所為か。分からないけれど、中でどうやって小さな呼吸を続けていたのだろう。土が冷たかったないでいた。未だに死んでいないのが信じられない。一体この土のないでいた。未だに死んでいないのが信じられない。一体この土の

やがて我に返り、鞄の中から携帯電話を取り出して一一九番を押

鮮血がセーラー 締めた。 分の身に何が起こったのか理解出来ず、赤く染まった手を見つめ く死んでいるように眠っている聖の上に倒れる。 向くと同時に目の前が真っ暗になる程の衝撃に襲われ、 (ッとなって土を踏みしめる音に気付いた時には遅かった。 聖の柔らかい腹の上に重くなった頭が落ちる。 …ッ!?」 その手は見た事も無い鮮やかな色に染まってい -服を紅に染めてゆく 激痛が走り、 声を上げることも出来ず唇を噛み 衝撃が走った頭に 流れ落ちる なす術もな た。 振り 自

狐の様な男がいた。ちかちかと明滅を繰り返す目を凝らして見るといが聞こえた。なんとか上半身を起こし首を回すと、そこには化け制服を汚して申し訳ない気持ちになっていると、背後で荒い息遣

それは僕の良く知る人物で……。

事柄はそれじゃない。

「吉人さん、痛いじゃないですか」どうにかこの場を乗り切らなければと思い、上手く回らない舌でどうにか言葉を紡ぐ。それに吉人お前が、此処にいる」と顔を近づけて一言一言区切る様に話す。僕お前が、此処にいる」と顔を近づけて一言一言区切る様に話す。僕押し込まれていた。僕は今までこんな暗い瞳を見たことがない。それに古人

「吉人さんこそ、何で此処に……?」

「お前の行動が怪しいから見張ってたんだ」

顔を歪ませて、吐き出すように喋りだす。見張られたのは僕の方だったのか。詰めが甘かった。吉人さんは

「聖の似顔絵を見た次の日からな。そしたらお前は絵を描くより聞

角で見張ってたら案の定庭に向かってくじゃねぇか。 したんです? 言葉を考えようとすると口が勝手に「吉人さん、何で聖を殺そうと く他人事の様な気がする。ズキズキと痛む頭だけが僕の現実の感覚 されている様で恐怖を感じた。ただその恐怖も今の状況も全てが遠 上に饒舌に語る吉人さん。背後に渦巻いている狂気がその瞳に凝縮 が聖を掘り返してたから、 くさせる物を探すのに手間どっちまってよ。此処に来た時にはお前 これはやっぱ聖を探してるなって思ったんだよ。今日も家を出た後 き込みしたり何かを探す様に歩いてることの方が多いじゃねぇ だからいつもより少しだけ冷静になれる気がしたが、 嫌いだからですか?」フライングした。 ホント、ビックリだわ」なんていつも以 お前を大人し 頭の中で か

んは更に愛憎の入り混じった言葉を吐き出す。引き戻された。口は災いの元とはまさにこのことだろうな。吉人さ鼓膜を震わす程の大音量。その怒声に一瞬だけ僕は現実の感覚に

「嫌いなわけがないだろ!!」

「最初に会った時から俺は聖を愛していた!」あいつは俺が何を話「最初に会った時から俺は聖を愛していたれないっ。聖が俺の傍にいてくれない、俺を愛処に帰ってきたんだっていう話をした時も、大変だったんだねと優心に帰ってきたんだっていう話をした時も、大変だったんだねと優の愛は受け取ってくれないっ。聖が俺の傍にいてくれない、俺を愛しても受け止めてくれないっ。聖が俺の傍にいてくれない、俺を愛しても受け止めてくれない。とが東京で傷害事件を起こしちまって此してくれない。なら、なら―――」

吉人さんの顔からみるみる表情が無くなる。

その後に表れた表情

あの日、庭の隅でハマナスの花を愛おしそうに眺めていたその顔で。目は僕を見てはいない。僕を透かして眠っている聖を見つめている。は、あの意味不明の恐怖を感じさせる笑み。僕は凍りついた。その

そして、自分の傍にいてくれるように、埋めてしまえばいい――殺してしまえばいい。マコトではなく、俺だけを見るように。

あの日、その狂気に僕は恐怖したのだ。それは純粋な狂気。愛に狂った男の瞳。

きながら、それでも僕は言う。 なものが奪われる悲しみと痛み、 か?」と、 「聖は、 吉人さんは再び能! 他の誰のものでもない、 喉から絞り出すような声で問うその瞳が揺らいだ。 面の表情に戻り、 聖自身のものだ。 届かない想い。 「お前も、 切なさと共感を抱 俺から聖を奪うの 吉人さん、 あな 大切

これ以上自分を追い詰めないで下さい。どうかもうこんなことは止めて下さい。

たのしていることは間違ってます。

だから」

吉人さんまで赤く見えるのは目に血が入ったからかな。そう言う前に、僕は地面に放り出された。

吉人さんの息遣いが聞こえる。頭が痛い。ズキズキと脈打つ様に。遠くなっていた感覚が徐々に引き戻される。現実を再確認。

吉人さんが石を取り上げた。僕を殺す為の凶器を。

僕は、死ぬのだろうか。

狐がこいつも殺すよ、と聖に呟きかける。

----嫌ダ、嫌ダ。

蘇る聖の涙と笑顔。

まだ……死にたくない!

胃の内容物を吐き出す。きったね。

『四内容物を吐き出す。きったね。

『四内容物を吐き出す。きったね。

『四内容物を吐き出す。きったね。

『四内容物を吐き出す。きったね。

『四内容物を吐き出す。きったね。

『四内容物を吐き出す。きったね。

意識だけが遠退いていく。でも痛みも苦しみも無く死ねるのはきっが首を絞めてくる。動けない。逃げられない。逆らうことも出来ずカッターを放って吉人さんが毒吐くが何も聞こえない。吉人さん

と幸せなことなのだ。

目を閉じたら、生きる意思が血と一緒に流れてゆくのを感じながら、僕は静かに

『死なないで!!』

聖の声が聞こえた。

が入り込んだ。首を回すと、さっきまで僕に馬乗りになっていた吉カッと見開いた目と数瞬間だけクリアになった意識。そこに怒声

「こんなところに聖を隠してやがったか、吉人ぉ」人さんが誰かと対峙していた。憎々しげな声が響く。

「マコト……何故此所に!? いや、その前にどうやって入ってき

「ピッキングなんてお手のものだっつの」

た!

「さっ、させるか! 聖は渡さない!」かい!」と僕を叱った。それに吉人さんが慌てた様に叫ぶ。こちらを睨みつけ、「そんなところで寝てないで早く聖を起こさんる側で金属バットを肩に担ぎ、不敵に笑う茶髪の青年。その彼が

やく辿り着いた時にはもう息も絶え絶えになっていた。それでも僕かる音を聞きながら、僕はナメクジ並の速度で聖の元へ這う。よう青年が縁側から吉人さんに飛びかかるのが見えた。物同士がぶつ「テメェのもんじゃねぇぞボケがあ!」

は聖の白い手を握り、

何度も何度も呼びかける。

聖が闇の中でそう

したように、諦めず、信じて。

「聖、起きてくれ。頼む……目を、醒ましてくれ」

笑ってくれ。 濁する。今度こそ死ぬのかな。ああ、頼む聖。起きて、もう一度、喉が渇き、声は枯れ、とうとう体を起こす気力も尽きて意識が混

合唱。一つは僕ので、もう一つは聖のものだ。続いて呻き声が咳に変わった。ひゅーひゅーと喉の奥で空気が二重だクリ、と手が動く。血塗れの僕の手が握った白い聖の手が動く。

「わ、私……生きてる?」

た。とんでもない流血シーンを見て小さく叫ぶ。ていた聖だったが、血だらけの僕と目が合った途端、焦点が定まっ乾いた血液が土と共にぱらぱらと落ちる。寝ぼけ眼で辺りを見回し仰向けの状態から上半身を起こし片手を頭に当てていた。すっかり最後の力を振り絞り、腕を立てて上半身を起こす。見ると、聖も

「たっ、大変! 大丈夫!?」

「全然、大丈夫じゃな……」

タイが無い」 「そうよね、当たり前よね。どうしましょう、救急車……あ、ケー

てながら僕を抱き締める。微かに感じる温もりに安心した。とても先程まで死にかけていた様に見えない聖が、あたふたと慌

ていた青年の顔に安堵の笑みが浮かんだ。た。二人共僕に負けず劣らず血だらけ怪我だらけである。殺気だった。二人共僕に負けず劣らず血だらけ怪我だらけである。殺気だっ横を向くと、吉人さんと青年が動きを止めてこちらを凝視してい

「良かった! お前生きて」

殺してやる!!:」

青年の言葉は吉人さんの奇声に遮られた。血塗れの石を振りかざ青年の言葉は古人さんの奇声に遮られた。血塗れの石を振りかざ行きで。

心臓の音だけが聞こえた。
バットを投げた本人でさえ口をぽかんと開けている。荒い息遣いとあっけない事態の終わりに、しばらくの間誰も動けなかった。―――バットと共に、吉人さんが声もなく崩れ落ちた。

上空を飛ぶ一羽のカラスの鳴き声が、静寂を破る。ハッとしたよりに彼は聖に駆け寄った。そうだ、彼は確か、僕が村上の高校で聞象的な学生、サヤバヤシマコト。聖の命の恩人で……彼氏だ。象的な学生、サヤバヤシマコト。聖の命の恩人で……彼氏だ。

「……あ、何にユイツ」と言って、洟を啜った彼は聖に抱かれてい「……あ、何だコイツ」と言って、洟を啜った彼は聖に抱かれてい

「お、おうよ」「そうだマコト、救急車呼んで、早く!」

情けない。やっぱり僕は中途半端だ、と。そんな会話を聞きながら僕は思った。結局、何も出来なかったな。

でしょ」と続けられた。
たしかいないじゃないのよ」と返され、「しっかりしてよ、男の子込んだ。それに僕は間抜けな面で「え、僕?」と訊ねると、「あな聖が怒った様に、「ねぇ、聞いてる?」と寝ている僕の顔を覗き「本当に、助けてくれた」 誰かが呟いたが、反応は無かった。

顔には花の様な笑顔。願いが、叶った。

フェードアウトしていく意識の中、優しい声が僕を包んだ。

「ありがとう、私を見つけてくれて」

それが花岡家での、僕の最後の記憶。

* *

しい。 めると傍には姉貴と聖とサヤバヤシマコトがいた。 聖は肉体の衰弱が酷かったそうだ。それでも入院は数週間で済むら そうだ。僕達三人の怪我はとりあえず命に別状はないらしいけど、 僕とサヤバヤシマコトが吉人さんに負わせた怪 吉人さんは今、殺人未遂や傷害の容疑で警察のお世話になっている。 様に暴れる吉人さんを取り押さえ、 あ の後、 その間、 騒動を聞きつけた近所の住民が意識を取り戻して狂った 僕は病院のベッドで眠り続けていたという。 警察と救急車を呼んだそうだ。 我は 正当防衛になる 目が覚

> れを遮った。 と聖は涙目で俯く。僕が口を開きかけた時、サヤバヤシマコトがそ「ホントにごめんね、こんなことに巻き込んで大怪我させて……」

関わるなっつったろ」「馬鹿言うな、聖。こういうのを自業自得って言うんさ。聖の件に

入った。
やっぱり君だったのか、と言うと、彼は仏頂面で説明モードに

こじ開けて家の中に入った……。 戻ってみると吉人さんの怒声が聞こえたのでこれはチャンスと鍵を 行したのだが上手くまかれてしまったらしい。 家に入ったのを不思議に思った。僕は放っておかれて吉人さんを尾 いう彼なりの心遣いだった。 た。もし僕が吉人さんの逆鱗に触れたらただでは済まないだろうと その忠告を無視された為、やむなく吉人さん宅の張り込みを開始し とがないから早く帰れ、と釘を刺すつもりで叫んだらしい。 たそうだ。そして、僕にこれ以上吉人さんと聖に関わるとろくなこ だが僕が聞き込みと絵を描いているだけだと知り僕への警戒は解い ようとしたら家の直ぐ側で立ち止まり、 マークしていたが、その吉人さんが僕を尾行していたのだそうだ。 彼は最初から吉人さんを疑っていたらしく、もともと吉人さんを あの日も僕を金属バット片手に尾行し 以上が彼の証言である。 吉人さんが出てった後また そして再び花岡家に

「そうか、ありがとう。助けてくれて」

「俺は聖を助けたのであってお前を助けた覚えはない」

だ」と呟いた、と思ったらハッとしたように俺を睨んだ。そしてお礼を言ったのに、彼は「これだから都会っ子は軟弱で嫌いなん

言うんならいいさ」と舌打ちをしてそっぽを向いた。わさぬ口調で口を挟んだ。彼はまだ不服そうだったが、「聖がそうていると、「私がそう呼んでいいって言ったのよ」と聖が有無を言ろう?」そうだろう?」と凄まれる。僕が何て答えていいか逡巡し「お前何で聖を下の名前で呼んでんだよ。会ったのは今が初めてだ

「あのさ

た。 その横顔に僕は喋りかける。彼は面倒臭そうに再びこちらを向い

「あんだよ」

「サヤバヤシマコトって、どういう字書くの?」

「……剣の鞘に林、マコトは新撰組に出てくる誠だ。どうだ、良い

名前だろ」

僕の方も自然と笑みが浮かんだ。言って僕は頷いた。鞘林誠はヤニで黄色くなった歯を見せて笑う。言って僕は頷いた。鞘林誠はヤニで黄色くなった歯を見せて笑う」とげな顔をして胸を反らしている。「うん、かっこいいと思う」とっつっけんどんにそう言ったと思ったら、次の瞬間には少し誇らし

、溜息を吐いた。た。開食も両親を迎えに行くと言って出て行く。一人残された病室に。姉貴も両親を迎えに行くと言って出て行く。一人残された病室しばらくして聖の両親がやってきてお礼を言い、病室を出て行っ

再び眠りに落ちた。 何はともあれ、これで事件は終わったらしい。そう安心して僕は

「ありがとう」

そうとしている。懐かしい恐怖を覚えつつ、僕は手を握り返す。聖は僕の手を握ってそう言った。付き添いの誠は僕を視線で射殺。

れないのだそうだ。だが、誠との交際は続けるつもりらしい。 荒川家は、あんな事があったからもしかしたら東京に帰るかもし

「離れたって、私は誠の事が好きだから。もし、東京で会ったらそ

増したのでむしろ蒼くなる。 悪戯っぽく笑う聖。顔が赤くなるのを感じたが誠の殺気の威力が

の時は宜しくね」

新幹線がもう直ぐ発車するとアナウンスが聞こえた。

「それじゃあ、行くね」と言うと、聖は名残惜しそうに「うん、ば

いばい」と答えた。

振り切って新幹線に乗り込んだ。窓の外で聖が手を振り、誠にあっべーをして返した。小突かれる前に、此処に残りたくなる気持ちを手ぇ出したら殺しに行くかんな!」という誠の言葉には、あっかん「もう変なことに巻き込まれんじゃねぇぞもやし。あと東京で聖に

扉が閉まり、新幹線が発車した。ホームがどんどんと遠ざかり、かんベーをやり返された。僕は笑って手を振り返す。

二人の姿は見えなくなった。

「……さようなら」と僕は誰にも聞こえない声で小さく呟く。

じゃないの~?」
「あんたよく新潟まで行く気になれたわね。あの子に恋してたん

い笑みを浮かべている。 隣に座っていた姉貴が突然そんなことを言ってきた。顔に意地悪

*

*

ので僕は耳を塞いで緑ばっかりの窓を見ることにした。「はぁ?」何言ってんのさ」と取り合わなかったが、しつこく喚く

僕は失恋したんだな。ちょっと切なくなる。局、僕は告白することもないまま身を引いたのだけど。あ、そうか。だ。そうでなかったら最初からこんな危険な真似はしていない。結たと自覚していたから。死んでも彼女を救いたいと、そう思ったのたと自覚していたから。死んでも彼女を救いたいと、そう思ったの

愛らしいピンクの封筒で、中には一枚の便箋とハマナスの花びらがふとポケットの中に何か入っているのに気が付いた。それは、可

数枚入っていた。

三人でもう一度会おうね。 プリンセス聖』 いつかまた、『助けてくれてありがとう、へなちょこナイトさん。いつかまた、

「いつかまた、三人で……か」

かい。そして、二人は僕に向かって笑いかけてくる。が仏頂面のまま聖と手を繋いでいた。でも心なしかその表情は柔らんできた。もう孤独と恐怖の所為で泣いてはいない。その隣には誠僕はハマナスの花びらを指で摘む。目を閉じると聖の笑顔が浮か

流れゆく景色に、僕は呟いたのだ。そしていつか、あの日のことを笑って話そう。「一度なんて言わずにさ、何度でも会おうよ」

*

*

*

たことだ。もしたけど彼女を助けることが出来た。どれも一人では出来なかっもしたけど彼女を助けることが出来た。どれも一人では出来なかっに恋をして、行ったことの無い土地に彼女を探しに行き、死にかけ僕はどこにでもいる普通の高校生だ。そんな僕が、一人の女の子

恐ろしくなる。

、いるもの。もう一つの未来の自分を見せ付けられたようでたのかもしれない。もう一つの未来の自分を見せ付けられたようで誰しも持っているもの。もしかしたら、ああなっていたのは僕だっ僕はそこで愛情が狂気に変わるのを見た。吉人さんの中の狂気は

この出来事はずっと忘れることは無いだろう。けれど、僕は一生色褪せない思い出と友達を手に入れた。

僕の物語はこれでお終い。

でも僕の夏休みはまだ始まったばかりなのだ。

ようか。の名前を聞く時は自分から名乗るのが礼儀らしいから、僕から始めの名前を聞く時は自分から名乗るのが礼儀らしいから、僕から始めそうだ、今更だけどまだお互い自己紹介をしていなかったね。人

僕の名前は----

了

新たに涼し

須藤 登茂子

てよかったと思う。 自新線に乗って駅を二つ過ぎたころ、電車は鉄橋にさしかかった。 白新線に乗って駅を二つ過ぎたころ、電車は鉄橋にさしかかった。

ちの住 のに。 ずだ。 隣りにこの地出身という夫妻が住んでいた。もう三年にもなろうか 賀北である。 と決める たびたび立ち話をした。 脇にコスモスが揺れている。さっぱりした気性の奥さんとは門口で 定年を機に郷里に戻り家業を継ぐと越して行った。今は、 名の読めなかった新発田市があった。忘れかけていたが、 ぶりに田園風景を見たいと昨夜、 ンデン山から見渡す限りの水田を眺めたことなどを思い出し、 七十半ばを越してから夏は益々苦手になった。八月生まれだと言う この夏も何処へも出かけず、 城下町と酒どころの街をにわかに身近に感じ、 数日来の野分に、やっと人心地がついた。 |まいになったが、この季節、以前と変わらず木犀が香り玄関 地図を開 くと新潟市から北に広がるこの地域に昔、 別れ際にもらった新住所が抽出しにあるは ひたすら暑さが過ぎるのを待っ インターネットで出会ったの かつて、 行く先をここ 若い人た 佐渡のド 家の三軒 が阿 た。 地

> スが、 た。 でもあったろうか。しばらくして、 の間からススキやコスモスが丈高く伸びている。 平行する赤錆びた線路に気付いた。 各駅停車で鄙びた駅舎などをゆっくりと眺めることができた。 な説明に時間を忘れ特急に乗り損なった。 「浜から三時間ほどで新潟駅に着き、 赤ひと色に変わったとき、 思いもかけない記憶が頭を過ぎつ 廃線の所々に咲き乱れるコスモ レール周辺に雑草が繁り、 観光案内所をのぞく。 しかしそれが幸いしてか 以前は、 貨物線で 枕木

「階段は滑るから気をつけなさい」

母屋から、母の声が響く。

なかは、入り口からの日の光だけでうす暗く、湿気を帯びた空気が怖々と地下に降りた。家族五人が入るとほとんど余裕のない部屋の七段ほどの狭い階段を降りる妹に続き、弟の体を支えながら私も

「忘れものを取ってくる」

流れている。

の湿 ナイフを使って何か作り始める。 を食べた。妹が宝物の入った菓子箱から〈きびがら〉 紙で作った花柄の皿に豆を取分け、三人でままごとのようなおやつ の上には煎り豆と紙皿が載っている。 肩に掛け、いつもの木の菓子箱を大事そうに持って戻ってきた。 辺りを見まわし、 妹は、また階段をかけ昇り母屋に消えた。 !ったにおいが押寄せてくるようで居心地が悪かった。 床に寝転び、 楽しそうだ。 私だけが、 茶櫃の茶碗を並べ、 三歳の弟は物珍しげに 周りの板壁の間から土 妹が麦茶の入った瓶を をとり出 防空壕。 母が包み

た。 帯とあって襲撃は必至と、防空壕も早くから各家庭で作り始めてい 小さなコスモス畑になっていた。 を蒔いた。七月末、赤い花が咲き、 異様な光景だった。母が、その盛り土のうえ一面に、 がこんもりと盛り上がり、トタンを貼った入り口の扉が鈍く光って 上で遊ばないようにときつく言われた。庭隅とは言え、真新しい土 上を掘りかえした土で分厚く覆った。両親から、子供たちは屋根の と移し替えていたのを覚えている。支柱を立て、屋根を作り、その の木の横を掘り続けていた。母が、大事にしていた草花を、 情報が流れた。私の生まれ育った日立は、北関東でも有数の工業地 年目に入ると戦局はとみに厳しくなり、敵機の本土襲来もま近との のときに真珠湾攻撃をきっかけに太平洋戦争が始まった。 私の家でも、 から半世紀以上も前のこと。 父が市役所から戻ると、日の暮れまで庭のいちい 一九四 母屋から見ると防空壕は消え 年、 私が小学二年、 コスモスの 戦争も三 せっせ

風に揺れるコスモスの傍で妹が言った。

「この中に飛び込んでみたい」

叱られるよ」

私も飛び込みたかった。(そう言いながら、茎が絡み合うほどぎっしりと咲き乱れる中に、

この年、コスモスはいつまでも咲き続けていた。うか、と父方の伯母から手紙が届いたのはこの頃だ。――九月からの学校に間に合うように、夏休み中に疎開したらど

て六分とあった。

「大分とあった。

記憶が浮かんでは消えてゆく。

茅葺の門を入ると右手に書院が見える。沓脱ぎから縁に回ると二記憶が浮かんでは消えてゆく。目のだこかに、遠くで鳴いてる蜩のように、古いて染入ってゆく。頭のどこかに、遠くで鳴いてる蜩のように、古いに染入ってゆく。頭のどこかに、遠くで鳴いてる蜩のように、古いに染入ってゆく。頭のどこかに、遠くで鳴いてる蜩のように、古いに染入ってゆく。

それでも今年は出来る気がした。かったが、やり通したためしがない。数多い蔵書ならいざ知らず。夏、せめてもと、本の整理を思い立った。今まで幾度となく取りかだった。あの本のせいかも知れない。外出もせず篭り過ごしたこの半世紀も前のことが不思議なほど鮮明に思い出されたことが意外

気付いた。いまさらに驚くなどのんきな娘である。ながら墓碑銘を読み、享年八十歳の母の年齢まで幾年もないことに先月、両親の墓参りをかねて郷里である日立へ行った。草を引き

ルに過ごそうと、幾年来思って来たことか。しかし家の中に散在す自分の晩年は、身の周りのものを最小限にして、心身共にシンプ

のも 分し、 整理を始めた。 る し大方を片付けた。そんな中で探していた一冊が出て来た 番 思い出があるのか無いのか分からないような飾りものなどを処 のは充分すぎるほど揃っている。 の 難 衣類を少し整理しただけでいつも終わっていた。 が題だ。 幸い住まい近くに市の図書館があり、 母の享年をお札のように頭の中に貼り、 これを機にと辞書類だけを残 私が読む 少し本 本の整理 程度 気で

なく、 年八月が来ると思い出しては探していた本だった。 史料のほかに、 、 来た。 戦災と生活 戦後三十年を経て上梓されたこの本を持ち、 本はそのまま仕舞込み、 当時、 子育てに明け暮れていた私は、 一般に呼びかけて集めた手記が載り、 日立市民の記録」と題する六百頁ほどの本である。 行方が分からなくなった。 父の話を聞く余裕も 父は私の住む横浜 父の頁もあっ 後年、 毎

うちに、十二歳だった私の耳に聞こえた、あの夜の話を思い出す。に包まれて重なる遺骨。初頁から悲惨な写真が並ぶ。父の頁を読む工場群、砲弾になるのか金属として回収された夥しい寺の鐘、白布やっと、この一冊を開く。一面焼け野原の市街、鉄骨だけになったその時から、また三十年が経ち、父も母も疾うに亡くなった今、

に疎開していた。 家に残し、母と私たち四人は、日立から五十粁ほど離れた山間の村家に残し、母と私たち四人は、日立から五十粁ほど離れた山間の村庭に作った防空壕の上に咲いたコスモスが末枯れる頃には、父を

空と海からの攻撃に街は壊滅状態となった。村に届く被害の様子も者を出した。そして七月に入って艦砲射撃、その二日後の爆撃と、終戦となるまえの六月、日立市は敵機の襲撃を受けて多くの犠牲

たと。 あとに堪え泣く声が伝わってきた 理解した。しばらくして会話が途切れ、 れに聞こえた。 る火が敵機の目標になると心配した 溶鉱炉や火薬庫跡の急造の火葬場だった。 鳶口でトラックに掻揚げ運んだこと、 と母が小声で話すのが聞こえた。 が寝しずまった後も、 が自転車で戻ってきた。 あいまいで、 爆撃での死傷者は数え切れず、 父の生死は分からない。 布団の中で震えながら、 私は目が冴えて眠れなかった。 寄ると異様な臭いがした。 死体の処理に追われて帰れなかっ ――そんなことが、とぎれとぎ 数台のトラックの行く先は、 煤まみれ、 週 母が何か受け取った気配の 私は戻った時の父の臭いを 週間が経り 夜まで真っ赤に燃え続け 土まみれの死体を ち、 その夜 隣の 痩せた姿の父 部屋で父 妹たち

警報 と。 送ってしまった。 二十代で三人の子供を抱え、 に高鈴連山を見た。 心のショックは大きかった。 に終戦の日のことが書かれている。 を封印していたとも思えないが、 とは、後年になって何かの折に母から聞いた。 艦砲射撃を受けた夜、 この本の編者や手記を寄せた大方も鬼籍の人となった。 このたび防空壕に避難していただろう父の生活も聞くことなく見 高鈴連山が青いのをはじめて見て涙が滲んだ、 防空壕の中で父が私たちに遺書を書い 馴れない土地で暮らした母の気持ちも 翌朝、 多く語らなかった。 役所に向かって歩いているとき ただ勝とうとして努力して…… 父も母も戦時のこと 父の 頁の最後 まだ たこ

モスが花をつけたかどうかは今となっては知るよしもない。戦争の悲惨さを伝える一冊となった。庭の壕の上で、二年目のコスいま手元に残る「市民の記録」だけが、幼い私の周辺で起こった

う。タクシーを呼んで、途中酒造元で夫への土産を買った。 遠く地面からの日の反射に、かすかな眩暈を覚えた。そろそろ戻ろ 説明のあと、床の石落としの仕掛けを開けてくれる。覗き込むと、 外観が美しい。ボランティアの人が門の二階櫓へと案内してくれた。 はい。ボランティアの人が門の二階櫓へと案内してくれた。 はい。大手門と隅櫓の白壁が日に映え、金沢城でも見た海鼠壁の り、新発田城址に向かった。広い芝生の向こうに、堀の石垣が り、新発田城址に向かった。広い芝生の向こうに、堀の石垣が

増え田園風景が遠くなってゆく。 住宅がたのだろうか。それともうたた寝で見落としたのか。沿線に住宅が だのだろうか。それともうたた寝で見落としたのか。沿線に住宅が で外を見続けたが、廃線も、その中に咲くあの赤いコスモスのひと し新線は意外に込み合っていたが運良く窓側に座る。目を凝らし

外出は、忘れものを取りに行ったような一日だったと、今、思う。なくその字面に惹かれた阿賀北の風景を思い出しながら、あの日のと流れる阿賀野川、風雪を刻む大手門の梁、パソコンを開きわけもあのコスモスが群れ咲いていたのは何処だったのだろうか。滔々

創作童話・児童文学部門 大賞

ば あ ちゃん

 \bigcirc

花 絵

海 渡

夕 姫



めの話をした。 んとわたしは、 いったら、 わたしは、ば 動きちゃ そ れ なのに、)あやめが大好きで、以んが嫌い。昔は好きた 今のば 昔は好きだったけれど。ばあち あちゃん が、 前は よくふたりであや わたしに聞くこと

――「久美、おれの金知らんか」

٤

と言いあらそいが始まる。こんなことがずっと続いていて、わたし しかも、おかあさんにも同じことを聞く。そのうち、おかあさん

湖の は正直言って、うんざりしている。 ば あやめを見に出かけた。これは、 あちゃんが変わってしまったのは、一 ばあちゃんと、 おとうさんとおかあさんと、 我が家の恒例行事なのだ。お 昨

とうさんは、 来年は 久美子は 車を運転しながら、 受験 生だから、 あやめ な んて見に来れないよな

と言うので、わたしは、



年の六月からだ。

た

家族みんなで瓢

は三月じ p な に 来 れ るよ

٤ 空のう N 切 N てき 高 れ ところが、 ずにわ いところ 雨 すい れ 時 11 に 青。 なんだろう。 L た お から瓢 ばあちゃん 7 か は は あ 瓢 めずら 湖 駈 さ 湖 h 0 け 水面 出 を は はこの しく 見下ろす。 L 笑 見 心が透きとお た。 2 は、 晴 T しまったんだ。わたしは 歩道橋 太陽の光できらきら光っていた。 れた日だっ W た。 鮮 を一 るようだ。 やかな紫、 気に た。 駈 車を降りると、 白、 は上が

緑、そして、

な

り、いち

とう

3

N た。

が

だ

到

L

ばあちゃ

んは担架に

乗

べせら

れ

と運 ちゃ

T

VI 救

った。 急車が

は、 て、

ただ、ぼう然とし

てい

た。

ば

あ

命 病

别

条

は わ

ったけれど、それからだ。

変わっ

た

0 2 ば 呼 ま

院 に

から

戻

2 なか たし 着

7

きたばあちゃ

んは、

以

前 の優

N

で

は は。 は、 れ N

な

3

なっ

てい

た。

お

金を盗っ

た」と、

わたしたち

き返し

わりに

は、

人が、

何事か

と集まってきた。

やが

道

0

上が

0

で、

急に

倒

れ

てしまったんだ。わたし

あかっ

た。

わ

て、お引

方 な 者あつか 11 のよ」 U する。 と言うけれど、わたしはほんとうに、する。おかあさんは、「ばあちゃんは は ば病 あちゃ 灵 たぎ か んが

しそうだった。 0 仕 あ 一つだ 瓢 11 湖 やめを見に になってしまった。 のあや け、 めが好き」ということだ。わたしたちは、ばあちゃんは昔と変わらないことがある。 出 が 好き」ということだ。 かけた。 瓢 湖に着い たばあちゃんは、 わたしたちは、 とてもうれ 2 年れ \$ は 瓢湖

ようとした。 袋を高 誇 袋 L かし、 0 次々と入れていく。 々と掲 ばあちゃ ばあちゃ げ た。 2 花をむしり取って、持ってきたらし んは、 は、 わたしたちは驚いて、 とんでもないことをしで あや 8 0 花 でい 2 ぱい ばあちゃ かし になったビニ た んを止め いビニー 0 だ。 咲

微笑ましかったかもしれない。けれど、わたしはほって子どものように無邪気に笑うばあちゃんは、 いでしょう!」 わたしは、込み上げて 他 人から見た

久美ちゃん、ほら、

きれ

ろ! ばあちゃんな

N が、 鳴ってしまった。昂った感情は、涙になって落ちた。う! ばあちゃんなんか大嫌い!」 わたしの そばにやってきて、 なだめるように、

かあさ

と言った。ばあちゃ 「久美子…」

あや ニコ の文字があった。 0 久美ちゃ 絵 そ お を見つ 笑っているように見えて、めの花で埋めつくされた。 葬 れからまもなく、 隅 式 0 ほうに、 から んが、 け た。 何日 ばあちゃんが鉛筆 それ かたって、わたしは、 Vi んはきょとんとしてい つもきれ ばあちゃんは亡くなった。 U わたしはとてもとても、あの日 、下の方から、ドンとなあやめの花を見られ 筆で書いたらし N に あがば あちゃ めの た。 花を貼 11 2 ばあちゃん 0 切のなよ 3 り付 部 ますよう に 屋 で、一 やふ けた かっ うに 0

れを

見たわたしは、

心臓

を、

ドンと突き上げられ

に

に

\$

枚 0

た。 = == 棺

そうだったのか

あちゃ しれ ばあちゃんの花絵を手に、 めの ことを言ってしまっ か 西 そうだっ な 花 に 日 んはい を摘 押し寄せた。夕日の 0 射すば わたしのために。 2 でいたのか。受験で、あやめを見に行けなくなるかも ないのに…。 か。 あちゃんの たんだろう。いまさら毎りしご・・たんてひどいっために。それなのに、わたしは、なんてひどい あの日、 いつまでもいつまでも立ちつくした。)オレンジ色の光に包まれて、わたしは 部屋で、 ば あちゃんは、 後悔 光に包まれて、わたしは、 が、 ひたひたと波のように わたしの ために、

色の梅雨空の隙間に見えたかすかな青空は、ばあちゃあちゃん、ありがとう」

んの笑顔

湖

0

ほとりで、

ながら、精いっぱい心で叫ぶ。あやめと共に空を見上げる。い

そしてまた六月がきた。

あやめの

咲き誇る季節

が。

わたし

は、

つかばあちゃんに

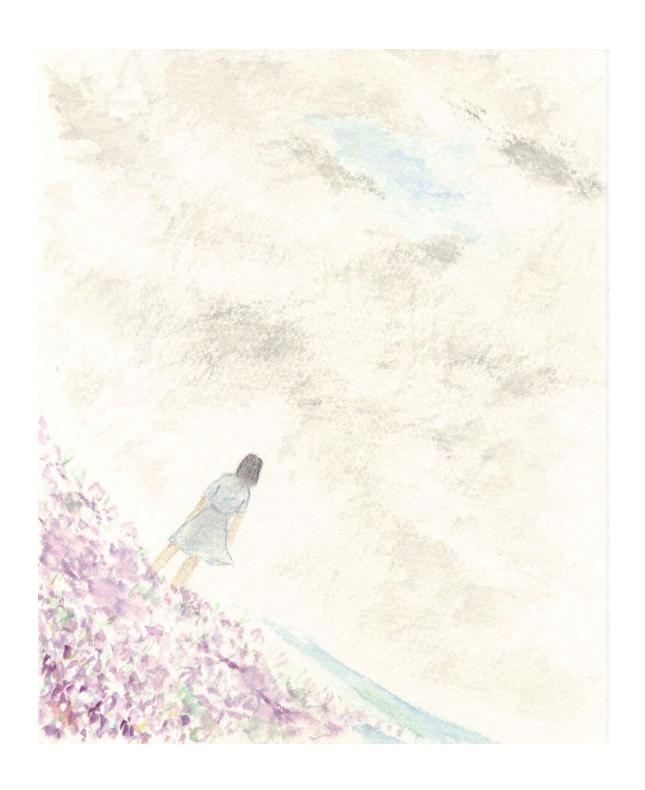
くようにと願い

ば

灰

ような気がした。

6



創作童話 ・児童文学部門 優秀賞

「カフェ ウィッチ」

篠原 まさみ

チリリリリと心地よい呼び鈴が鳴る 「あらいらっしゃい。 和君」

「こんにちは。アンジェラさん」

「ウィッチよ。麦茶あるけど、飲む?」

明るい栗色の長い髪と、紫水晶色の大きな瞳が、 クリっと陽気に

笑いかけた。

「うん。 お願いします」

ここは僕の家の隣。合歓の木三本付の空家を、彼女『宇市アン

ジェラ』が住居兼小さなカフェ『ウィッチ』として、一人と黒猫

匹で住み着いたのは今年春

この辺じゃ、外人さんが赤谷にカフェを開くというので、ちょっ

としたニュースになったほどだ。

そして僕は、お客さん第一号の特権で、飲み物一杯一年間タダな

んだ。 でもこんな新発田の山奥に、わざわざカフェを開くなんて、すご (なんでもこの特権は、前に見た映画のパクリなんだって)

い物好き。「お客なんか来ないよね」と、ウィッチに訊ねると、

種類は、 指を一本振り立てて、これだからお子様は……という顔つきで 「タンポポ、ドクダミ、ノビルにヨモギ、春から始めた薬草酒の まだまだ増えるわ。サルナシ、コケモモ、ヤマボウシ。 カ

> らは来てくれるのよ 付加価値の何たるかは解らないけど、 歌うように喋るウィッチを

クテルにしても良いわね。

知ってた?『付加価値』があれば結構彼

見るのはとても嬉しい。

飼っている黒猫マーリンが、トンッとカウンターに飛び乗って、 少し大きめの彼女の、 突然、足に何かが触った。テーブルの下を覗くと、ウィッチの 体中から溢れるパワーも僕は大好きだ。

ウィッチの前でゴロゴロと喉を鳴らしている。

「え?え?ほんと?その話!」

突然ウィッチが慌てだした。猫と本気で会話しているみたい。

ちらちらと見る。僕が邪魔なようだ。ズズズーーと麦茶を啜って、 なんだか判らず、ぼんやりしている僕を、ウィッチとマーリンが

「ごちそうさまーー!」

と僕は席を立った。僕が外に出るや、内側からガチャンと鍵がか

けられた。怪しい。 カフェの窓脇に寄って耳を澄ませていると、 『やったわ!』とか

じって、『いつもは夜は寝てるんだけどね』と少しくぐもった低い 『この交渉上手!』と、興奮気味に喋っているウィッチの声に混

声が返事をしていた。

ウィッチのほかにも誰か奥にいたんだ!

「今夜は明るい月夜!うん大丈夫!」

ウィッチの歌うような声が外まで響いた。

夜 僕は部屋の窓から店を観察していた。 でも誰も来る気配はな

蛙と虫の鳴き声だけが響く静かな夜 あくびばかりが出てくる。夏の星座は明るい月夜に消えていた。

音もぱたりと止んだ。 瞬間、 どうっとカーテンが天井まで着くほどの風が吹いた。 虫の

「え?」

無く立っていた。 と?全員が同じ格好のふわふわの長い服を着て、揺れるように音も 隣の店の前に誰かがいる。それも一人じゃなくて三人?いやもっ 月明かりに影が揺れている。

ると、 時計を見れば一時……。こっそりカーテン越しに様子を伺ってい 店の扉が開いて、

「どうぞどうぞ。お入りください」

少しくぐもった低い声で、 猫のマーリンが喋った! 発見!

マーリンは喋れたんだ!

奥にウィッチが見えた。

えてきた。歌うような笑い声がした。乾杯するようなコップのぶつ それから店の中からすごくきれいな、 日本語じゃない合唱が聞こ

笑い声と歌と……。 かる音もした。鈴の音に似た柔らかいアカペラがその後響き渡った。 ……そして僕は、 窓を開けたまま寝てしまったらしい。気がついた 心が嬉しくなるような歌声がいつまでも続いて

夜、 隣から歌声しなかった?お母さん」 らお昼だった。

「歌声?しなかったわよ。蛙の合唱の事?何か夢でも見てたのか

めていた。 頭を掻きながら外へ出ると、ウィッチが店の後ろの合歓の木を眺

いつの間にか満開に咲いている、 薄い赤色の合歓の花。 気持ちよ

く風に揺れている。

「聴いたんでしょ?昨夜のお客達の 歌

「うん。どこかの国の歌手達?」

わよ和君。おかげで三瓶空っぽだけどね」 の心に歓びをもたらす、めったに聴けない幻の歌声なの。 「カクテルを楽しみにしてたのよ、彼ら。 あの歌声は、 運がい

聴いた人

か・れ・ら・と、合歓の木を指差してウィッチは笑った。

「今日はまだ酔ったまま寝ているわ」

僕の家の隣のカフェ『ウィッチ』。

ちょっと変わったお客も来る、 山の中のお店。 みんなも来てみて

ください

?

な?」

創作童話・児童文学部門

優秀賞

きをついてつぶやきます。

まいば

ん萌は、

手鏡とにらめっこ。ためい

萌は十才の女の子。生まれつきのびょうき

みんなとはちがう学校に通っています。

「萌がびじんだったらよかったのに…」

萌の球根

モモツ

モモコ

た。

ママのお化粧を、こっそり顔にぬってみまし

目のまわりには黒いアイラインをシュッシュ

ッ。

ほっぺには桃いろのチークをクルックルッ。

絵の具のパレット。

ずーっと遠くまで、

さんの色たちが、

ま

っすぐな虹みたい

になら

でも、そのしあがりは、まるでよっぱらいの

パンダです。それを見たパパは、笑いをこら

えて言いました。

「日曜日、チューリップを見にいこうか?」

萌パンダは、ひまなのでいくことにしました。

んでいます。

「いろんなしゅるいがあるけど、

パパはこの

チ

ユ

リップが

1

いな。ほら、

おひなさまの衿

みたいに見えるでしょ?」

それは、『メリープリンス』という新しい

ひん

゚ゆ。「陽気な王子さま」という意味の赤いチ

ユーリップです。

「うん! かわいいね!」

どり

Ó

チ

ュ

]

IJ

ップが咲いて、それはまるで、

長が

池は

1

.こいの森こうえん」には、色とり

「この花はね、『とつぜんへんい』っていうび

ょうきで生まれたんだよ」

「えっ、ウソ! こんなにかわいいのに?」

「パパは理科のせんせいだから、うそなんか

言わないさ。もしけんこうなままだったら、

メリープリンスは生まれなかったんだよ」

「ふーん」

パパはなぜ、そんなむずかしいことを言うの

でしょう? 萌には意味がよくわかりません。

萌はこうえんのアヒルにバイバイして、パ

パと長池のまわりをさんぽしました。

しばらく歩くと、ゴミすて場に、何やら赤

ブキミなぶったいが……。近づくと、それ

11

は花びらのやまでした。おふろ何杯ぶんもチ

ーリップがすてられているではありません

ユ

か。

「かわいそう! なんですてちゃうの!!」

「それはね、次のお花を咲かせるためさ。

花

びらをぜんぶつみとってしまうから、球根は

また、来年の春にきれいな花を咲かせるんだ

ょ

「キ ュウコン?」

「そうさ。 土っ のなかに埋もれて、 ふだんは見

えないけれど、 大だい 事じ 事な 命 いのち のカプセルなんだ。

球 根 は 萌 \mathcal{O} コ コ にもあるぞっ!」

パ パ は クル クルッと指をまわして、 萌 の心臓

 \mathcal{O} あ たりを指さしました。

「き ħ V なチュ] ij ップを咲かせるひけ つは、

土 \mathcal{O} な カュ 0) 球 根を大事にすることさ。 花 びら

にぺ ンキをぬったって、 ムダなんだ。 女の子

ŧ ぉ んなじだよ」

萌はキョトンとしています。

「たとえばね……マ 7 はびじんとは言えない

ŧ しれ ない けど、 とってもチャーミングだ

か

ろ?

パ パ は 7 7 \mathcal{O} 球 根がだいすきさ。 それで萌が

生まれたんだよ」

「へえ! そうなの!!」

「い つか、 萌 球根をだいすきになってくれ

 \mathcal{O}

る男の子が、 きっとあらわれるよ。でももし

変なヤツだったら、 パ パはおせっきょうしち

やうかもな」

は なんだかうれしくなって、 パパと手をつ

萌

ないでかえりました。

それから、萌が手鏡とにらめっこしたり、

お化粧したりすることはなくなりました。

それにしても、「球根を大事にする」って、ど

ういうこと? その答えは、すぐには見つか

りません。でもほら、そばにいいお手本がい

るではありませんか。

「<きゅうこんかんさつノート〉 びじんじゃ

ないのに、ママがチャーミングなりゆう」

そのノートに、萌はまいにちメモをします。

「①にっこりわらうと、ママの目はおたまじ

やくしにへんしんする。」

「②『よーし!』と、うでまくりして、とび

きりおいしいホットケーキをつくってくれ

る。

「③ヘンなハナウタをうたって、ムスッとし

ているパパをクスッとわらわせる。」

ージはどんどんうまっていきます。

~°

「まあ! なあに?! コレ!!」

ある日、「かんさつノート」がママに見つかっ

て

L まったのです。 萌 は 「しかられる!」と目 「パパはね、 7 7 の 球

をつぶりました。

で ŧ マ 7 マは大笑い。

「ねえ、 萌。 なぜマ 7 をかんさつするの?」

「パ パにおしえてもらったから…お花も女の

子も、 球根が 命な の 。 だから、 7 7 0) 球根を

カン んさつして、 まねするの」

ママ 7 には球根があるってこと?」

「うん! コ コに入ってる!」

萌 は 7 7 \mathcal{O} 心臓の あたりで、指をクル クルク

ル。

根がだいすきなんだっ

てさ」

それを聞 いて、 7 7 のほ つペ はちょっ ぴ り桃

いろ。

ママはお庭から見える青い二王子岳に、こ

ぶしをあげてせんげん んします。

「秋になったら、 チュ] IJ ップの球根、

たっ

くさん植えるぞー!」

「うん! 萌は、メリープリンスがい いな!」

赤い 「陽気な王子さま」と青い二王子岳

赤と青の王子さまがお庭に並 んだら、 それ は

それはすてきでしょう。

さて、萌のなかの球根は、いったいどんな

花を咲かせるのでしょうか?

メリープリン

スみたいに、こせいてきでかわいい花でしょ

にしているのです。(了)

うか…?

パパとママは、とってもたのしみ



創作童話・児童文学部門 中学生の部 大賞

カラスの探しもの

石井 まゆ佳

50 した。光を浴びるときらきらと光るビー玉や瓶の王冠を、巣いっぱ いに集めました。いつの日か、きれいな鳥になれることを夢見なが れいになれる』と。だからカラスは一生懸命きれいなものを探しま 信じていました。『きれいなものを集めていれば、いつか自分もき 見てはいつもうらやましく思っていました。そんなカラスはずっと んでいました。カラスは真っ黒です。真っ黒だから、きれいな鳥を ある年の、夏の始めのことでした。ある山に、一羽のカラスが住

した。 しかしカラスは、いつまでたってもきれいな鳥にはなれませんで

「僕はきれいな鳥にはなれないのかな。」

そう思って落ち込んでいると、一羽の真っ白なハトがやってきまし

「やあ、どうかしたのかい。」

カラスは言いました。

僕、 君みたいなきれいな鳥になりたいんだけど…。やっぱり無理

なのかな…。」

するとハトは言いました。

「いいや、いつかきっとなれるよ。」

「本当に?じゃあ、 何をすればいいの?」

「もっと色々な、きれいなものを探してごらん。」

「じゃあハトさんは何がきれいだと思う?」

「それは、秘密。君がもっときれいなものを知ったら、教えてあげ

るよ。だって、とっておきのだからね。」

るんだよね。だったら、頑張って探すよ!」 「ええ!けちだなあ。でも、いっぱい見つければきれいな鳥になれ

「うん、君ならきっと見つけられるよ。それじゃあ、たくさん見つ

かったら教えてね。」

ハトはそう言うと飛んでいってしまいました。そうして、 カラスは

かな色をしているから、ひらひらと舞う蝶がきれいだと言いました。 もっと色々なきれいなものを探しに行くことにしました。 カラスは色々な鳥に聞きました。ある鳥は、 かわいい模様で鮮や

ら、しとしとと降る雨が好きだと言いました。ほかにも、 またある鳥は、雫に濡れた葉っぱや花が宝石のようにきれいだか 夕焼け空

間違いなくきれいなものでした。 な鳥・・・。実に色々なきれいなものがありました。そしてどれも

が好きな鳥、教会のステンドガラスが好きな鳥、

夜の星や月が好き

あくる日、ハトがやってきました。

「やあ、調子はどうだい?」

「皆に聞いて、いっぱい見つけたよ!蝶や雨や、夕焼け空や…。」

「へえ!たくさんあるんだね。」

だね。それはそうと、君のとっておきのきれいなもの、 「みんな、僕の知ってるものだったんだ。気付かないだけだったん 教えて!」

きれいなものは…。」 「そうだね。色々教えてもらったから、教えてあげる。僕の好きな

野山へ飛んでいきました。があったことに。ハトとカラスは一緒に、カラスの住む山、五十公かラスは聞いて驚きました。自分のこんなに近くに、きれいなもの

言いました。 言いました。そして、ハトは そこに着くと、カラスは思わず息をのみました。そして、ハトは

い。「ね、君の近くにあったでしょ。僕はこのアヤメ園が大好きなん「ね、君の近くにあったでしょ。僕はこのアヤメ園が大好きなん

そこには一面に、花開いたアヤメが咲き乱れていました。いつかのそこには一面に、花開いたアヤメが咲き乱れていました。かラスはこの舞う蝶もまた、妖精のようにきらめいて見えました。カラスはこの舞う蝶もまた、妖精のようにきらめいて見えました。カラスはこのれたときからあって、あることが当然だったからです。その紫色のれたときからあって、あることが当然だったからです。その紫色の海は、カラスの心まで鮮やかな紫色に染めました。しばらくして、カラスは巣に戻り、集めていたビー玉を持ってきんがよりでした。その紫色の流れたときからあって、あることが当然だったからです。その紫色の流れたときからあって、あることが当然だったからです。その紫色の光を浴びて小さく輝い雨で濡れたびらして、カラスは巣に戻り、集めていたビー玉を持ってきんは、カラスの心まで鮮やかな紫色に染めました。いつかのそこには一面に、花開いたアヤメが咲き乱れていました。いつかの

ていい。 しばらくして、カラスは巣に戻り、集めていたビー玉を持ってき

お礼に、僕のビー玉をあげるよ。」「ハトさん。こんなにきれいなものを教えてくれて、ありがとう。

だって、どんなきれいな鳥よりも、きれいなものを知ってる鳥にな「あのさ。僕、自分がきれいな鳥じゃなくてもよくなっちゃったよ。「ありがとう。君の大切なもの、僕も大切にするからね。」

「また、たくさん教えてね。がんばって。」ん、きれいなものを探しに行くよ。それじゃあ、またいつか。」れれば、それで良いってわかったから。だから、僕はもっとたくさ

いていました。いつまでも、きらきら、きらきらと…。ハトのくちばしには、一羽のきれいなカラスを映したビー球が、輝光を浴びて、どんな黒よりも美しくきれいでした。その姿を見送るそして飛び立ったカラスの姿は、紫色の海を背に、黒の体に日の「ます」からです。

投

稿

文

「神田ゼミ 新発田祭り台輪調査報告」

字

敬和学園大学国際文化学科神田より子

生もともに調査、執筆に参加した。

本論は、二○○八年度から二○一○年度にゼミに入った二年に彼らは二年生であり、彼らが中心となって調査に当たり、また新行と職人町獅子舞に関する調査の報告書である。それ故、始めた年在の四年生が二年生のときから始めた、新発田祭りにおける台輪運園大学人文学部国際文化学科の文化論演習の授業の一環として、現園大学人文学部国際文化学科の文化論演習の授業の一環として、現園大学人文学部国際文化学科の文化論演習の授業の一環として、現園大学人文学部国際文化学科の文化論演習の授業の一環として、現るともに調査、執筆に参加した。

行った。 を行った。 ていただいた。そして二〇一〇年度には上町、 四之町、 後までに完成することと決定した。そこで二○○九年度には三之町 皆様に学生の発表を聞いていただいた。その際、 六町内と職人町の全体的な調査を行い、年度末には調査対象地域の 最初の二〇〇八年はプリサーベイとして、 泉町で調査を行い、年度末には前年同様に中間発表をさせ 方、 職人町には現四年生が最初からずっと継続的な調査 台輪にかかわっている 下町、 今後の調 両町の調査を 査を二年

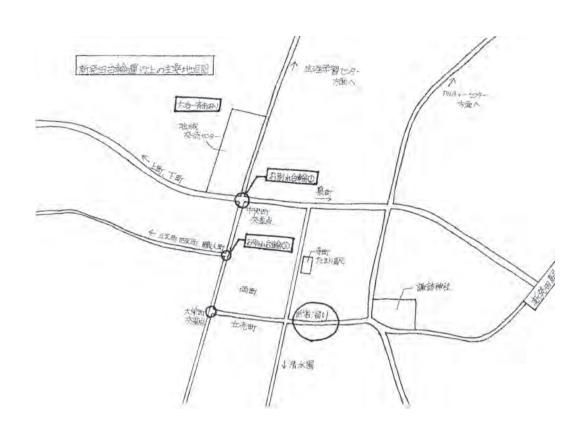
民俗調査の初歩も知らないような未熟な学生たちではあったが、民俗調査の初歩も知らないような未熟な学生たちではあったが、民俗調査の初歩も知らないような未熟な学生たちではあったが、民俗調査の初歩も知らないような未熟な学生たちではあったが、民俗調査の初歩も知らないような未熟な学生たちではあったが、

達成することで得るものとは何か、を問いたいと思った。 どういうことなのか、人と人があるひとつの事柄をともに苦労をし 目まぐるしく変化する現代社会にあって、 る方々が、「今」どのように感じ、 である。 こうしたいわば内側の論理を明らかにすることが今回の調査の目的 現場にいた方々から直接伺い、その思いを受け止めたいと考えた。 をどのように捉えているのかなどを、 ていったのか、また伝統行事とはいっても、年々変化していく行事 加するようになったのか、 参加している方々の経験をお聞きすることから始まった。 台輪と獅子舞に実際に関わっている人々が、 今回 「の調査報告は、 江戸時代から続く伝統ある行事を、この行事に携わってい 現在新発田祭りの台輪運行と職 そして参加することでどのように変化し 行動しているのかに注目した 現場にいる、 伝統行事を維持するとは どういういきさつで参 あるいはかつて 人町獅子舞に すなわち

認識で調査を行ったわけではない。分析するための学問的な方法論を学生は持っていないし、そうしたしても、その歴史的な部分には切り込んでいない。歴史的な経緯をしても、「伝統」を現場の方々がどのように捉えるのかに注目は

しているのかには注目した。いる。それらを現場の方々はどのように受け止め、どのように理解いる。それらを現場の方々はどのように受け止め、どのように理解一方、伝統行事と言っても、時代に即した変化の波は押し寄せて

台輪と獅子舞のすべての関係者の皆様への謝意としたい。お世話になった方々への恩返しもこめて、ここにその成果を報告し、今回のこの文章は学生によるつたない内容ではあるが、これまで



第一章 新発田祭りにおける台輪

内山拓也、渡辺みゆき、若月華子

はじめに

たい。

成される。新発田祭りの基礎について述べ、後の章への下敷きとし成される。新発田祭り参加者たちから見た現在の台輪についての二節で構と、新発田祭り参加者たちから見た現在の台輪についての概観を述べる一節

からの聞き取り調査を元に記述する。なお、一節では主に新発田市史などの文献、二節では台輪参加

一節 新発田祭り

新発田祭りについて

新発田祭りは、「城下町新発田まつり」が、現在の通称として 新発田祭りは、「城下町新発田まつり」が、現在の通称として する。

二七日に神輿に神霊を移す儀礼があり、 は神輿の露払いである。 の儀礼でその年の新発田祭りは終わる。この祭りの中で台輪の役割 輪があり、 に行われる樽神輿、 台輪を諏訪神社に収める奉納台輪がある。 披露する。 泉町の六町の人々が台輪を引き出し、職人町が神輿を担ぎ獅子舞 0 諏訪神社祭礼の中で、 ここで諏訪神社祭礼の流れを説明しよう。 深夜に行われる神輿に移していた神霊を神社に帰す宮入 二九日に諏訪神社から各町に台輪が戻る帰り台 上町・下町・三之町・ 早朝には各町がそれぞれ その後、 二七日と二八日 四之町 まず初 両 め 町 0 に

称す)駐車場での一斉あおりが加わった。り台輪の運行に新発田市地域交流センター(以後、交流センターと祭り全体に目を向けてみると、近年、祭りが大きく変貌した。帰

興御見届の上、

町々都合打合、

七ツ時頃迄ニ御宮入いたし候

いって嫌う人も少なくない。
おり、台輪に関わる人々の中にはこれを「本来の運行ではない」とあり、台輪に関わる人々の中にはこれを「本来の運行ではない」とのまま交流センター駐車場で一斉あおりをおこない、その後台輪は現在、帰り台輪のルートは諏訪神社を出た後、立売町を抜け、そ現在、帰り台輪のルートは諏訪神社を出た後、立売町を抜け、そ

人々にとっての負荷は大きい。が延びている。また、一斉あおりも時間が長く、台輪を引いているまた、現実的な問題として、交流センターまで往復する分、距離

次にかつての新発田祭りについて見てみよう。諏訪神社祭礼は、敷席さえ取っておけば、快適に、悠々と台輪のあおりを眺められる。のいい場所で六町の台輪の一斉あおりを見る事ができる。これは桟一方、一斉あおりを見るためには有料の桟敷席があり、見晴らし

二(一九一三)年からのことである。 が、 た七代藩主直温の治世であり、 なった。現在の二七日~二九日まで行われる祭りとなった ようにお触れを出した事から、 元は旧暦八月の二七日、二八日に行われた新発田藩 この当時の祭りの姿について、 享保一一(一七二六)年から、 台輪が生まれたという。 その直温公が飾り人形の 資料を引用してみる。 藩全体を挙げての盛大な祭りと 享保時代は文芸に趣 の藩祭であった 屋 味の 台を出す のは大正 あっ

打合、先例順以引出し、それより昼之儀支度済次第、職人町御神社地へ引付、五町台輪は正六ツ人数溜引付、揃次第社家并職人町へ「諏訪祭礼の節、職人町より御迎台輪、暁正六ツ時(午前六時)

れており、現在とは異なった祭りの形だった。ものの一部である。引用した部分は二七日の奉納台輪について書かで、町検断及び町役人から町奉行所へ台輪の引き出し等を願い出た以上が、天保一三(一八四二)年に書かれた達留に記されたもの

に新発田台輪は復活した。
ていた時期は詳しくわかっていないが、昭和二二(一九四七)年頃くなり、祭りを行う事ができなくなってしまった。具体的に中断しもなると、新発田に大人の男の数が少なくなり、台輪を引き出せな 第二次大戦前後の新発田祭りにも触れていきたい。戦争も末期と

のだろう。 とって新発田祭り、 戦中に失われたものは数多くあったであろうが、 台輪は早急に取り戻さねばならぬものであった 新発田の人々に

台輪について

建され、 う_。 砲町の台輪は一度分解され なった。 さ約四メートル、 り彫刻と飾り人形である。 輪を保有しているが、 「台輪」の名称は新発田特有である。現在では前述した六町のみが台 この台輪は、 次に、 泉町は比較的新しく、 これは泉町自体が新しい町である事も関係している。 台輪について説明したい。台輪は、 現在はこども台輪として各種イベントなどに参加している。 各町で少しずつ形が異なり、その最たる部分は見送 幅約三メートルの二階建ての三輪で動く山 以前は上鉄砲町なども台輪を持っていたとい それぞれは以下のようになっている 明治期になってから台輪を持つように 死蔵されていたものを近年になって再 長さ約五メートル、 車で 上鉄 高

> が、 て消失したものもある。 あったわけではなく、 全ての台輪が作られた当初からこれらの見送り彫刻、 明治四三(一九一〇)年の立売町火事で消失した。 時代の流れによって逸失したり、 両町の飾り人形はかつて五福神であった 火事によっ 飾り人形が

の台輪は御座船台輪と呼ばれていたというが、 台輪が記録に出てくるのは享保一三(一七二八)年だが、 詳細はわかっていな この 頃

い。

りは、 翼を担っている。 5 かせ、そのままドシンと地面に落とす所作を連続して行う事を言 台輪に欠かせないのが「あおり」と「もみ合い」である。 これは奉納台輪 台輪前部に付けられている舵棒を持ち上げて前輪を宙 帰り台輪の両方でみられ、 台輪の勇壮さの 「あお に浮

る。 綱を引いている曳き手たちが、 んずほぐれつの押し合いを繰り広げるもので、 「もみ合い」は、 帰り台輪のみにみられる。 他の町内の台輪の曳き手たちと、 台輪を動かすための あおりの際に行われ

いるが、 が、 るが、これは二節で詳しく説明する。 である。このもみ合い故に、 これは近年、怪我人が続出するために警察などから問題視されて 台輪の迫力、 もみ合いも台輪を構成する、 新発田祭りの華やかさの中心である。 新発田祭りは「けんか祭り」と呼ばれ 無くてはならないものの一つ この二つの台輪特有の動き

立つ二六日に行われる、 また、 台輪を運行する「渡り付け」には二種類あり、 他の台輪を保有する町内を通る町が、 祭りに先 「あ

見送り彫刻 飾り人形

ト町	上町
鳳凰に桐	鳳凰に桐
西王母・唐子	布袋・唐子

四之町	三之町
波に亀	牡丹に唐獅子
漢武帝と薄	義経と従者

ジル省	皮こ亀	牡丹は居猟三
第11章	英氏 守い 寅・	事糸と 行者

神巧皇后と武内宿禰

大后他一

体

泉町 両町

三羽鶴

竜

こ○○九年度に、三之町のYさんから以下のような話を聞く事がでものである。この発祥についての文献は見つけられなかったが、も輪の際に、他町の台輪と挨拶や、打ち合わせを行う意味で行うなたの町を通らせていただきます」という意味で行うものと、帰り

「年代は定かではないが、四之町と三之町が大喧嘩をした年がたものだから、渡り付けがない町内もある」「年代は定かではないが、四之町と三之町が大喧嘩をした年がたものだから、渡り付けがないが、四之町と三之町が大喧嘩をした年がたものだから、渡り付けがない町内もある」

り台輪での運行の要所で行われている。
二六日の渡り付けに当てはめたのではないだろうか。こちらは、帰かっていないが、恐らく、古くからあった連絡の取り合いを、このれている。運行中の渡り付けがいつ頃から行われているのかもわれている。

とされている。 いずれの渡り付けも円滑に台輪運行をする上で必要不可欠なもの

を保有する町であり、諏訪神社祭礼においては神輿の先払いとし職人町の神輿、獅子舞についても触れておこう。職人町は獅子舞

、台輪とは異なるルートを通る。

まで行われていたと伝えられている。
い問答になったこともあったとされ、これは昭和七~八年ごろしていたという。この時、神輿を他町に受け渡す際に「渡せ」「渡さしていたという。この時、神輿を他町に受け渡す際に「渡せ」「渡さいたと『新発田市史(下)』には記述されている。各町ではできるだら神輿を各町内の人々に渡し、それぞれの町内を往復する事もあっら神輿を各町内の人々に渡し、それぞれの町内を住復する事もあっら神輿を各町内の人々に渡し、それぞれの町内を住復する事もあったと『新発田市史(下)』には記述されている。

る。

る。

の職人町の成り立ちは、享保一七(一七三三)年とされ、名工がおの職人町の成り立ちは、享保一七(一七三三)年とされ、名工がおの歌の魔を払い、繁栄を呼び込むために舞を舞うことである。現在の家の魔を払い、繁栄を呼び込むために舞を舞うことである。現在の家の魔を払いとして各町内の家々をまわり、そ

の誇りである。 ているが、それらを乗りこえて、今に伝承されている新発田の人々 新発田祭りが藩政時代から続く祭りで、その形体や様式は変化し

三 かつての祭り

査を中心に述べていきたい。 ここでは、一九五五年~一九六五年代の祭りの姿を、聞き取り調

上町の委員であるKさん(一九三八年生)の話を聞いてみたい。

なかったのでいい時代だった。」
それが縁起物だとして怒られもしなかったし、弁償という事も一切当時は道が砂利道で台輪がはねた石が、商店のガラスを割っても、規制がなかったので夜中に町内に帰ってきていた。(中略)また、「曳き子の頃は、運行が今に比べて時間的に自由であったし、交通

が読み取れる。また、市民の意識も、今とは違っている。頃は、今のようなスケジュールの決まった祭りとは違っていること曳き子の頃、ということから、一九五五年前後の話だろう。この

ないがけんか台輪という名がつけられた。」「自分の台輪が一番」という思いが強かった。そのため、けんかではどうしてもぶつかり、そこでもみ合いになった。昔は今よりずっと、「私が子どもの頃は、道路が狭くて、相手より先に行こうとすれば、

まっているので、 形を変えてきたようである。 る記述は新発田市史にも見られる。 止しようとする台輪の間で行われている。 1 に発生し、今に受け継がれてきた事になる。また、現在とはもみ合 いて語っている部分である。この話から、 ・の形が異なり、 九五三年頃の話であろう。ここで注目したいのは、もみ合いにつ これは下町 I さん (一九四〇年生) このような事態は起きない。また、 前方の台輪を追い越そうとする台輪と、それを阻 今のもみ合いは、 の話である。 もみ合いは一九五〇年頃 現在は運行の順番が決 子どもの これを裏付け 発祥から随分 頃 0

(一九四二年生)の話である。これは町内毎、家庭毎に差異がある。以下は両町のKさんり直前の個人的なお清めなどの決まりについて見ていきたい。次に、人の死、人の誕生と、それに伴う祭りへの参加の可否、祭次に、人の死、人の誕生と、それに伴う祭りへの参加の可否、祭

と考えられていた時代だった。」
を考えられていた時代だった。」
を考えられていた時代だった。」と上の役職の人に怒られただのに何故、台輪に参加しているのか」と上の役職の人に怒られたたのに何故、台輪に参加しているのか」と上の役職の人に怒られたたのに何故、台輪に参加しているのか」と上の役職の人に怒られた思うがいいと思うが、曳き子の場合は四十九日を過ぎたら出て良いと「家で出産した人がいる場合、華段に乗る人は、一年間は出ないほ

れた。

・
の間か、四十九日の間という意見が多く見ら類が亡くなってからどの程度の間自粛するかについては、死者とのが亡くなった場合については多くの人から話を聞く事ができた。親が自らなった場合については多くの人から話を聞く事ができた。親当時は人が生まれた時も不浄とする観念があったのだ。また、人

次に個人的なお清め、決まりごとについて見ていこう。これについては今も昔も変わらない意識の一つだと言えよう。

い。奉納台輪の前に風呂に入る程度だ」ある風呂屋がタダ券をくれた。私は特にお清めとは意識していなある風呂屋がタダ券をくれた。私は特にお清めと言えるかはわからないが、十年くらい前までは町内に

清め、 は、 いう部分であろう。 を綺麗にする行為は意識されるものらしい。この話の中で面白いの これは三ノ町のHさん(一九四四年生)の話である。個人的なお 「十年くらい前までは町内にある風呂屋がタダ券をくれた」と 決まりとして最も多かったのがこの「お風呂に入る」で、 体

部分様々である。 わってきた人々の姿を見てきたが、変わった部分、変わらなかった 色々な人の話をもとに、 かつての台輪やその周りの姿、それに関

いだろうか。 に携わる人々の内面というのはそれほど変わってはいないのではな 台輪の運行や、それを取り巻く状況は移り変わってきても、それ

〇参考文献

形) しばた台輪 六台新発田市 (有形) しばた台輪 六台新発田市 新発田市史編纂委員会『新発田市史 上巻』市民俗文化財 新発田市史編纂委員会 『新発田市史 下巻』市民俗文化財 一九八〇年一一月 一九八一年七月 (有

田市史刊行事務局 新発田市史編纂委員会 一九四二年 『新発田市史資料第五巻―上』

新発

田 市史刊行事務局 新発田市史編纂委員会 『新発田市史資料第五巻―下』 一九七二年 新発

号 ジ 高橋善夫「諏訪祭礼と新発田台輪」 編集者兼発行者新発田郷土研究会 一九八六年 『新発田郷土誌 六七ペー 第十四

『新発田市史資料編』 民俗上 五三一ページ

1

- 2 高橋善夫 一九八六年 六六ページ
- 3 一九八六年 六三ページ
- 4 新発田市史資料編第五巻 民俗下 三二一ページ
- 5 る後車、そうはさせまいとする前車との間にもみ合う情景がしばしば見ら 台輪、喧嘩祭りの異称も生じたのである」八八一ページより引用 気に勇み立っているところへ、物見高い野次馬の煽りもある。こうして喧嘩 れ、それが喧嘩沙汰になることも少なくなかった。年一回の祭りが活気と酒 「若い衆の意気は大いにあがって、少しでも前の台輪より前に出ようとす

参加者たちから見た台輪

に基づき記述している。 ここでは二○○八年から二○一○年にかけて行った聞き書き調査

けんか祭りと言われる事について

しば 下巻』には以下のような記述がある。 りと称されるようになった年代は定かではないが、 新発田祭りの台輪は、荒々しいもみ合いが行われる事から、 「けんか台輪」とか「けんか祭り」と称されている。けんか祭 『新発田市史

である。」「若い衆の意気は大いにあがって、少しでも前の台輪より前に出てある。」

ことができる。
たから、結局一年だけに終った。」と語っているところからも伺うれたこともあった。けれど、これを壊して台輪が前に進んでしまっれたこともあった。けれど、これを壊して台輪が前に進んでしまったから、結局一年だけに終った。」と語っているところからも伺うたから、結局一年だけに終った。」と語っているところからも同じないでは、上町委員のKさん(一九二四年

は、四○人の祭り参加者から話を伺うことができた。者はどのように感じ、考えているのだろうか。この呼び方について「けんか台輪」と称されることについて、祭りに参加している当事しかし、「けんか祭り」の呼び方は各町内とも賛否両論がある。

を見ていこう。 まず、「けんか台輪」と称されることに、反対である方々の意見

にさせるのは違うと思う。」また、泉町小頭の日さん(一九六五年の「神事は幸せをお祈りするためのものだから、怪我をさせて不幸ではない。日本に一つしかない、例を見ない祭りだ。ルールを教えではない。日本に一つしかない、例を見ない祭りだ。ルールを教えの対意見は、下町〇Bの〇さん(一九四四年生)の「けんか祭り

とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。とするような意見が多く見られる。

発田郷土誌』第十四号にもあるので以下に記述する。 また、「けんか祭り」と言われることに反対という意見は、『新

表芸となってしまったようだ。」

欲しい。現在ではそれも半ば忘れられたか、いわゆる喧嘩が台輪のこれに違反した時に争いになるので喧嘩が本来でないことを知ってのと受け止められがちだが、帰り台輪のルール、仕来たり等から

むしろもみ合いを見ている外部の観衆のあいだから広まり、定着したいる」とする一方で、「見ている人たちにとっている。このことかのだ」という意見もある。泉町頭取Iさん(一九五六年生)も「けんかという言葉がつっぱしっている。」と語っている。このことかんかという意見もある。泉町頭取Iさん(一九五六年生)も「けしかし、四之町お囃子のIさん(一九七五年生)の「けんかが激しかし、四之町お囃子のIさん(一九七五年生)の「けんかが激

ていったといえるのではないだろうか。

取れる発言を見ていく。
次に、「けんか台輪」と呼ばれることに対して特に気にしないと

生 だ。」下町お囃子のTさん(一九四六年生)の「本気でけんかをし 町頭取のNさん(一九六三年生)の「城下町新発田ふるさと祭りと ないにしろ、新発田祭りや台輪の歴史や特徴を語る上で、欠かせな 祭り」の呼び方は「伝統である」、「見どころである」、「新発田の人 N の気質である」としている。「けんか」は祭りの一番の見せ場では てないからこそ、今の祭りは続いている。」というように、 い。」、「けんか祭りという名も、 四之町小頭Iさん(一九七五年生)の「けんか祭りの名を残した (一九六七年生)の「けんかがあっての祭りだ。」両町頭取のI われたほうが違和感がある。」下町お囃子のNさん(一九四二年 ワードのひとつと捉えることができる。それについては、 「それがなくなると郷土の祭りではない。」下町小頭のHさ 祭りの歴史の中から出てきたもの 「けんか

では、「一九六五年生」の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクでは、「一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年生)の「けんか祭りと言われていた方がインパクさん(一九六五年)の「は、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000年)のは、1000

他にも、「けんか台輪という言い方が一番好きだ。」としつつも、下町〇BのHさん(一九五〇年生)の「今の時代ではむずかしや、上町頭取のNさん(一九六三年生)の「今の時代ではむずかしい。」という、時代に言葉が合わないという発言もあった。また、両町小頭のSさん(一九六三年生)の「今の時代ではむずかしっている。」ということからも、外部からの呼び方にも変化が表わっている。」ということからも、外部からの呼び方にも変化が表わっている。」ということからも、外部からの呼び方にも変化が表わっている。

にらみ合いやけんか前の緊張感が二番目のみどころ。」と述べていまた、上町お囃子のKさん(一九四九年生)も、「一番はあおりだが、あおりは他では見られない珍しいものだし、そこを見て貰いたい。」から良いと思うが、主役はあおる所だからそれを忘れないでほしい。から良いと思うが、主役はあおる所だからそれを忘れないでほしい。たに「けんか」は祭りの一番の見せ場ではないとあったが、これ

代諏訪神社宮司の畠山好古さんの記述にも見られたので以下に記述る。このように、祭りの一番の見せ場はあおりだとする発言は、先

する。

ぞ云う名称は間違いだという事をこの際はっきりと申し上げます。」と、若者たちの意気の見せどころだと思いますので、けんか台輪な「しからば豪壮なアオリ勇壮な引き廻しは御祭神が軍神であるこ

いないのだ。 ための「あおり」によるもので、けんかによって勇壮さを見せてはための「あおり」によるもので、けんかによって勇壮さを見せる

とについて、祭りに参加している当事者の捉え方を、まとめてみよしない方の捉え方を見てきた。これら「けんか祭り」と称されるこ以上、「けんか台輪」という呼び方について反対の方、特に気に

数は、およそ半々という結果となっている。なり、全体でも反対と捉える方と、特に気にしないと捉える方の人と捉えている、二二人が特に気にしないと捉えているという結果と、四○人のうち、一八人が反対、一門内すべてを合わせてみた結果、四○人のうち、一八人が反対

ルに則ったものという発言である。いこのように、けんか台輪は単なる殴り合いではなく、暗黙のルーる」、「もみ合いにはルールがあり、守ってやらなくてはいけなる」で共通して見られるのは「けんかともみ合いは別ものであ

また、間違ったイメージをどうにかしたいという意見も伺うこと

ことが関係していると考えられる。また、それに伴うようにして、捉え方には、「けんか」という言葉自体の捉え方が違ってきているた、このような若者は続けて参加をしなくなる傾向にあるようだ。た、このような若者は続けて参加をしなくなる傾向にあるようだ。ま違えてしまい、目的が殴り合いになっている若者が少なくない。まずできた。近年、もみ合いのルールを知らず、けんかの意味をはきができた。近年、もみ合いのルールを知らず、けんかの意味をはき

ないかと考える。

以上を踏まえて、新発田祭りの「けんか」の表現は、祭り参加者以上を踏まえて、新発田祭りの「けんか」の表現は、祭り参加者以上を踏まえて、新発田祭りの「けんか」の表現は、祭り参加者

外部からの呼び方にも変化が起きているようである。

響~しばた台輪六台一斉にあおる~』 一九九一3『天皇陛下御即位奉祝「日本の祭りパレード」参加記念誌花のお江戸で大反2『新発田郷土誌 第十四号』 六七ページ

1

『新発田市史 下巻』八八一ページ

〇参考資料

"新発田市史 下卷』新発田市史編纂委員会編 新発田市

一九八〇

高橋善夫「諏訪祭礼と新発田台輪」『新発田郷土誌 第十四号』

新発田郷土研究会 一九八六 六七ページ

パレード 新発田市実行委員会 一九九一 江戸で大反響~しばた台輪六台一斉にあおる~』全国日本の祭り『天皇陛下御即位奉祝「日本の祭りパレード」参加記念誌花のお

二 イベント化について

たな試みが行われ始めている。として、子ども台輪の参加や、立売町のアーケード消灯といった新日の桟敷席での一斉あおり、さらに、二○○九年からの新たな試み城下町しばた祭りでは、伝統的な台輪の運行の他に、帰り台輪の

レモニーへの参加などの台輪運行も増えている。 皇陛下奉祝事業、沼田フェスティバルなどの市内外のイベントやセまた、昨今の台輪は、商店街サマーナイトバーゲンへの参加、天

かを分析してみたい。行に対して、各町内の人たちがどう感じ、どのように捉えているの灯、国体と天皇奉祝事業への参加を取り上げ、比較的新しい台輪運灯、国体と天皇奉祝事業への参加を取り上げ、比較的新しい台輪運

ている。この桟敷席ができたのは、市役所から「駅から六台を曳きを設け、町内へ帰る前に台輪がそこへ行き、六台で一斉にあおっ帰り台輪の際に、地域交流センター駐車場に骨組みを組み、桟敷席下町町内会長のⅠさん(一九四○年生)によると「数年前から、

り、 年に地域交流センターが完成し、 てられるようになったが、 たのが最初である。平成一四年に産業会館跡地に、 一三年に現在の上町パーキングに桟敷席を設け、 出すイベントをしたい」という申し出があったことに始まる。 一三年から一五年までは、 駐車場ができたのは二年後で、そこから今の形になった。 一斉にあおるという流れになった。」 駅は城下町ではないため、 自衛隊が桟敷席を作っていた。平成 当初は敷地の中であおることはなかっ 駅まで出せないということで、 現在のような、 一斉あおりを行っ 駐車場の中に入 桟敷席が組み立 平成 平成 しか

る。 客として祭りを見てもらいたいとして、桟敷席での一斉あおりを肯 ではなく、楽しんでもらえる祭りを作ろうといった意識が感じられ 定的に捉えている。これらは、 ゆっくり見られる良い場所だと思う」というように、 れるのでいい」上町お囃子のKさん(一九四九年生)の「安全で 0) れる、見所にもなるという点と、泉町小頭Hさん(一九六六年生) いと思う」といったような、一斉あおりに対して、 で良いと思うようになった」や、 会計補佐Hさん(一九七九年生)の「近年は観客が喜んでくれるの 「一番の見所であり、他の町内には負けたくないという意味でも良 このような経緯で始まったイベント的な運行だが、三之町では 「普段見ることができない人や、 神事としての祭りを見てもらうだけ 総取締Kさん(一九七六年生)の 障がいのある人が危険なく見ら 観客が喜んでく 幅広い層に観

之町小頭のIさん(一九七二年生)は「もう恒例行事になってはい一方こうしたイベント化には反対という意見ももちろんある。三

に対し、 生 発田祭りは町人が行っていたものだった。そのため、 第四銀行のある中央町交差点には、 による運行の不自由さが生じるため、 という意識がみられる。そして、 いということであり、飽くまでも神事であって、イベントではない は持てないといった意見もある。祭りの中で台輪を運行させること きた意見であろう。また見せ物みたいになっているから、 の町と町人の町が分かれていた。台輪は町人たちのものであり、 流センターまで出るのは本当ではない」という意見に注目したい。 自分たち町人の祭りを行いたくないという意識があるため出て 誇りを持っているからこそ、 下町取締のSさん(一九五八年生)のように、 そもそも第四銀行より向こうは武家の町であり、 上町取締のNさん(一九六三年 かつて門が存在し、そこで武家 一斉あおりを好ましく思えな 台輪運行を軽んじてほしくな 武家の町へ行 時間の 良い印象 地 制限 域交 新

町お囃子のTさん 法で観客を集めたりする術がないかと考える人もいる。さらに、 は、 ベントをしなければ難しいだろうとも思う。」といった意見もあっ よって本質が変わってきている。 なって祭りの雰囲気が変わった。 概に言えないという人が四八人中二三人と多くいた。その中で また、イベント化は必要ではあるがいくつか問題点もあるため、 しかし、その桟敷席であおることに対して疑問を持ち、 台輪の運行や維持のために市から補助金をもらっているから 町おこしや観客を集めるために必要であると考える人が多かっ (一九五一年生) のように、「これをするように しかし現実問題、 お役所が祭りに介入することに 金銭的な面でイ 他の方

いという意見もあった。

意見も二、三見られた。 一斉あおりはせざるを得ないという気持ちもあり、仕方ないという

めや、 観点で見ると疑問が残るなどから、 を観てもらえない、 きりとさせることは難しく、 な意見が出たのであろう。最も多かったものが、反対、 席の存在を多くの人に見てもらう事や、楽しんでもらう事で祭りや りではあるが、祭りを観てもらう事に視点を置いていたため、 いうことを主張していた。また、賛成とした人は、神事としての り、イベントとして行われることに不満を感じ、 いう事は一致していたが、 る人が多かったようだ 台輪を知ってもらいたいという気持ちから、桟敷席に対して肯定的 以上みてきた中では、 周知のためにはこういったイベントも必要であると考えてい 桟敷席の場所に問題があることや、 桟敷席での一斉あおりはイベントであると 反対とした人は、 だが、 あまり好ましくはないが、 時間を取られる事や本来の祭り 台輪の運行は神事であ 見せ物ではないと 賛成とはっ 神事という 人集 桟敷

三 二〇〇九年度からの試み

町内の意見を取り上げてみたい。新しい試みがあった。これらの新しく始まったイベントに対し、各を一緒に運行させることと、立売町のアーケードの街灯を消灯する二○○九年度から、帰り台輪の際に子どもたちにしばたっ子台輪

りや台輪運行への参加に繋がると考え、小さいころから台輪に関わが、良い試みと感じていた。彼らは、子ども台輪の経験がのちに祭子ども台輪の参加については、二二人から伺った。その内一六人

不足の問題の解消につながると考えている。 も台輪について、泉町総取締のAさん(一九五六年生)は、 礼として考えている点が見られる。これらのことを踏まえて、 ことで怖さを乗り越えて大人になる。そのため、帰りに子ども台輪 したように、帰り台輪では、 行もイベントとして捉えられる恐れを抱いている人もいる。 のKさん(一九四 市に力を貸しているだけ」と述べていた。 も台輪は市のイベントであって、町内のイベントではない。 台輪に関わってほしいと考えている。このことから、台輪を人生儀 を曳くことは必要ないのではないか」として、年相応になってから が入ることに抵抗があるとみられる。 から台輪に興味を持ち、 る子どもたちの経験を大切にしたいと捉えている。 (一九四八年生) は、 二年生)のように怪我の恐れがあり、本台輪の 「子どもは台輪を見て憧れ、実際に経験する 祭りに関わってくることで、 激しいもみ合いがあるため、子ども また、三之町お囃子Sさん しかし、三之町 また、 曳き手の人手 幼いころ お囃 町内が 子ど 子ど 前述 運 子

1 とともに参加する面では、 祭りの雰囲気を味わってもらいたいと考えている。 いという点で、 に生かしていきたいと語ってくれた。幼少の頃から台輪に関わるこ 本台輪の運行とは別物という認識である。 (一九五四年生) は子ども台輪をイベントではなく、本台輪ととも ,の場所を避けてはいるが、それでも危険な場合があり、 今回 祭りへの興味を持ち、 話を聞いた方々は、 有意義な試みであるとし、子ども台輪に参加して、 子ども台輪は安全面に気をつけ、 全体的に子ども台輪はイベントであり、 その後、 本台輪に参加するかもしれな だが、上町役員Tさん しかし、 それを懸 本台輪 もみ合

> わけではない。 念している意見や、子ども台輪の存在を疑問視している人もいない

見て、 昔ながらの伝統的な祭りであることを主張でき、 に、 りだけが灯されている演出がとても良いと述べていた。 町頭取Fさん(一九五三年生)は、 来一緒に運行していくことを望んでいるようであった。 えは六町内全体にあり、 もあることから、幼い時から祭りに興味を持ってもらいたいとの考 だがしかし、 立売町の消灯については、三二人の方にお話を伺った。 昔の雰囲気を出していた、と観客からも評価が高かったので、 「綺麗であった、よかった」 曳き手の減少や若者の台輪離れという後継者 現在子ども台輪に参加している子たちと将 が二七人と多数であった。 暗い中での運行で、 最近の祭りとは 提灯の このよう 全体 0 的に 明 間 題

り、 るなどを試みてはどうだろうかとの意見を出していた。 の様子を中継する、 BのOさん (一九四四年生) 取Mさん(一九六二年生)、 人が多く、肯定的な意見が多く現れたのであろう。 いる声の表れであろう。そのため、イベント化と分けて考えている 消すことを好ましいと思っている人が何人かいた。 アーケードがなく、街灯もない頃の運行を知っているため電 町の雰囲気が変わっていく中で、 各町内で提灯を増やす、家々が提灯をぶら下げ らは、 小頭Sさん(一九七九年生)や下町O 桟敷席にモニターを用意し、 伝統的な台輪の運行を望 また、 町並みが変わ 両町 副 頭

(一九六六年生)や上町小頭Yさん(一九六七年生)は、梶棒と引逆に明かりがなさすぎるという意見もあり、泉町小頭Hさん

違った面を見せることができたと捉えている

に良いと感じているようである。できないとしている人もいるのだ。しかし、祭りの風情を出すためいた。このように諸手を挙げて、この取り組みを受け入れることは踏まれるかもしれないので、安全面で不安が残るという点をあげて

口 ジックな気持ちにさせていたのではないのだろうか。 思い出させ、見物客だけではなく、 ていたことは、 番多かっ 以上を考えると、やはり、 聞いた意見の中で、 た意見として上がった理由なのではないだろうか それが、アーケードや街灯がない時 綺麗であった、良かったというものが、 明かりが消えた中で台輪 運行していた方にもノスタル 代の台輪運行を の提灯が それが、 灯 今

四 祭り以外の行事への参加

国体 ている。 参加した。 皇陛下即位二〇周年記念奉祝事業へは上町、 事として、 台輪は、 の開会式におけるオープニングセレモニーで新潟県 二○○九年度は第六四回新潟国民体育大会(トキめき新潟 上町と泉町の二町内の台輪が参加した。 今回はこの二つを取り上げ分析したい 奉納台輪 帰り台輪などの伝統的な祭り以外にも参 下 町 四之町 また東京での天 の伝 両 統行 加し 町

輪が選ばれたことは名誉であり、良いとする意見は一六人中六人いしたい。台輪が認められたと思う」と言う。新潟県の代表として台とは嬉しいし、名誉なことなので今後開催されるときは、また参加四之町の副頭取Sさん(一九六八年生)は、「国体に呼ばれたこ

加ではあるが、

泉町頭取のIさん

(一九五六年生)

0)

「伝統芸能だ

国

[体参

加については、

一六人から話を伺った。

が、 意見に繋がってくる。 繋がらないし ぜなら、そのことだけに税金をかけても新発田台輪のアピー 当然であった。そうした背景もあることから、 たし、扱いも良くして欲しかった」といった意見が出てくるのも 輪を甘く見ないで欲しい。 のHさん の負担の割合に比べ、不満が残る出演であったと感じ、 や小頭Sさん (一九七〇年生) 年生)、Kさん(一九四九年生)、 露も五分程度であった。 みとなった。打ち合わせとは全く違うものとなり、 あおるという話であった。 今回の国体での運行は、 に運行を行った上町、 行う新発田の祭りの良さを再確認する意見もあった。 は新発田の街が背景にあった方が映えるといった、 見栄えもするし、 した意見が多かったのだと考える。 と考え、それに関わることが誇らしいと捉えているからこそ、 た。こうした全国的な行事に出る事は、 (一九六六年生)の 最終的には、 (一九六六年 簡単に新発田台輪を出すのはどうかと思う」 スタジアムの隅に置かれた合板の上でのあおりの 数が少ないと迫力に欠けるという意見や、 出 町おこしや新発田の宣伝としてのイベント参 泉町の方々の意見は厳しいものが多かった。 生 当初は、 そのため、 演時間が短すぎて、 当日までにリハーサルを二回行ってきた リハー 0) 「乗り手、 は、 スタジアムの中で一周し、 ・サルも意味がなくなってしまっ 中でも、 小頭のYさん 準備段階での苦労や、 上町お囃子のMさん(一九四七 伝統行事として認められる 曳き子みんな含めて、 意味がた 六台が揃っていた方が 三之町小頭Tさん (一九六七年生) また、 六町内そろって ないと思う。 しかし、 台輪 泉町小 金銭 という 中央で -ルにも 台輪に 面 な 頭

う誇りを大切にしていきたいと感じたのではないだろうか。に、こういったイベント事に参加する際にも、伝統芸能であるといからプライドがある。そこを酌んでもらいたかった」にあるよう

う_。 生)、 うかがえる。 思う」というように、 之町お囃子Kさん(一九四二年生)のように、 Sさん(一九六六年生)、下町小頭Bさん(一九七〇年生) 思った」という風に、 なければこのようなイベントへの参加は町おこしとして必要だとも 本人として、 なったように見受けられる。また上町お囃子Mさん(一九四七年 ントのために、 が引き立つと考えていたことにも注目したい。さらに、三之町会計 した」と、 りをアピールする場が与えられていた中で、四之町副頭取Tさん ないイベントだと捉えている。 が強く、名誉なことであり、誇りに思うという意見があがった。 (一九六八年生) は、 天皇奉祝事業については、 (一九六九年生) は イベントではなく、 新発田の祭りは地元でやるのが一番いいという話もあり、 小頭〇さん(一九六九年生)は、 「天皇は神道に深くかかわっているから自然な発想で敬 新潟県の代表として台輪の運行を行っていたことからも また、四之町頭取Sさん(一九六四年生)、 天皇をあがめるのは普通の事」、 市外へ出ることで本来の祭りへ対する思い 「常に「見せてやろう」という気持ちで運行 町おこしの観点からみると、存在を無視でき 新発田の台輪は六台六町内が揃ってこそ良さ 「六台揃っていた方がより良いものになると お祝い事だから盛り上げる役。 四之町の副頭取Sさん(一九六四 見物客の多い東京で、 新潟県の代表としての意識 「本当の祭りが壊れ 下町お囃子Tさん 新発田 一人の 小 が のよう 頭のさ 強く -の 祭 年

あった。いと思う」というように、天皇奉祝事業は特別と捉えている意見もいと思う」というように、天皇奉祝事業は特別と捉えている意見も(一九四六年生)の「天皇が大好きだし、天皇に呼ばれれば行きた

ない。 を外部へ持ち出すことに抵抗を感じている人もいたことは無視でき 参加者集めで苦労も多く、 ように思える。しかし、大きな行事が二回続いていたため、 周知させることでも良い機会だったため、 見受けられた。また、町おこしとしての行事参加や、 ので、六台揃って行われる新発田祭りへの思いが強くなったように が多くみられた。これらは六町内全部が揃っての参加ではなかった 潟県の代表だから名誉である、誇らしい気持ちがあるといった意見 この二つをまとめると、 いかに注目度が高いイベントでも、 双方とも、 伝統芸能として認められ、 肯定的な意見が多か 新発田 準備や 一祭りを っった 新

かなど、 運行の捉え方について大きな転換期に来ていると思う。 かった。時代の流れや、 間にアピールするかを、 有効活用することに抵抗がないわけではない。 あった。 行だけでは新発田祭りや台輪を残していけないと感じる人が多数で りのイベント化に関しては、ないよりはあった方がよいのでは 全体を通してみると、こういった、祭り以外の運行も必要であ 行った方がいいと考えている人は数が少ないわけでは 一概に賛否を問わない意見が多くでていた。 台輪の外部イベントへの参加も、 人の考え方の変化から、 イベントを通して考え直している人も多 観光資源としての祭りを 祭りや台輪をどう世 祭礼以外の台輪 町方だけの運 な

まとめ

発田台輪にかける想いは同じだと感じた。 たちは、調査をしていく中で、役職の差こそあれ、新発田祭り、新祭りの歴史と、それを伝えてきた人々の想いである。少なくとも私できたが、その中で見えてきたことは、市民に愛されてきた新発田不発田祭りの概要、新発田祭り参加者たちの祭りの捉え方を書い

は特に変わってきたと考える。い、けんかに対する認識や、祭礼以外での台輪の運行などの捉え方伝えられていくものが変わってきたことも多い。その中で、もみ合新発田祭りは三○○年近い歴史を誇り、時代を経ていくにつれ、

うゝ。とする人々の新発田祭りへの想いに、変わりはないのではないだろとする人々の新発田祭りへの想いに、変わりはないのではないだろいていくことだろう。だが、それを連綿と受け継ぎ、伝えていこう新発田祭りはこれからも、時代時代でさらに変化を遂げながら続

1

副頭取Dさん(泉)、頭取Iさん(泉)]

頭取Iさん(泉)、小頭Sさん(上)他]

[頭取Sさん(四)、小頭Oさん(四)、小頭Iさん(四)]

7

町と四之町のお囃子が参加した。 一一月三日~四日にかけて行われた日本祭囃子フェスティバルのこと。三之2 二〇〇一年に群馬県で行われた第一六回国民文化祭の催しのひとつで、

^{3 [}お囃子Kさん (三)、頭取Sさん (四)]

^{4 [}お囃子Sさん (三)、副頭取Tさん (四)、お囃子Sさん (四)]

^{5 [}頭取Fさん (三)、小頭Iさん (三)、副頭取Sさん (四)、小頭Oさん (四)、

^{6 [}小頭Tさん (三)、会計Sさん (三)、小頭Iさん (三)、小頭Iさん (

第二章 組織から見る台輪運行

宮澤健人、小倉春美、渡邊

舞

はじめに

之町 町の分析と表は二〇一〇年度の調査内容である そしてそれらの行事を通して広がる、 よって異なるイベントや祭りに関する行事を抜き出し、分析する。 時系列に現し、その表を基にその年の祭りの「始まり」から「終わ 度の八月二六日から三○日までの各町に見られるそれぞれの動きを について触れる。三節では、祭りが行われた平成二一年度と二二年 発田市からの補助金、そして各町が収集している寄付金のシステム る役職を見ていく。二節では、 役職の関係性や立ち位置、 飾り人形や装飾が六通り見られるように、 毎年の新発田祭りでは華やかな台輪運行を行う事ができる。 ている。 節では、 毎年行われる新発田祭りになくてはならない台輪。 を分析する。 下町 四之町 尚 四節の 六町は町ごとに組織を形成し、 六町それぞれの組織を分析した上で、 泉町、 節の 泉町の分析と表は二〇〇九年度の 「各町の年間行事と新発田祭り」 四節では、 三之町、 「組織図分析」、三節の 四之町、 町によって異なる役職の人数や華段に乗 年間行事を表に現し、そこから各町に 台輪運行に欠かすことのできない新 両町の計六町が一台ずつ保持し 町毎の 日々結束力を高めることで 町の組織も六通りある。 「祭り期間中の各町 「仲間 台輪を運行する各 で取り上げる の輪」 上町 この台輪は上 を明らか 下 台輪の 町 両 Ö

以下のような構成となっている。ある。この組織は新発田市まちづくり振興公社のFさんによると、あお、台輪運行を全体的に統括しているのは、台輪連絡協議会で

おる。

一台輪連絡協議会は各町内の保存会から一名ずつ推薦され、計六名
といる関係から、新発田市の教育委員会が加わる事が
な化財となっている関係から、新発田市の教育委員会が加わる事が
の日程調節などが必要な場合には、市の観光課が、また台輪が市の
の日程調節などが必要な場合には、市の観光課が、また台輪が市の
の日程調節などが必要な場合には、市の観光課が、また台輪が市の
の日程調節などが必要な場合には、市の観光課が、また台輪が市の

祭り開催に伴い、警察や消防、道路関連の 察や消防、道路関連の いる。さらに毎年、城 下町しばた祭り開催実 下町しばた祭り開催実 下野しばた祭り開催実 下野しばた祭り開催実

一節 組織図分析

織のあり方と、祭り当に町によって異なる組



三之町い組台輪 商店街通りにて

締)の関係性や立ち位置を項目ごとに見てゆく。日に台輪を運行する各役職(頭取・副頭取・小頭・副小頭

総取

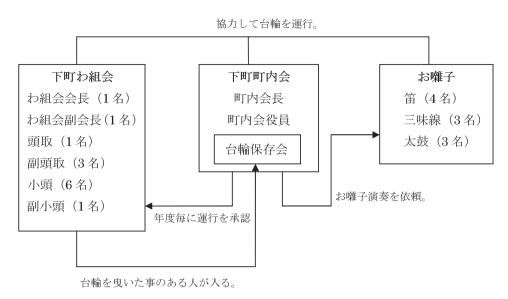
、町ごとの組織体系

ここでは、組織図から組織体系を町ごとに見てゆく。

上町

<保存会> 町内会長 保存会長 顧問 保存会 11 名 役員 1名 頭取 <お囃子> 副頭取 2名 三味線 3名 1名 太鼓 2名 小頭 総取締 1名 笛 3名 平成 22 年度上町組織図 (表一)

> 持ち、 取・ 織とは直接繋がりを持たず、 位置付けとしては保存会よりも下にある。 行する人々へ指示出し等を行っている。 は保存会を経験したOBからなる。 る人々に指示を出す。 に貢献した人も入る。 を運行する際にうまく仲間をまとめ、豊富な経験を持ち、 運行する中で一番上の頭取を経験した人が入る。それに加え、 長 上町組織図を見ると、 副頭取・小頭を経験した者がなる。 保存会長、 上町では名誉職である。 保存会役員で構成されている。保存会には、 続いて、保存会の隣に記されている『顧問』 保存会の役割は、 組織の一番上に「保存会」があり、 単独の組織と言える。 「役員」は、 顧問は、 彼らは祭り当日、 役割は保存会と同じだが、 祭り当日まで台輪を運行す 「お囃子」は、 町内会長と同じ権限を 台輪の華段に立つ頭 上町台輪 台輪の 台輪を運 町内会 台輪を 台輪 組



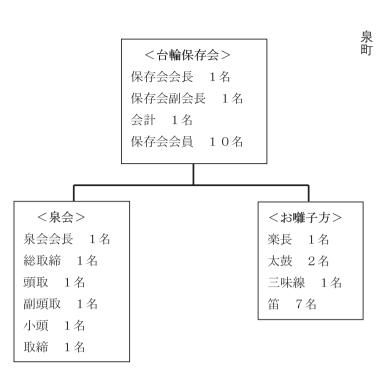
平成22年度下町組織図 (表二)

を盛り上げている。

ある。 組織 が町内会の了解を得た上で台輪を運行している。 独立した組織だが、 長を中心として組織が運営されている。 異なる独立した組織である。 きな人達が曳き子の人数確保のために設立したもので、 心として「下町わ組会」、 縦に並んだピラミッド式になっている。 ではなく横に並んでいる点である。 下 以上のように、 町 その 組織図を見ると、 祭り当日の 理 強由は "独立" お囃 下町台輪は町 祭り当日は三つの組織が協力し合い、 他 子演奏は である。 0 「お囃子」と三つの組織が横並びの そのため、 町と大きく異なるのは、 町内会から依頼を受けて行ってい 内会に所属しているため、 わ組会は、 下町以外では、 下町は 町内会とわ組会はそれぞれ 台輪運行時には、 昭 「下町」 お囃子も独立 和四五年に祭り好 上と下の [町内会] 組織体系が 町 下町台輪 わ組会会 内会とは わ組会 組 形で を中 織

して、 長 会長が祭りに関係した仕事と町の行事の二つの役を担ってい よりも上に総取締が位置している。 9 織を構成し、 泉町 0) 総 組 取締、 「織がその下に繋がっている。 泉町台輪を運行する泉会と、お囃子を演奏するお囃子方の二 は 「台輪保存会」、 頭取、 一町内会」はない。台輪保存会が中心となり、 副頭取、 「泉会」、 小頭の順となっている。 泉会における役職は、 「お囃子方」という三つの 泉会では頭取

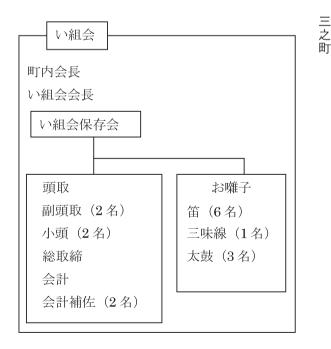
泉会会



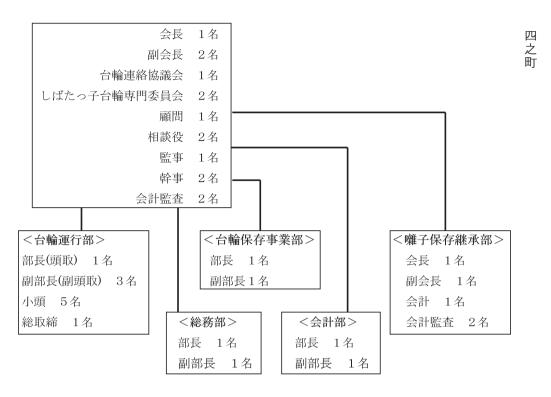
平成21年度泉町組織図 (表三)

役職」 る め役が存在する。 長』と共に、 長はいるが 三之町 は、 「お囃子」の三つの組織がピラミッド式に形成されてい い組会をまとめる『い組会会長』 町 町の組織全てが「い組会」 内会」 い組会には はない。 い また町内全体をまとめる 組会保存会」 の中にある。 がいて、 「台輪を運行する また、 二つのまと 町 町内会 内会

保存会



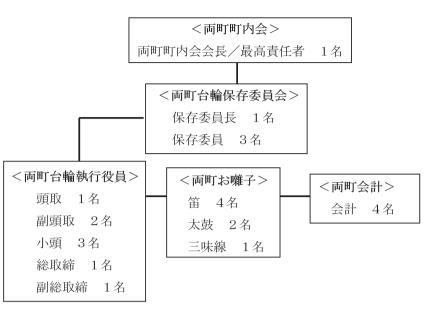
平成21年度三之町組織図 (表四)



平成21年度四之町組織図 (表五)

した後に法被を回収する等の事務役である。

も全て含めて、 いる。その下に、 ない。祭りに関連する事業は全て「し プのトップは部長である。 グループが〝会〞ではなく〝部〞としてあるのも特色で、 存継承部」、 四之町では、 総務部は、 「総務部」、「会計部」 祭りに参加する人々の申し込みの受付、 し組台輪保存継承会となる。 「町内会」 「台輪運行部」、 また、 はあるが、 他の五町にはない「総務部」 「台輪保存事業部」、 の五つの組織があり、 組台輪保存継承会」 台輪に直接的な関わりを持た 四之町は、 祭りが終了 各グルー が担って 「囃子保 つの があ



平成22年度両町組織図 (表六)

よっ が、 上 頭取経験者がなる。 ている。 「お囃子」 町 の場合は、 両 線での繋がりでなく、 て下へと繋がってい プに位置し 町 泉町、 は 一本の線で繋がっている。 両町では、 グループ同士を繋げる線は 三之町、 「会計」と五つの組織で形成され 内会」 その下に保存委員会を含めた四 保存委員会を構成する保存委員長 両 町は 四之町の場合、 た。 町としての繋がりで 台輪保存委員会」 ″組織の繋がり方∜ 下 町 は 組織 組 織 両 図の中から 0 町 中 あっ 一町内会から両町 が他町とは異なる。 てい 「台輪執行役員」 の三つ た。 \mathcal{O} 組 複数 しかし、 0 保存委員は 織が繋がっ グ 町内会が ル 0 線に プ 両

台輪運行を行う役職の関係性と位 台輪運行を行う役職 0

置

頭取 上で、 副 取 ŋ なってい に、 取締となっている。 小 台輪は多くの人々の手によって運行されている。 頭取 この 頭 両 から総取 その役職は頭 副 曳き手をまとめ効率よく運行するために、 が 頭 町 心は部 る。 あ Ò 取 五. 場 つの る 合は上位職から順に、 小 長 四之町の 締までの 役職 頭 泉 取 副 前 副 取締は曳き手をまとめる役割を持つ 頭 は の関係性を見ていこう。 -副頭 し組 役職に焦点を当てて、 取 小 頭 は 総 副部 台輪保存継承会では運行部という枠があ 取 取 総取 締 長 小 な締とない の役職も担っ 頭 頭 頭 ĺ 取 取 〒 ŋ 副 副 町 頭 他 分析してい 頭 0) 上町 取 7 0 副 取 各町には役職 五. 1 小 つの その台輪を曳く る。 頭 小 四之町 頭となっ 頭 が、 い町には 下 町は、 総取 今回 は 取 三之 協締と じめ な 締 が 頭 は

7

場合は四つ、 は、 ここで見られるように、 頭取よりも上に総取締が 乃至は五つの役職のト 上町・下 いる。 . ツ 町 プが頭取である。 四之町・ 三之町 かし 両 泉町 町 0

二 台輪運行を行う役職の役割

泉町 頭は下 下町・ 副頭 段の中段・下段に乗り、 棒や曳き手に直接指示する役割を担っている。 報を伝達し、 りやもみ合いを指示し運行することである。 上 の補助もするので、 梶棒のまとめ役である。また、 小 曳き手をまとめる役割を持つ。 て小頭は華段の下段に立ち、 役割を含め、 輪下で取締や曳き手、 おりが行われる際、 三之町・両町は頭取がトップに立っている。 ここでは、 町 頭がおり、 取· 副 は 頭取・ ・町にのみある。 泉町・三之町・両町は、 卣 小頭以下をまとめる。 総取 その中の一名はわ組会の会計職も兼任している。 周りを見て頭取をサポートする。 小頭 年間のスケジュール管理の仕事も任されている。 五つの役職を分析していこう。 四之町・ 締に頭取経験者がなり ・ (下町は副小頭) 台輪の上にて番丁を叩く役割もある。 梶棒と補助 梶棒を指示し、まとめる。下町は祭り当日 三之町 副小頭自ら梶棒を曳くと共に、 頭取をサポートし、 どの方向に振って動くか等の運行を梶 ・両町では複数いる取締を統括する 総取締よりも上の位にあり、 組織図にあるように下町には六名の 華段の中段に立ち、 続いて副頭取についてだが、 の二役を任されている。 ・総取締以下をまとめ、 現頭取のサポートをするの 上町・下町・ 泉町も同じで、 役割は華段の上段に立 台輪下で取締 四之町と両町は 加えて四之町では華 頭取と小頭の情 複数人で曳く 総取 四之町 雅 また、 総取締 上町 頭 が締は 副小 続い 取は あお 棒 0 台 あ

役職のトップに位置している。

で、

生) は、 複数の役職が番丁の役割も任せられていることがわかる 0る」と語っている。 小頭・取締が担当し、 ているが、泉町のYさん いたとわかる。昨今、 とから、以前は四之町・ なるため、ここ二○年くらいは会計がやっている」と語っているこ 担当していた。 くのだ。一方、三之町は会計が番丁を担当する。 当する。このように信頼に加えて、 意を促す合図になるので、 語っている。また、下町では番丁を叩くことがあおりや曳き子の の流れ・様子を見た上で番丁を叩くことができたのでよかった」と Mさん(一九六二年生)は「(二〇一〇年度は) で、 之町では、 際、 (一九四八年生) は、 また台輪の役割に番丁がある。これは台輪運行中にあおりを行う 周りから信頼されている人の役割だとわかる。さらに、 その始まりと終わりに合図として木片で版を叩く役である。 副頭取も番丁を叩くことがある。 「番丁を叩くのは、 副頭取がこれを担当する。 しかし副頭取が番丁をすると、 また、 その時々の状況に応じて番丁を叩く人が変わ 泉町は副頭取・小頭・ 「番丁は会計の役だが、 両町 (一九三七年 台輪をよくわかっている頭取経験者が 上町では主に小頭が担当し 次期頭取が担当する」と語っているの 0 ように副頭取が 台輪運行をよく理解した人が これらから泉町、 生 四之町のSさん(一九五九年 は、 取締が番丁の これは元々副頭 を番丁の! 仕事がままならなく 「基本的に 梶棒の様子や全体 三之町のNさん)役割を ているもの 前では、 副 担当をし 両 頭取 担って 取が 町 吅 担 注 Ó

三 台輪運行を行う役職の人数

ここでは各町によって異なる、各役職の人数について見ていく。

上町=頭取-一、副頭取-二、小頭-一、総取締-一(名)泉町=総取締-一、頭取-一、副頭取-三、小頭-五(名)

下町=頭取-一、副頭取-三、小頭-六、副小頭-一、総取締-一(名)

三之町=頭取-一、副頭取-二、小頭-二、総取締-一(名)

四之町=頭取-一、副頭取-三、小頭-五、総取締-一(名)

このように頭取・総取締は六つの町、一人ずつだが、副頭取・両町=頭取-一、副頭取-一、小頭-三、総取締-一(名)

ないが、 副 頭は人数が異なる。 た三之町のNさん(一九四八年生) 頭取が二人なのは、 自分が出ている二○~三○年はずっと変わらない。 三之町のWさん(一九六四年生) やっぱり伝統だと思う。 は、 「三〇年以上はこの形で 昔のことは は、 小 わ から 頭 ま /[\

名・ 数は変わっていない。 同じくここ三〇年は役職の人 ら順に頭 年くらい前は、 が見て取れる。 長年の伝統を守っていること 頭の人数が変わっていない。 ともここ三○年は副頭取と小 ことから、 運行している」と語っている |九三七年生) っているので、 小頭三名が乗っていた」 取一 三之町では少なく 名 華段には上か 泉町のYさん が、 三之町と 副 頭 方 取二



両町台輪 商店街通りにて

のだ。 い町もあれば、 の人数への意識は異なっており、 台輪を運行していることがわかる。 する」と語る。このことから、 ておらず、その年々によって異なり、 之町のYさん (一九五 その年の状況によって人数を変える町もあるという 九年生) その年 は、 今までの 以上のことから、 Ó 頭取が選出し役員会議で決定 副 状況に応じた役職 頭 「取と小 伝統を守り人数を変えな 頭 の人数は 各町の各役職 決まっ 人数で

四 台輪運行を行う役職の華段の位置

泉町=上段・頭取一、中段・副頭取一、下段・小頭一(名) 次に各町の祭り当日における、各役職の華段の位置を見ていこう。

上町=上段・頭取一、中段・副頭取一、下段・小頭一(名)

下町=上段・頭取一、中段・副頭取一、下段・小頭一(名)

三之町=上段・頭取一、中段・副頭取二、下段・小頭二(名)

四之町=上段・頭取一、中段・小頭一、下段・小頭一(名)

両町=上段・頭取一、中段・副頭取一、下段・小頭一(名)

の調 ではなく長い間続いている伝統と見て取れる。 ことから、 取が立つが、中段や下段の配置は町によって異なる」と語る。 の終り頃から続い の配置を決める。 職や人数は町によって異なっている。 このように華段の上段に立つのは頭取だが、 は、 査により、 「毎年、 華段の中段 四之町は奉納と帰りで中段・下段に立つ小頭 現段階の、 ている。 その年の頭取によって、 ・下段に小 他 頭取 の町 頭が立つことは近年始まったもの にも言えるが、 小 頭 四之町のYさん(一九五九年 ―小頭という配置は、 誰が華段のどこに立 また、二〇〇九年度 中段・下段に立つ役 華段の上段には 一つか が 頭 和

番に頭 れる。 る。 乗れないので、二人以上作っても無駄」と語る。 る わ 下段に乗る役職や人数は せる事もある。 とがわかる。 あるが、 れないため、 伝統を見ることができる。また、三之町台輪には一段に二人しか乗 こ三○年はこの形で運行している。また、 ずっとそうしてきたから。 Nさん (一九四八年生) 段・下段については各町 三○年くらい前は六人乗りをしていたそうだ。たまには、 っている。 のは頭取であ このことから頭取以外、 いでいることが読み取れる。 菆 泉町のHさん(一九六五年生)は、 下が上の役職より位置が高くなることはない」と語って 副頭取・ また、 華段に乗れる人数に合わせて決めていることが読み取 四之町のYさんの話にある様に、 以上のことから、 ŋ, 三之町は華段の上に計五人、 副頭取の順番や頭取・小頭・小頭ということも 小 頭 は、 の采配によることも理解できる。 の中の若手が立つこともある。 最初がどうだったかはわからないが、 町によって異なり、 華段に乗る人数は決められていないこ 「副頭取と小頭が二人なのは、 華段の上段は頭取が乗り、 華段の一段には二人し 「今では三人乗りだが、 華段に立つ人を決 各町の伝統の形を引 ここでも三之町 泉町は計六人を乗 また、 三之町 上から順 中 伝 段. か で 中 め 0 Ó

節 補助金と寄付金

要不可欠である補助金と寄付金について述べていく 年の新発田祭りでの台輪運 そして各町は寄付金を募っている。 行に向けて各町は市 ここでは から補助金をも 台 輪 運行に必

市からの 7補助金

支出について新発田市のホー

ムページから抜粋した、

「平成二一

年

補助金を得ている。 新発田市の文化財となっており、 Ŀ. 町 下町、 泉町、 ここでは市から得る補助金 三之町、 四之町、 各町は毎年新発田祭り開 両町が保持している台輪は について述べ 催 る。

から得た、 り七○万円前後の補助金を得ている。 は市から約七○万円頂いた」と述べていることから、 金の額に関して、 渡って各町は毎年、 う。このことから二○一○年度の新発田祭りを含めて二○年以上に レー 金額は不明だが、 台輪連絡協議会の方の話では、 「不況による補助金の軽減もあった」と述べている事か ·ド開催時には市からの補助金がすでに各町へ出ていた」とい 補助金の金額には差異がある事が見えてきた。 両町のSさん(一九三七年生) 補助金を得ていることになる。 補助金が発生した当初と近年の新発田 「平成二年に行われた天皇奉祝パ しかし、 台輪連絡協議会の方 が「二〇〇九年度 市から出る補助 年間 祭りで市 町 内当

助 興公社が担当している。 では各事業体が役割を持ち、 実行委員会から各町へ渡され 件の審議などを行っている。 商工会議所の三つの事業体から構成され、 をしておく。 町新発田まつり開催実行委員会(以下、 人会などから様々な人が参加し運営されている。 金が渡されている。 続いて、 補助金のシステムについて述べよう。 この開催実行委員会は新発田市・ また、 以上 れている。 また、 平成二一年度の新発田祭りでの収入・ のように、 補助金等の出納については街づくり振 実行委員の中には自治会や、 また、 開催実行委員会) 様々な協力を経て各町 新発田祭りについての案 開催実行委員会の内部 街づくり振興 その前に、 補助金はこの 公社 の説明 「城下 開 補

1 が

ので、合わせて見てもらいたい。
度 城下町新発田まつり決算書」(次ページ)に細かく記してある

二、町内寄付金

町、両町の町内寄付金について見ていこう。

六町はそれぞれの町内で寄付金を募っている。ここでは上町、下

[寄付金に関する町ごとの動き]

上町 四つの班と別班の五班の二手に分かれて寄付金の収集を行っ金を集めている。町ごとにその内容を見てゆく。上町、下町、両町では「班」や「係」を決めて、毎年町内の寄付

付金に 計 外の大きな企業や新道方面の店を回る。 班ともに取締が担当している。 ている。 五班は華段に乗る頭取 が いないので、 兀 「一口いくら」といった基準は無い。 四班は取締が担当し、 「つの班と別班の五班の二手に分かれて寄付金の収集を行っ 会計職は取締が行っている。 副頭取、 上町の町内を回り寄付金を集める。 組織図にあるように、 小頭と取締の有志で構成され 班の構成をみると四 町内で収集する寄 上町には 班 会 町 五.

を行う。 下町 会の小頭一名が会計職を兼任し、 た、 してお 必要な金額をわ組会に渡している。 金額の寄付金を収集している。収集した寄付金は町内会が管理し には班長がいる。下町ではその地域在住の担当者が行っている。 各班に対して収集する金額を設定しており、 ŋ 寄付金を収集するため地域を七等分した班が形成され、 下町では事前に、 金 「額は一万円と決まっている 手紙で各家庭宛てに寄付金の依頼文を出 町内会から渡された寄付金 下町にも会計職がないが、 班長が設定され の管理 各班 わ組 ま た

両

町

班,

ではなく、会計が中心となって寄付金を収集してい

る。この大口を含め、寄付金は全て会計職が管理している。付金を「大口」と呼んでおり、この収集は町内会の役員が担当すとに"係"を決め、寄付金の収集を行う。両町では三~五万円の寄る。その際は会計担当者が二~三人で回り、立売町と万町とで町ご

できる。

できる。

という大きな支えがあればこそ、毎年華やかな祭りを開催する事がで使用される提灯、扇子、法被等の費用に当てる。補助金・寄付金の台輪運行が行われている。補助金・寄付金は、台輪の整備や各町以上のように、市からの補助金と各町内での寄付金により、毎年

三節 祭り期間中の各町の動き

一、祭りの始まり

の合図が持つ意味を考えてみた。めの合図を、二六日の渡り付けと、二七日のふれ太鼓と捉え、二つ行に携わる人々の始まりはこれよりも早い。ここでは彼らの祭り始新発田祭りは八月二七日から二九日までである。しかし、台輪運

平成21年度 城下町新発田まつり決算書

[収入の部]

(単位:円)

項目	予算額(A)	決算額(8)	差额(B)-(A)	袋 明
7 市民寄付金	6,900,000	6,428,422	△ 471,578	市全域世帯(約34,000世帯)
2 特別協賛金	11,000,000	12,047,030	1,047,030	各華集所(花火協發·核散席抽選会協簽含む)
3 負担金	9,800,000	9.800,000	0	
(1)新発田市	9,000,000	9,000,000	0	
(2)紫雪寺地区観光協会	800,000	800,000	0	
4 模數席販売収入	1,100,000	1,091,000	△ 9,000	1,000円×1,091席
5 難 収 入	3,542	47,650	44,108	金魚台輪材料費-露店水道代等
単年度収入額(A)	28,803,542	29,414,102	610,560	
6 前年度繰越金	102,458	102,458	0	平成20年度からの鰻越金
収入合計 (B)	28,906,000	29,516,560	610,560	

【支出の部】

(単位:円)

項目	予算額(A)	決算額(B)	養額(B)-(A)	競 明
事業費	19,390,000	19,200,507	Δ 189,493	
(1) 海上花火	3,300,000	2,671,692	△ 625,308	花火代金、打上経費、放送股價、傷害保險等
(2)よさこいしばた	190,000	90,893	△ 99,107	優客保険料, 放送設備等
(3)しばたっその祭典	210.000	225,175	15,175	参加団体謝礼、保装料、飲物代等
(4)民語流し	380,000	377,400	△ 2.600	講師・地方側礼、豆しぼり等
(5)神典渡御・金魚台輪町内回り	1,400,000	1.334 585	Δ 85,415	団体助成金、傷害保険料、お初穂等
(7)まつりパレード	1,530,000	1,393,889	△ 136,111	参加団体助成、等
(8)台 輪	5,690,000	6.077,130	387,130	台輪町内助成、保険料、進行書備等
(9)交通関係費	900,000	1,635,480	735,480	交通誘導·警備、案内看板等
(10) 核敷席	4,500,000	4,002,710	△ 497,290	模数席設営撤去費. 周辺登備等
(1))音響·放送·照明	1,070,000	1,098,500	28,500	市内·神社内放送設備、照明器具等
(12)親 費	220,000	293,053	73,053	資材、クリーニング、ボケットコート等
2 総 務 費	9,434,000	9,957,390	523,390	
(1)会 議 費	41,000	21,510	△ 19,490	会場借用料、お茶代
(2)報贷費	150,000	150,000	0	職人町獅子、諏訪神社、市民寄付手数料等
(3)広告宣伝費	625,000	677,500	52,500	告マスコミ関係等
(4)質 金	180,000	210,135	30,135	露店区域・イベント会場清掃賃金等
(5)消耗品費	150,000	159,325	9,325	事務用消耗品等
(6)食糧費	260,000	262,029	2,029	まつり本部、夜間従事者食事
(7)印刷製本費	2,100,000	1,808,220	△ 291,780	プログラム、ポスター、交通規制図等
(8)通信運搬費	240,000	232,428	△ 7,572	切手等
(9)使用賃借料	420,000	309,153	△ 110,847	仮設トイレ、レンタカー等
(10) 手数料	948,000	795,690	△ 152,310	道路・側清清掃。ゴミ処理、提灯設置
(11)股債費	50,000	32,068	△ 17.932	仮設水道工事等
(12)電気工事費	4,200,000	5,155,000	955,000	露店・アーケード・検敷等仮設電気工事
(13)修繕費	50,000	127,217	77,217	提灯、硬質計算機能選等
(14)報 費	20,000	17,115	△ 2,885	振込手数料,取扱手数料等
予 備 費	82,000	0	△ 82,000	11 -
支出合計(C)	28,906,000	29,157,897	251,897	
収支差額	0	358.663	358,663	

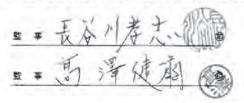
収入合計金額(B) ¥29,516,560

支出合計金額(C) ¥29, 167, 897

収支差額 ¥358 663

平成21年度城下町新発田まつり開催実行委員会の会計を監査した結果、適正であると認めます。

平成22年1月13日



全町統 の三 いってよいだろう。 があるため泉町・上町 整えた上で行うので、祭りの一番始まりといえる。渡り付けは由 るものである。 町では重要な行事であり、これがなくては祭りが始まらない。 四之町・三之町をみると、 り付けは町同士の挨拶であり、 一では ないが、 同時に、 ・下町のように、 渡り付けは意識的な面での祭りの始まりと 祭りが始まる意識づけにもなっている。 公会堂の清掃を終え、 祭りに対しての意気込みを伝え ない町もある。 全ての準備を しかし、 緒 両

あ

る。 歩いているので、 祭り始めの合図といえる。また太鼓を打って回る人が、 次にふれ太鼓だが、 識 太鼓を鳴らし、音で祭りの始まりを伝えているため、 面での始まりと、 一般の人にも祭りが始まることがわかる。 これは全町内で時間帯は異なるが行って 実質的な始まりと違いはあるものの、 町内を練り 実質的な どち 1

あおりの 湯所

新発田祭りの始めの重要な行事である。

おりが全町に見られる。 店街であり、 楽長の家など、 あおりを行う場所は様々である。 交差点、 している。 個人宅でのあおりは組織図と共にみると保存会役員の家、 町台輪が出発してから帰町するまでの間、 武者溜まり、 ○○さん宅前といった個人の家や商店前、 中には台輪関係者の営む店もあるために、 台輪に関わりのある人の家である。 桟敷席での一斉あおり、 家の前、 この場所の意味を考えてみる。 店先で行うあおりには、 お別れ台輪などと 盛大なあおりを披露 また通 諏訪神社 店先での 常日頃、 り道 お囃子 が商 前

> 出る。 お世 よってその場所も人数も違うため、 L話になっている方への挨拶を兼ねていると考えられる。 これにより運行の速さに違 町 に が

の奉納がこの祭りにおける重要な位置づけであることを、 発田祭りにおける神事として行うことに意義を見出しており、 おっている。 おりは 諏訪神社への 感じることのできる場所である。 祭り期間中のどのあ 諏訪神社前でのあおりは、 奉納 の際には、 おりよりも長い時間、 各町順 番にあおりを行う。 各町の人々が台輪運行を新 それも盛大にあ この 目で見 時 0

考えられているのではないだろうか 見通しの良いところでのあおりは一般客が見るポイントの一つであ 中央交差点や大栄町交差点、ウェルネット前など、 台輪を曳いている人たちにとっても存分に動かせる場所として 道幅が広く、

を出発してから一 から露店がなく、さらに広い交差点となる武者溜まりは が狭くなっているため、 溜まりの交差点までは露店が出ている。 る場である。二九日の帰り台輪の 際の町同士のあおり合い、 盛大に動かせるといった点では武者溜まりも同様で、 番初めの台輪の見せどころである。 この間はあおることができない。 もみ合いは台輪を曳く人も観客も白熱す 目 諏訪神社のある通りから武者 奉納台輪の時と違い、 帰り台輪 諏訪 このこと 道幅 神社

店街 所だけなので、 きない。 桟敷席での一斉あおりは、 の通りでは全ての台輪が 桟敷席を囲むように台輪が並び、 短い時間ではあるものの観客の注目度は高 あおっているのを同時に見ることはで 新発田祭りでの見所の一つである。 同時にあおるのはこの 商

(泉町・上 お別れ台輪の場所は上三台 前 下町) と下二

と上町 れぞれ別なので、ここが別れ の前で行われる。これは泉町 によって異なっている。上三 大栄町の通りの三之町へ入る の場であるからだ。下三台は 台のお別れ台輪は、 (三之町・ ・下町の帰る方向がそ 四之町 第四銀行 両町)



29日帰り台輪 もみ合いの様子

時間を要し、 新発田祭り最後の盛り上がりを見せる。 る。

合いであるため、

それなりの

いる。 ての意味合いを全く持たないイベントとして見られ、 あおりそのものにも意味がある。だからこそ一斉あおりは神事とし る事実が重要なのだ。台輪を運行する人々は、 b 前 りは神事 ではない。 ていると考えられる点、 .面に押し出したあおりもある。観客の側から見れば、 のが祭りである。そのため、どこであってもあおりが行われてい 奉納台輪から、 台輪運行中の行く先々でのあおりも、挨拶廻りの意味をこめ ·の一環としての行為と捉えている。 しかし一方で、一斉あおりのように観客へのアピールを 各町が祭りを神事として捉え、台輪運行を行って 観客へのアピールが主体となっているわけ あおりを行う場所にも 神事が主体で、 運行する人々 あおりその あお

れる。

これにより、

台輪運行を担っていた人たちも祭りの終わりを

からは賛否両論の声が上がるのだろう。

祭りの

町の三つである。 を考えてみる。 て祭りの終わりとなる大きな節目は、 V) 祭りの始まりと違い、 祭りが終わるという意識は人によって異なる。 この三つについて人々の捉え方から祭りの終わり 祭りの終わりはこれと決まった合図がな 一斉あおり・お別れ台輪・帰 帰り台輪におい

えられ、 の一連の流れを知らない人にとっては、この日 ないという思いは各々持っているためである。 の意味をなしていないため、また、各町内に戻るまでは終わりでは 考えている人は、まずいない。 台輪を曳いている人々の中で、 これが終われば祭りが終わると見ることもできる。 桟敷席での一斉あおりは神事として 一斉あおりが祭りの終りであると しかし、 一番の目玉とし 新発田

持つ町全体としての祭りの終わりはこのお別れ台輪といえるだろう を終えたことを伝える渡り付けを行っている町もあるため、 た祭りの終わりと考えることができる。中にはこの後に無事に祭り として、力を出し切っているようにみえることから、 ちも町に着くまでが祭りとはわかっていても、これを最後の見せ場 いる時以上のあおりは見せていない。また、台輪を曳いている人た 各町のお別れ台輪の後もあおりを行うが、 お別れ台輪は新発田祭りの最後を飾るあおり合いといってよい 町 へ帰町すると、 頭取の挨拶があり、 やはり二つ以上の 千秋楽の木やりが披露さ 観客を意識し 台輪を 台輪が

りを終える。
が、台輪の格納や打ち上げの飲み会などを経て、それぞれの思う祭が、台輪の格納や打ち上げの飲み会などを経て、それぞれの思う祭感じる。一つの町として祭りを終えるのは、頭取による締めの言葉

て、それぞれ違うところに終わりを見出している。のかには違いが出てくる。同じ立ち場にいても個人の考え方によっのかにどれだけ関わっているかにより、祭りの終わりとはどこな

平成21年新発田祭り四之町・泉町・三之町祭事日程表

		四之町 し組	泉町 泉組	三之町 い組
日程	時間	内容	内容	内容
26日(水)	14:00~	子ども台輪 町内運行		
渡り付け	18:00~	渡り付け行事		
	18:15~	両町公会堂掃除開始		
	18:35~			提灯へ灯りをつけ、三之町会館前に通路 を囲んで並べる
	18:45~			両町へ渡り付けに向かう。3人 (小頭2 人、取締2人) が両町へ 4人が四之町が 来るのを迎えに行く
	18:50~			四之町が三之町へ到着。四之町からは5 人が渡り付けとして来る 口上を伝えた 後、お神酒が振舞われる
	18:55~	三之町が来る*(小頭・総取締・取締)		
	19:06~	四之町が来る*(副頭取・小頭・取締)		
	19:15~			両町への渡り付け終了。両町について、 頭取へ報告
	19:35~			3人(副頭1人、取締2人)で職人町へ渡り付けに向かう
	20:00~			四之町が帰る。5人が途中まで送ってい く.四之町へ渡り付けに向かう。5人(小 頭1人、取締4人)が四之町へ
	21:20~			四之町への渡り付け終了。四之町について、頭取へ報告
	21:25~			職人町への渡り付け終了。職人町について、頭取へ報告
27日(木)	3:02~3:22	ふれ太鼓、町内循環		ふれ太鼓
奉納台輪	3:45~		ふれ太鼓、町内廻りに出発	
	3:55~	台輪を台輪蔵から公会堂前へ移動		
	4:00~	A IIII S A IIII/AAA S A SA A A A A A A A A A A A A A A	本町2丁目の公会堂集合	台輪出発
	4:15~	奉納台輪安全祈願神事 出陣式*	集合時間	F4 Till F4 / G
	4:30~	于#1日加久工// 城中于 田中大	X L FV IN	神事 記念撮影
	4:45~		台輪蔵にて御祓い	11.4. BENEVIANA
	4:52~	台輪をあおり、出発	日神順及でて呼吸く・	
	5:00~	町内出発	頭取、保存会長挨拶後、公会堂前木やり 3本、あおりを行い出発。本町2丁目信 号機付近、奥村建材工業前、宮沢秀雄さ ん宅前であおり	
	5:20~			台輪出発
	5:25~			格納庫前の十二提灯を通る前、渡辺生花
	5:35~	下町わ組の渡り付けが入る	本町4丁目との境であおり、駅方向に戻る。 石塚達雄さん宅前	店、パーマけいこ、鈴木商店駐車場、おりょうり沖前で木やり1本、あおり。島 井蒟蒻店にお神酒を渡す
	5:40~		会田光男さん宅前 長谷川忠勝さん宅前 山口屋前 栗賀吉弘さん宅前	わ組より渡り付け(2名)。長岡屋、花 安葬儀店前にてあおり、ヘアーサロン津 野前で木やり1本、あおり。お神酒を道 に撤る。花安葬儀店よりお供えを頂く
	5:50~		斉藤弘さん宅前であおり。 トマツ商店前あおりの後、休憩	十二提灯を出る前に木やり1本、あおり 飯島縫製前にてあおり休憩、泉組より渡 り付け
	5:55~		山田忠平さん宅前、大山正さん宅前、川	井内科医院前であおり
	6:00~			両町より渡り付け、町内出発し木やり、 大栄町前T字路であおり、あおりつつ前 進
	6:10~			一番組と向かい合い、木やり1本、あおり。し組と向かい合う、し組より渡り付け(2人)。い組木やり、し組木やり
	6:15~	三之町とのあおり合い	ホテル丸井前で木やり、あおり後、休 憩。諏訪神社前であおり、挨拶	し組、一番組ともみ合い。交差点にてあおり。し組ともみ合い。 道中であおり。 道中で木やり1本、あおり。 前輪修理
	6:17~	両町田上屋前にて四之町が三之町、上町 とあおり		

		四之町 し組	泉町 泉組	三之町 い組
日程	時間	内容	内容	内容
	6:23~	両町ウェルネット前にて四之町と三之町		
		があおり		
	6:30~		両町と武者だまりにてもみ合い	
	6:35~			道中で木やり1本、あおり。諏訪神社
				前:あおり
	6:44~7:22	泉町、両町、三之町、四之町、上町、下町の順に奉納	諏訪神社にて御参り、奉納後、各自解 散。公会堂で備品の整理、片付け	諏訪神社着。諏訪神社鳥居前:木やり5 本。池田小頭木やり。土田小頭木やり。吉 川副頭取木やり。渡辺副頭取木やり。藤田 頭取木やり。あおり。奉納(諏訪入り)
	8:00~			諏訪神社へ奉納完了
	10:00~	金魚台輪・お神輿 町内曳きまわし		
	14:30~	諏訪大神 お神輿 御巡行		
	18:00~	渡り付けの返礼		
29日(土)	15:00~	ふれ太鼓	曳き手及び役員、公会堂集合	
奉納台輪	15:30~	し組台輪参加者 諏訪神社集合	諏訪神社に集合、到着	
	16:00~	A VITTE HILLS NO. 12 NO. 14 HOUSE HE	泉組記念撮影、食事、さらし巻き	
	16:25~17:00		水風品が承次、及手、こうしもこ	神事
	10.25~11.00	下町、泉町、上町、四之町、三之町、両町の順に神事		竹中 →
	17:00~	諏訪神社にて神事		諏訪神社にてお祓いの儀式。 記念撮影
	17:30~		出発準備	
	17:50~			泉組より渡り付け
	18:00~18:30	出発、諏訪前にてあおり	下町に続き、境内にて木やり披露、あおり 後、出発。諏訪神社門にて木やり、あおり	お囃子演奏。頭取より、「自分の役職を理解し、面白い祭りにしよう」と挨拶。諏訪神社出発。あおり
	18:35~		武者だまりにて木やり(下町ともみ合い)	
	18:45~19:03	小嶋精肉店前でもみ合い	武者だまりにて木やり (上町ともみ合い)。立売町で休憩	武者溜まり着。し組、一番組、両町とも み合い
	19:25~		立売町一斉消灯、一斉あおり	大栄町着。あおり。子ども台輪木やり、 あおり
	19:35~		八百熊前にて木やり(下町ともみ合い)。 レストランモントルー前で休憩。第四銀 行前にて木やり、もみ合い(下町の後、上 町)	職人町が大栄町を通る(曳き子、観客共 に拍手で迎える)
	19:50~		M.J.	大栄町で木やり、あおり。し組より渡り 付け、両町より渡り付け
	20:15~			地域交流センター着
	20:30~20:35	桟敷席に到着、(下、泉、上、四、三、両の順)		地域交流にファー有
		(大 数角 に到有、(下、汞、上、四、二、四の順)		
	20:40~	ala). No No HHILL		
	20:48~	一斉あおり開始	一斉煽り開始。第四銀行前にて木やり、も み合い。大光銀行前まではあおらず運行	六台一斉あおり。その後両町より渡り付け。し組より渡り付け
	21:15~	両町、四之町もみ合い		
	21:30~		山田忠平さん宅前 木やり、あおり後、休憩。 斉藤弘さん宅前	大栄町着。い組、し組、両町それぞれ木 やり、あおり後、三町内最後のもみ合い
	21:34~	四之町、三之町もみ合い	栗賀吉弘さん宅前 山口屋前	
	21:38~21:40	三台一斉あおり、四之町帰町	出戸英雄さん宅前	休憩(30分程度)
	21:55~22:57	あおりながら帰町、途中泉町、三之町渡 り付け、最後の木やり	長谷川忠勝さん宅前 会田光男さん宅前 石塚達雄さん宅前にてあおり	
			歩行者用信号機を落とす(事故)	
	23:00	町内帰町・台輪格納	公会堂に台輪到着。頭取による千秋楽の 木やり披露	取締数名、他町内に渡り付け(無事に祭り を終えたことの感謝を伝えるため)。頭取 より木やり(千秋楽)。台輪格納(小頭、副 頭取、頭取より挨拶)
	23:05~		取締 石塚直也さんによる三三七拍子	
	23:10~		飲み会開始	
	0:10~0:30		解散	宴会
30日(日)	6:00		後片付け	~ ~
30 H (H)	13:00~	台輪整備・額面まといの運搬・十二提灯 格納	18/11/11/1	
	14:00	JP144.1		人数比比以 注目
	14:00~	ma 축 mar 시 교 Ara Yo 모드 W 스		台輪片付け、清掃
	18:00~	四之町合同祭り慰労会		三之町会館:一階・法被返還(会計1人、会計補佐2人、総取締1人) 二階・慰労会
	21:00~			各役職から挨拶、1本ずつ木やり。三之 町の奥さん方(3人)が片付ける

平成22年新発田祭り両町・上町・下町祭事日程表

		十次22十初元田永		
		両町 両町	上町 一番組	下町わ組
日程	時間	内容	内容	内容
	15:35~15:50		愛宕神社にてお祓い	
	16:00		町内廻り	
26日(木) 渡り付け	16:03~	台輪曳き出し、清水園駐車場に停車、子 供会集合		
	16:07~		愛宕神社を出発し町内循環	
	16:44~17:01	ウェルネット前、梨本商事前、内山商店 前、菊谷前、サンワ前、にて順次あおり ながら、町内を運行		
	17:20		愛宕神社へ帰還	
	18:00~18:50	公会堂内清掃、提灯準備、御神酒の用意		
	19:00~19:10	三之町渡り付け(小頭・総取締・取締)・帰町		
	19:12~19:20	四之町渡り付け(副頭取・小頭・取締)・帰町		
	20:00~	四尺門放为目的 (田)城村(有)城 村(城) /市町	台輪蔵にて取締会議	
27日(金)	3:07~3:24			ふれ太鼓 (下町)
			ふれ太鼓、町内循環	かれ人奴(下町)
奉納台輪	3:39~		愛宕神社にて神輿、台輪準備	1. 6H A 1. 6H A 8617 # A
	4:29~4:45		愛宕神社にてお祓い	わ組会、わ組会館に集合
	4:15~4:22	ふれ太鼓、町内循環(立売~万町~カモ ヤ酒店へ)		
	4:30~4:35	カモヤ酒店から研究センター前まで、台 輪移動		
	4:39~4:52	研究センター前にて、神事準備~神事準 備完了		
	5:03~	両町役員集合、神事開始		
	5:04~	清祓い・運行巡礼		
	5:05~		イケイケ台輪	
	5:10~		出発	
	5:15~		第四銀行前にてあおり	神明宮にて、参拝(曳き子全員)
	5:18~		2000 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	
		玉串奉天(町内会長・保存委員長・頭 取・お囃子・副頭取・小頭)		
	5:20~		信金前にて木やり	
	5:22~		ヨコシン前にて木やり	
	5:27~		つどい前にて木やり	
	5:30~			杉崎茶屋前より出発
	5:33~		坂りん横にてあおり	下町交番前にてあおり(目前に上町、三 之町)と木やり(小頭)
	5:34~			わ組会館前にてあおり
	5:35~			梅屋建材前にてあおり
	5:36~		小松美容室前にて木やり	川島鉄次郎前にて木やり (副頭取)
	5:37~		わ組町渡り付け	
	5:40~			木やり(小頭)/上町と渡り付け/四之町と
	5:43~5:45	町内会長・頭取からの挨拶、木やりとあ		渡り付け ダイワパレス前にてあおり
		おりの後、出発		
	5:44~		坂りん横にてあおり	
	5:46~		し組渡り付け、休憩	昭文堂書店前交差点にてあおり
	5:48~			昭文堂書店前交差点付近から小頭が渡り 付けにいく
	5:50~5:55	三之町と向い合い停車、三之町挨拶		三之町と渡り付け、休憩、両町と渡り付け、 木やり(小頭)、石井精肉店前にてあおり
	5:52~		い組渡り付け	
	5:53~		両町渡り付け	
	5:55~		木やり	
	5:59~		HOTBOX横にてあおり	
	6:00~		WOLDSWING CONST.	魚松前交差点にてあおり、泉町と渡り付け、 ちおり、 木やり (小頭)
	6:01~		泉組渡り付け	け、あおり、木やり(小頭)
	6:02~		第四銀行前にて木やり	
	6:05~	田上屋前にて木やり・あおり、大野屋商店前あおり		
	6:08~	7/ // // // // // // // // // // // // /	高田刀剣商会前にてあおり、休憩	中央交差点にてあおり、出戸前にてあおり、休憩
	6:13~	四之町挨拶、泉町挨拶	ESTINATION DATE COMPANY NOT	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
I	0.10	日で門内が、水門内が		

	両町 両町	上町 一番組	下町 わ組
時間	内容	内容	内容
6:20~	立売町に入ってからあおり	休憩終了	木やり (小頭)
6:22~		センター前にてい組の出迎え	
6:23~6:42	丸忠前あおり、菊谷前あおり、泉町到着 待ち		古山商店前にてあおり(目前に上町、三之町)、木やり(小頭)、あおり、上町ともみ合い、大栄町交差点前にて上町ともみ合い
6:27~		三差路にてし組ともみ合い	
		めわり、休思	1 1 2 10° min = 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
6:47~	両町・泉町ぶつかり。〜泉町、両町諏訪 神社へ向から		トヤダ時計店前にてあおり、休憩
6:53 6:55~	11100 1300 2	休憩終了	木やり(頭取)
	自町調託神社前にて基納		/ ハ くり (頭収)
	沢町畝切作江川にて平州	ネ タだより並にてなわり	-
	三四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	武者により削にしわ組ともみ合い	
	四回	A a b B charles are a la sa	-
	- L made 21, LLL 2000 - 2-427	金つはや前にてあおり	
7:25~	上町諏訪神社前にて奉納	諏訪神社前にて奉納	
7:27~		諏訪神社前にてお参り	
7:28~		諏訪神社前にて木やり二本	
7:32~		諏訪神社内にて上町台輪、停車・固定	
7:37~	下町諏訪神社前にて奉納		諏訪神社着、諏訪神社前にて木やり (/ 頭、副頭取、頭取) 、あおり
7:39~	諏訪神社内にて両町台輪、停車・固定		
	28	3日(土) 神輿渡御	
15:30~	諏訪神社に集合		
16:00~		諏訪神社に集合	諏訪神社に集合
16:15~17:20	下町、泉町、上町、四之町、三之町、両町の 順に神事		お祓い
16:49~16:56		諏訪神社にてお祓い	
16:58~		諏訪神社にて記念撮影	
			諏訪神社出発
	両町台輪前にて記念撮影。出発準備		NAME OF THE PASS
17:29~17:59	PATA IT THIS DATE OF REDUCEDARY PATE AND	集合し、諏訪神社を出発	諏訪神社前にて挨拶(頭取)、あおり、二社 二拍一礼
18:05~18:16		諏訪袖社前にて挨拶1. 出発	木やり(小頭、副頭取、頭取)
		BMB411 121341- 13755-01 1278	小嶋精肉店付近にてあおり
		武者だすりにて木やり あおり	1 199/13/ 3/21 1 2/2 2 2/3/40)
18:30~	諏訪神社出発	100 /100 /100 (4/20) 70010 ひのかロリー	小嶋精肉店にて上町ともみ合い
10.00 -	MANA IT LEPH / L		
10.95			
18:35~			み合い
18:40	瀬井地竹帯十か ル キャル		
18:40 18:43~	諏訪神社前木やり、あおり	Shaffe Me day 10 1 man 1 At 1 1 2 ma A .	み合い
18:40 18:43~ 18:49~		武者だまりにてし組ともみ合い	み合い
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~	諏訪神社前木やり、あおり 小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い		み合い
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~ 19:01~19:11	小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い	武者だまりにてし組ともみ合い 両町にて休憩	み合い
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~ 19:01~19:11 19:15~		両町にて休憩	み合い
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~ 19:01~19:11	小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い		み合い
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~ 19:01~19:11 19:15~	小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い	両町にて休憩	み合い
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~ 19:01~19:11 19:15~ 19:17~	小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い	両町にて休憩 一斉あおりスタンパイ	清水園付近にて休憩
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~ 19:01~19:11 19:15~ 19:17~ 19:27~19:31	小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い 寺町、菊谷交差点前にてあおり	両町にて休憩 一斉あおりスタンパイ	み合い 清水園付近にて休憩 木やり/あおり/泉町、上町ともみ合い 立売町にて一斉あおり、大栄町消灯、3
$\begin{array}{c} 18:40 \\ 18:43 \sim \\ 18:49 \sim \\ 18:53 \sim \\ 19:01 \sim 19:11 \\ 19:15 \sim \\ 19:17 \sim \\ 19:27 \sim 19:31 \\ 19:30 \sim \\ \end{array}$	小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い 寺町、菊谷交差点前にてあおり	両町にて休憩 一斉あおりスタンバイ 一斉あおり	み合い 清水園付近にて休憩 木やり/あおり/泉町、上町ともみ合い 立売町にて一斉あおり、大栄町消灯、ま 段に上がる小頭、副頭取交代
18:40 18:43~ 18:49~ 18:53~ 19:01~19:11 19:15~ 19:17~ 19:27~19:31 19:30~	小嶋精肉店前にて三之町ともみ合い 寺町、菊谷交差点前にてあおり	両町にて休憩 一斉あおりスタンパイ	み合い 清水園付近にて休憩 木やり/あおり/泉町、上町ともみ合い 立売町にて一斉あおり、大栄町消灯、 軽に上がる小頭、副頭取交代
	6:20~ 6:22~ 6:23~6:42 6:23~6:42 6:33~6:42 6:34~ 6:35~ 6:44~ 6:44~ 6:53 6:55~ 6:56~ 6:58~ 7:00~ 7:02~ 7:05~ 7:11~ 7:23~ 7:25~ 7:27~ 7:28~ 7:39~ 15:30~ 16:00~ 16:15~17:20 16:49~16:56 16:58~ 17:00 17:22~ 17:29~17:59 18:26~ 18:26~ 18:28~	時間	時間

		両町 両町	上町 一番組	下町わ組
日程	時間	内容	内容	内容
	19:50~		大栄町交差点にてあおり	
	19:53~		大栄町交差点にて泉組ともみ合い	
	19:59~		大野屋前にて木やり	
	20:00~			新発田学研究センター前にてあおり、6 憩
	20:05~20:16		センター前にて休憩	木やり(小頭)、あおり
	20:23~20:24	田上屋前にて三之町とあおり、木やり		
	20:30~		第四銀行前にてもみ合い	地域交流センターへ会場入り
	20:37~		交流センターへ移動	
	20:41~	地域交流センター手前、第四銀行前に て、あおり		
	20:48~	桟敷席へ入る		
	20:53~		交流センターにて一斉あおり	
	20:55~	桟敷席にて一斉あおり		六台一斉あおり
	21:07~		交流センター出口にてあおり	中央交差点にてあおり、再出発、あお
	21:28~		第四銀行前にて木やり、あおり	
	21:31	田上屋前へ到着		
	21:35~			木やり/あおり/泉町、上町ともみ合い
	21:37~21:38	田上屋前へ四之町、三之町到着	第四銀行前にて木やり、あおり	1,1,1,3,13,13,7,3,11,11,11,11,11,11,11,11,11,11,11,11,1
	21:40~	両町、四之町もみ合い	No 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	
	21:45~	Her Hoel Govern	第四銀行前にて歌	まちの駅にてあおり、休憩
	21:46~		第四銀行前にてあおり	a south canal of the
	21:51~		信金前にて木やり	
	21:52	下三台一斉あおり	Hamping Cole ()	
	21:55~	Г. да дазу	おもちゃのとみさわ前にて木やり	
	21:56~	三之町ともみ合い	おもらやのとからわ前にて木くり	
	22:01~	帰町開始		上町にて、上町よりお神酒を頂く、上 の木やり、下町の木やり(互いを称え 歌詞)
	22:02~		わ組とお別れ	-244-37
		四之町、下町挨拶		
	22:04~		坂りん前にて休憩	上町に見送られ下町に向かう
	22:06	ホンマスポーツ店前にてあおり	泉組渡り付け	
	22:07	三之町挨拶	NUMBER OF LAND	高橋時計店前にてあおり
	22:09~	ウェルネット前にてあおり		中村屋前にてあおり
	22:15	2	わ組渡り付け	三之町より渡り付け、木やり(副頭取)
	22:16		し組渡り付け	
	22:20	清水園駐車場到着	い組渡り付け	
	22:24	11-1/1-1-17-14-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	愛宕神社到着	四之町より渡り付け
	22:25~	頭取挨拶、木やり閉め(千秋楽)	三本締め、千秋楽、記念撮影	わ組会館前にてあおり
	22:32~22:35	現場が少、小下り別の(「	二本種の、「代米、山心取形	下町交番前交差点にてあおり、神明宮 にて木やり(小頭、副頭取)、千秋 (頭取)
	22:39~22:50			神明宮到着、記念撮影、挨拶(頭取)、台輪格納
30日(月)	7:00	台輪を清水園格納庫に移動収納		
	9:00~	公会堂にて清算事務		
	18:30~	豊谷殿にて印半天返納・慰労会		

四節 各町の年間行事と新発田祭り

日程表である。「新発田祭り年間行事日程表」は、台輪を保持している六町のみの「新発田祭り年間行事日程表」は、台輪を保持している六町のみの事、また参加する役職などから見ていく。なお、ここで利用するのように新発田祭り年間行事日程表」をもとに、各町が一年を通してど

、祭りに関する行事

して重要な会議とお囃子練習を見ていく。通して必ず会議やお囃子練習がある。ここでは祭りに関する行事と通して必ず会議やお囃子練習がある。ここでは祭りに関する行事と年間行事日程表を見ると、八月に行事が集中しているが、各町共

会議

役員会、 員会、 会議、 総会、 十三日会、 日会は毎月一三日に開催することからその名が付けられたとされる。 をしている。 泉会役員会、 開催 祭りに関する会議を日程表から抜き出すと、 日 町では華段に乗る役職以上の人は七月以降随時集まり、 頭取会議、 新発田まつり文化連絡協議会、 四之町では台輪連絡協議会、 台輪連絡協議会、 一時などは各町によって異なり、 両町内会総会、 上町では取締会議、 中には特別名称の付いている会議もあり、 お囃子総会、 などが挙げられる。また表に記載 頭取会、 台輪連絡協議会反省会、 顔合わせ会、 三之町では各団長会議、 台輪連絡協議会役員会議 総会、 四之町や両町のように年間 しばたっこ台輪 下町では総会、 泉町では泉会例 両町 両町 気はない の十三 専門 会議 では 定例 組会 わ組 会 委

> 二〇年奉祝行事参加者説明会などがそれにあたる。 之町の天皇陛下御即位二○年奉祝行事四之町会議 事前準備を行っている。 参加した町では先に挙げた祭りに関する会議の他にも会議を開 された天皇陛下御即位二○年奉祝行事への参加があった町もあり、 行っている町もある。 を通じて毎月定期的に開かれる会議がある町もあれば、 さらに二○○九年には新潟国体や東京で開催 例を挙げると、 泉町の国体リ 天皇陛下御 ハーサル、 不定期に 卽 兀 位

われているといってよい。は話し合いと併せ、祭りに関わる人々、各役職同士の顔合わせも行会議では主に祭りや台輪運行に関する事柄を話し合うが、そこで

お囃子のけいこ

年 る。 日の最後の音合わせの際に保存会長やお囃子方のお宅で行ってい 人々や役員へ披露するために、 けいこを行ったという。また、 集会所などに集まり、けいこを行っている。 お囃子のけいこも各町共通して行っている。 (二〇一〇年)新しい人が加わったため、 泉町はその年のお囃子を華段に乗る 祭り前の八月二三日、 上町のお囃子方には今 「すきやきの八木」 基本的にはどの 二四 巨 町 で

たい。 ている課題だとわかる。 くりとやっていきたい」と語っている。 もあり、 方のAさん(一九三八年生) 現在、 この課題は長年のもので、 お囃子方の中で深刻なのは後継者問題である。 平均年齢が低いと思うが両町は今後、 また、 は、 その一方でお囃子の技術をこの先も すぐには解決できないので、 他 一町のお囃子には女性が 後継者問題が長年危惧され 後輩育成に力を使い 両町 いる所 お じっ ,囃子

継承させていきたい、という強い意欲も感じる事ができる。

開始し、 月や曜日を決め定期的にしており、 二五日まで練習。四之町では四月、五月、六月、一〇月。更に八月 日 当日に向けて何度も重ねる。 曜日となっている。 同じように木やり練習もあり、けいこは三月から毎月第二、 の期間を定めて行っている。また、 に各町毎に日程が決まっている。泉町、 は二一日から二四日まで集中。 三之町では三月から七月まで毎月第三土曜。八月には二〇日から 八月は加えて二三日から二五日まで。下町では八月に集中けいこ。 の台輪運行をより一層盛り上げている。 けいこの期間は、 八月にけいこ。上町では四月、 けいこの時期や日程は町により異なるが、 泉町では その積み重ねたけいこの成果が祭り当 三月の毎月第二、 両町では八月に集中、といったよう 下町、 六町の中で泉町だけはお囃子と 七月、 上町、三之町、四之町では 両町では八月のある一定 第四水曜日に稽古を 八月にけいこ。 第四土 祭り 更に

一、日程表から見た人の繋がり

い合い、 で食事をし、 は六町全てで催されており、 は若者の会、 行事としては、 会議とお囃子のけいこについてみてきたが、 上町ではお花見、 多彩な行事がある。新年会や忘年会だけではなく、 松茸パーティー 祭りの成功を祝うことで翌年の祭りへの意識が高まる。 花市、 酒を酌み交わすだけではなく、 泉町ではワインを楽しむ会、 などが挙げられる。祭りが終了した後の慰労会 バーベキュー、下町では観桜会、しめ縄つく 三之町では花市、 各町ともに祭りに参加した人同 四之町では懇親会、 その他にも祭りで使用 観桜会、木やり歌発表 表を見るとどの 各町独自の 士が労 両 町で 町 で

> れている。 する道具の準備や、台輪の整備などでも町内の人同士の交流が行わ

れ りに繋がっている。 からこそ、 よって、祭りに関わる人々、 る。 多くの行事を行っており、 年 仲間 会議やお囃子のけいこを含め、 間行事日程表全体を通して見ると、 の輪が広がっていく。 良い台輪運行やお囃子演奏が行われ、 それだけ各町ともに祭りへ 台輪組織やお囃子方の親睦が深めら 良い人間関係が築き上げら 普段からのさまざまな行 どの 前 こも祭り 全ては良い祭り作 0 向 想 れていく けて実に 事に があ

まとめ

える。 なる組織があり、 が結束力となっている。そして、その結束力の強さが毎年見られる いる。その数々の行事を町の仲間と共に実行し支え合う事でそれら 合い」である。 要な補助金・寄付金について述べた。 組織と、祭り当日の動き、 も共に、より良い台輪運行を行うためにある支え合いの現れだと考 台輪運行に活かされている。 ここまで、 以 上のように、 上町、 町毎に形成された組織は、 また多くの人々の支え合いがある。 下町、 華のある台輪運行を行う上でそこには 泉町、 また年間の行事を分析 また、 三之町、 市からの補助金・ 共通して見えたものは 四之町、 年間様々な行事を行って 両町それぞれの 台輪運行に必 町毎の寄付金 「支え

参考資料

「H21新発田まつり決算書」

http://www.city.shibata.niigata.jp/view.rbz?cd=6476

新発田祭り年間行事日程表(2009-2010)

月	泉町	上町	下町
1月	顔合わせ	愛宕神社にてお祓いの後新年会	16日会計監査、総会打ち合わせ、23 日総会、新年会
2月	14日新年会		20日第一回わ組役員会
3月	11日木やり練習会(稽古は毎月第 2、4水曜日)、14日からお囃子け いこ開始(けいこは毎月第2、4土 曜日)		26日第二回わ組役員会
4月	2日ワインを楽しむ会、18日観桜会	18日お花見、24日お囃子練習	11日本台輪・子供台輪整備、観桜会
5月	16日泉会例会		中旬台輪連絡協議会、しめ縄つくり (田植え)
6月	6日泉会役員会、18日法被確認		12日第三回わ組役員会、中旬に台輪 連絡協議会
7月	4日木やり歌発表会、8日泉会例会、15日泉会例会、泉会、19日国体リハーサル、25日商店街サマーナイトバーゲン、27日、28日扇子づくり	30日お囃子けいこ	末に頭取会、31日第四回わ組役員会
8月	1日泉会、8日お囃子けいこと打上会、9日泉会、19日法被準備、21日泉会例会、23日お囃子けいこ(山田家)・台輪曳き出し・磨き方・国体リハーサル・慰労会、24日お囃子けいこ(出戸家)、25日お囃子けいこ(小田家)・頭固め、27日奉納台輪、29日帰り台輪、30日1公会堂片づけ、31日慰労会	8日取締会議、16日各班寄付集め、 20日新道寄付回り、21日顔合わせ 会、法被渡し、お囃子けいこ、22日 台輪清掃、23日24日25日お囃子けい こ、26日町内巡り、笛合わせ、27 日台輪移動、神主によるお祓いの儀 式、記念写真撮影、樽神輿、28日樽 神輿、29日諏訪神社にて神主による お祓いの儀式、記念写真、町内納 め、30日台輪清掃	1日御柱パレード、初旬に「しばた祭り賄い」発注計画書作成、中旬に台輪連絡協議会、頭取会、19日~21日備品準備点検、台輪囃子けいこ会、21日台輪参加者名簿提出(公社宛用、保険会社宛用)、15日、22日、29日しめ縄つくり(稲刈り)、22日台輪整備、法被渡し、激励会、26日子供台輪町内廻り、27日奉納台輪、金魚台輪パレード、28日金魚台輪市中パレード、29日帰り台輪
9月	11日泉会、13日国体リハーサル、26 日トキめき新潟国体	4日慰労会	4日台輪整備、慰労会、中旬にしめ 縄つくり(稲降し・運搬)、11日第 五回わ組役員会、初旬に「神明際」 賄い発注計画書作成、中旬に台輪連 絡協議会、19日祭礼準備、神興整 備、しめ縄つくり(なわ編み)、23 日金魚台輪市中パレード、松茸パー ティ準備、松茸パーティ、25日神明 宮神興遷座式、26日神明宮霊大祭お 祓い、神興奉栽
10月	7日法被片付け	3日バーベキュー	
11月	7日事前準備お疲れ会		27日忘年会
12月		忘年会 (予定)	18日第六回わ組役員会

新発田祭り年間行事日程表(2009-2010)

月	三之町	四之町	両町
1月		8日台輪連絡協議会、17日町内新年会、 24日定例会議、25日台輪解体	執行部 役員会催(十三日会)、若 者の会
2月	各団長会議	1日台輪整備、4日新発田まつり文化連絡協議会、8日台輪解体整備組立、14日お囃子新年会、20日会計監査、27日しばたっ子台輪専門委員会、28日総会・懇親会	執行部 役員会催、両町内会総会 (頭取決定)、若者の会
3月	い組会総会、第三土曜お囃子けいこ	1日台輪整備組立あおり、13日しばたっ 子台輪専門委員会、28日定例会議、29日 しばたっ子台輪専門委員会	執行部 役員会催(十三日会)、若 者の会
4月	第三土曜お囃子けいこ	11日お囃子けいこ、12日しばたっ子台輪 専門員会、19日町内総会・懇親会、25日 定例会議	執行部 役員会催(十三日会)、八 幡神社春祭りにて参拝、若者の会
5月	第三土曜お囃子けいこ	7日台輪連絡協議会役員会議、9日お囃子 けいこ、14日しばたっ子台輪専門委員 会、23日しばたっ子台輪・定例会議	執行部 役員会催(十三日会)、若 者の会
6月	第三土曜お囃子けいこ	5日台輪連絡協議会会議、13日お囃子けいこ、27日定例会議、29日台輪連絡協議 会役員会議	執行部 役員会催(十三日会)、若 者の会
7月	第三土曜お囃子けいこ	4日頭取会議、5日一二提灯柱設営、9日 台輪連絡協議会会議、11日一二提灯撤 去、19日トキめき新潟国体開会式練習、 25日定例会議、28日祭り町内合同会議、 30日台輪連絡協議会会議	執行部 役員会催 (十三日会)、27 日取締役以上による頭固め、若者の 会
8月	8日台輪解体作業、11日花市、15日 十二支提灯仕立て、台輪参加者説明会、20日~25日お囃子けいこ開始 (笛開き)、26日子供台輪町内廻り、渡り付け、頭固め、27日奉納台輪、29日帰り台輪、30日台輪・金魚台輪・十二支提灯・伊達道具片付け、法被返還・慰労会	6日台輪運行実地踏査、8日頭取会議、9 日台輪整備、19日台輪連絡協議会会議、 20日祭り実行委員長挨拶廻り、21日~24 日お囃子集中けいこ、23日法被渡し・台 輪運行説明会、24日大口寄付集め・御神 体人形組立、25日御神体人形着付け、26 日子供曳出し・渡り付け、27日奉納台 輪、29日帰り台輪、30日御神体人形解体 点検・台輪整備・町内合同慰労会	執行部 役員会催(十三日会)、11 日花市 四之町へ渡り付け、16日泉 町へ渡り付け、20日法被渡し、若者 の会、27日奉納台輪、29日帰り台 輪、30日台輪整備・町内合同慰労会
9月	6日魚喜久にて反省会、25日笛納め	12日お囃子総会・頭取会議、13日トキめき新潟国体開会式練習、17日台輪連絡協議会会議反省会、20日トキめき新潟国体開会式練習、26日トキめき新潟国体開会式練習・定例会議	執行部 役員会催(十三日会)、八 幡神社秋祭りにて参拝、神明神社祭 下町へ渡り付け、若者の会
10月		8日天皇陛下御即位二〇年奉祝行事、10 日しばたっ子台輪・お囃子けいこ、11日 天皇陛下御即位二〇年奉祝行事四之町会 議、15日台輪連絡協議会、17日天皇陛下 御即位二〇年奉祝行事、23日天皇陛下御 即位二〇年奉祝参加新発田実行委員会会 議、24日定例会議、25日台輪解体、29日 台輪連絡協議会・天皇陛下御即位二〇年 奉祝行事	執行部 役員会催(十三日会)、若 者の会
11月	お囃子方慰労会	1日天皇陛下御即位二〇年奉祝行事参加 者説明会、4日天皇陛下御即位二〇年奉 祝行事視察、8日台輪解体、11日台輪移 動積込・出発式・先発隊出発、12日天皇 陛下御即位二〇年をお祝いする国民祭 典、13日台輪受取移動、14日台輪組立・ 天皇陛下御即位二〇年奉祝行事慰労会、 28日定例会議	執行部 役員会催(十三日会)、若 者の会
12月		4日台輪連絡協議会、12日お囃子けいこ	執行部 役員会催(十三日会)、若 者の会
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		

新発田祭りの台輪運行



下町わ組台輪 商店街通りにて



下町わ組台輪 諏訪神社にて



下町わ組台輪 下町交番前にて



四之町し組台輪 商店街通りにて



三之町い組台輪、四之町し組台輪 商店街通りにて



下町わ組 諏訪神社にて

第三章 台輪を支える人々

中野絵美、渡邉紋優子、高橋剛文、李坤

はじめに

輪の伝統や人と人との繋がりについて記したい。

・大ひとりの生の声を聞くことが大切になる。そこからみえてきた台上の方が関わっている。そのため、数字や図からではわからない一上の方が関わっている。そのため、数字や図からではわからない一上の方が関わっている。私たちは、祭りの資料からだけでは読み取査を元に記述している。私たちは、祭りの資料からだけでは読み取査を元に記述している。私たちは、祭りの資料からだけでは読み取査を元に記述している。私たちは、祭りの資料からだけでは読み取査を記述している。

る。
なお、この章で出すお名前はすべてアルファベット表記にしてい

聞き書きである。 た際の聞き書きであり、両町、上町、下町は二○一○年の調査でのまた、四之町、三之町、泉町は二○○八年、二○○九年に調査し

一節 台輪と町の繋がり

「台輪は町のもの」という意識

になっている。しかし、少し前までは決してそうではなかった。が行われ、六町内が互いに協力して運行しており、それが当たり前る。運行の流れは台輪連絡協議会や頭取会によって事前の話し合い今の新発田祭りは、六町内すべての台輪が毎年曳き出されてい

いて、 と台輪との繋がりを切り離してしまいがちだ。 になった。そのとき観客は六台の台輪として祭りを楽しむので、 内輪だけではなく、六町を知らない外からの観光客が大勢来るよう も期待されており、 認識を当然に持っていた。 で曳けていたというから、台輪を観る側も、台輪は町のものという だ。それは観客にしても同じことで、 やろうという感じではなかった」。かつては町それぞれが独立して 内が揃うことは少なかった。何より各町内が独立していて、 えども各町内単独で曳いており、 子を尋ねたところ、こんな返事が返ってきた。 町の一九六〇年代の祭りを知る方(一九五 、新発田の台輪というより町の台輪という気持ちが強かったの いわゆるイベント化も進んでいる。 しかし、今の新発田祭りには観光の役割 壊れることも多かったので、 当時の祭りは町内の人間だけ 当時は、 一年生) そのため、 に当時 「祭りとい 一緒に

る方々に聞いた話を元に述べたい。
おから気持ちも持っている。これはどういうことか。台輪を曳いていとの意識を変わらず持ちながら、併せて「新発田の台輪」にしたいととの意識を変わらず持ちながら、併せて「新発田の台輪」にしたいととの意識を変わらず持ちながら、併せて「新発田の台輪」にしたいととの意識を変わらず持ちながら、併せて「新発田の台輪」にしたいと

かし年を重ねるにつれて、 代がいなかったことと、出るより見る方が楽しいと思っていた。 さん(一九五二年生)は三之町出身で、 「台輪に出たのは、 の話は、三之町い組台輪の頭 兀 歳 何らかの形で町に貢献したいと思うよう か四二歳のときである。 取経験者から 父も台輪に関わっていた。 聞 いた話である。 い頃 んは同年 F

て、この役職に就いた」で、複雑に思う。でも若い人が育っていない今、町内のことを想っで、複雑に思う。でも若い人が育っていない今、町内のことを想っ年やって頭取になった。私は順序を踏まずに今の役職に就いたのらと決意をした。それから平法被を一年、取締を八年、副頭取を四になった。また、父が台輪に参加できなくなり、私も町に貢献しよ

下さんの話から、台輪に貢献することがそのまま町内に貢献するとに繋がるとわかる。Fさんは初めから町に貢献しているのだ。この下さんのように町への貢献を強く意識しているわけではないこの下さんのように町への貢献を強く意識しているわけではないことに繋がるとわかる。Fさんは初めから町に貢献したいとの思いで生まれたから出るのは当然だった」と語っており、台輪は町のあるが、早くから台輪に参加し始めた町内出身者の多くが「台輪のあるが、早くから台輪に参加し始めた町内出身者の多くが「台輪の西るのと認識していることが感じられる。

けて とわかる ようで、 出るようになった」と語っている。どちらも参加の手順に苦労した それからあちこちに聞いて、職場の先輩の息子さんのツテで台輪に りを見に行ったときに感動して熱くなり、祭りに出たいと思っ ている。また、一二年前に新発田祭りを初めて知って参加した方 台輪をみていた方(一九六七年生)は、 (一九七〇年生) 祭りに興味を持って 外出身者の場合はどうだろうか。市内に生まれて幼い頃 町 .外出身者が一人で台輪に飛び込むことは難しい は、 山北 V たが、 町出身だが、 参加の方法がなかった」と話 平成一〇年に新発田 「小学校から中学校に 面がある へから . の祭 か

また、参加することが町になじむための方法とも考えられており、

いる。

れたものだ。 の話は町外出身者の方が小頭になった際の気持ちについて話してく 町のもの」という意識は、 との繋がりを保って運行するものとの意識が感じられる。「台輪 思いが強まっていったという。ここから台輪は町のものなので、 る。この方の場合は、役職が上がるにつれ、 町に受け入れてもらうきっかけとして台輪 両町小頭 下町副頭取、 役職に就く際の話からも読み取れる。 三之町総取締である への参加を決めた方も 町に貢献したいという 次 は 町

も驚いたし、嬉しかった」(一九六七年生) 「町外出身の自分が台輪に乗れるとは思っていなかったのでとて

ため小頭になれたときは信じられない気持ちでいっぱいだった」生まれではない。だから小頭にはなれないと思っていた。その「一番思い出深い役職は小頭だ。自分は加治出身のため、下町

泉町で小頭をしているHさん なった今でも台輪を曳く方々が共通して持っているのだ。 ら台輪を出したいという思いは、 いう気持ちが強い。 られている。それだけ各町共に、 も町外出身者の方が役職に就くことは、 ない。祭りに貢献すれば誰でも役職に就くことができるが、 思わず、任命されたときはたいそう驚いた」(一九七一年生 (一九五六年生 今はどの町も人手不足で、 「町外の人間だったため、 台輪は町のものという前提と、 まさか自分が役職に就く日が来るとは 町の人だけでは台輪を曳くことはでき (一九六五年生) 自町内の台輪は自町内で支えると 町だけでは台輪を支えられなく いまだに珍しいことと考え の言葉によく表れて そのために町か この点は それで

いという思いから頑張っているのではないだろうか」
「小頭になって大変なことは挙げたらキリがないが、小頭の仕事も準備も一小頭になって大変なことは挙げたらキリがないが、小頭の仕事

識し、台輪を町から出すという伝統を守り続けている。台輪を曳く方々は町内、町外出身関係なく台輪と町の繋がりを意

二 今後の目標から

「CAL、ELA CLASSICALIAN SOLON SOLON

内全体としての祭りも目指していきたい」
いくものだ。そのため、男だけではなく家族ぐるみで楽しめる、町また、台輪は町内の台輪であり、祭りは町内と一緒になってやってする。一番は町内の台輪であり、祭りは町内と一緒になってやっては、若い人たちがまた出たいと思える祭りがいい祭りだと考え

参加できるよう積極的に促している。てみられた意見で、下町ではそのために、家族が台輪組織の行事にどもが楽しめないことを問題にも思っている。これは下町で共通し台輪が男性中心のものであるために、町のものといいつつ女性や子らさんは単に町の台輪であることを意識しているだけではない。

三之町のFさんの場合は、「全体の運行はもちろん町内でも、曳

れ、台輪と町との強い繋がりが伝わってくる。 を子や観客みんなが良いという台輪運行をしていきたい。新発田台き子や観客みんなが良いという台輪運行をしていき、外部に対しての意見というところで多少の違いはある ための祭りになってしまうことを危惧しての意見だ。二人の目標は ための祭りになってしまうことを危惧しての意見だ。二人の目標は ための祭りになってしまうことを危惧しての意義を持ってほしい」と き子や観客みんなが良いという台輪運行をしていきたい。新発田台き子や観客みんなが良いという台輪運行をしていきたい。新発田台

三 町の台輪から新発田の台輪へ

文の上げる。 ここまで台輪を曳く方々が、前提として「町の台輪」との意識を持っていることは、今の新発田祭りの特徴だ。そこで台輪を曳くを持っていることは、今の新発田祭りの特徴だ。そこで台輪を曳く方々が「町の台輪」だけに留まらず、「新発田の台輪」にまで広がった意識「町の台輪」だけに留まらず、「新発田の台輪」にまで広がった意識をされていることを述べてきたが、今後の目標においては「新発田の持っていることを述べてきたが、前提として「町の台輪」との意識を立ったげる。

取り上げる。

両町頭取Ⅰさん(一九六四年生

良い祭りにしていこうと思う」さんが祭りに来てくれるように六町内、子供台輪を含めて協力してさんが祭りに来てくれるように六町内、子供台輪を含めて協力して「新発田祭りがこれからも大勢の方々に認知されて、多くのお客

上町小頭Yさん(一九六七年生良い祭りにしていこうと思う」

祭りにしたい」
「六町内の調和の取れる祭りにしたい。他の町内とうまくやれる

三之町総取締Iさん

たい」「今後の課題としては、近年新発田の人間が祭りに参加しなく「今後の課題としては、近年新発田の人間が祭りに参加しなく

下町小頭Sさん(一九六八年生)

いきたい」
「新発田をもっと明るくしたい。祭りは新発田市を明るくするひになってはいけない。あくまで繰が、決して仲良しコミュニティーになってはいけない。あくまでとって帰ってくる人がいる。人がお祭りのために帰ってくるのだ。とっだと考えている。県外にいる人でも、この時期になると休みをとつだと考えている。県外にいる人でも、この時期になると休みを

全体のためのものと捉える考えが出てきた。そのため、 は台輪を曳く人々のためだけではなくて女性や子どもも含めた市民 なってきたことが大きい。そこから、祭りを神事としてみるだけで 至った始まりは、 者であるし、両町のIさんは後者だ。どちらにしてもこの考えに いら二つの考えがある。 きたいという考えと、市民の祭りではあるがもっと外に広めたいと 田市民全体の祭りでもあることを意識している。ただ、その中にも 「市民の祭り」として神事の面を大切に、 今台輪を曳く方々は、 市の活性化のために必要なものと捉える考えと、 人手不足などの問題で町だけでは維持できなく 町の人の祭りとの前提を持った上で、 先述した目標でいうと、下町のSさんは前 新発田市民の中で深めてい 祭りの神事 今の新発田 新発

り、ここにもひとつの特徴がある。ている。それだけ今の新発田祭りが開かれた祭りになってきてお祭りは台輪と町の繋がりから台輪と市全体との繋がりにまで広がっ

四 台輪と町の繋がり

人手不足や財政難の問題がある今、町だけで台輪を維持すること人手不足や財政難の問題がある今、町だけで台輪を維持することも結局はこの伝統を守るためのものであろり、これが長年守り継いできた台輪の伝統のひとつだといえる。町や、役職が上がる時など、それぞれの節目で特に感じられる。そのや、役職が上がる時など、それぞれの節目で特に感じられる。そのため、台輪を曳く方々は町から台輪を出すことを最も大切にしており、これが長年守り継いできた台輪を出すことを最も大切にしており、これが長年守り継いできた台輪を出すことを最も大切にしており、これが長年守り継いできた台輪を出すことを最も大切にしており、これが長年守り継いできた台輪を出すことを表している。

ができるのだ。

かれており、多様な考えがどれかひとつに絞られることなく尊重さるものと、市民の祭りとして深めていきたいというものの二つに分加えて、「新発田の台輪」の中にも観光として広めていきたいとす

その特徴だ。れていることも、町ごとに台輪が曳き出される新発田祭りだからこれていることも、町ごとに台輪が曳き出される新発田祭りだからこ

方が平行したままで続いていくのではないだろうか。「町の台輪」としての町と台輪の繋がりが消えることはなく、その両の繋がりがますます強まっていくと考えられるが、だからといって今後の新発田祭りは、各町内が協力し合う「新発田の台輪」として

二節 お囃子方にとっての台輪

一お囃子と台輪は同等の位置付け

る。 輪や帰り台輪で、 くなると市内の様々な所から賑やかな音色が聞こえてくる。これら 輪運行に関わっている。 ちだけではない。 からであるが、このけいこでは各町内の役員や台輪関係者の方々も の音色は夏祭り本番前の一 加しており、 新発田祭りで台輪運行に参加しているのは台輪を曳いている方た また、 祭り期間中の八月二七日~二九日の中日を除いた奉納台 お囃子と町内及び台輪は相互に密接に関係してい お囃子を演奏している方たちも祭りに参加し、 お囃子は台輪の下段に乗り華を添えている。 お囃子は各六町内の全てにあり、 週間 この間に行われているお囃子のけいこ 祭りが 台 近

新発田祭りにおいて、お囃子と台輪はどのような関係なのだろう関係を築くことはどういうことなのかを明らかにしたい。り、台輪とお囃子、お囃子と女性という視点、そしてお囃子内部の

この節では、

台輪とは違うお囃子の組織について、台輪との関わ

それを理解するために、台輪運行に関わる組織について考えてみか。

織と協力し合い台輪を支えている。 のが新発田祭りである。 織は様々な人間関係を形成し、この三つの組織が一体になって行う 見 輪運行に関わる各役職の方々とに分けられる。 る。 町内会の下に属しているようにみえる。 新発田祭りでの台輪運行は町ごとに差はあるが、 お囃子は独立した組織を形成して、 しかし、 この三つの組織 この三つの 町内会と、 (T) は 台 組

一 台輪からお囃子へ

のきっかけでお囃子に参加している。在ほとんどの方は町内会役員や台輪の役職を経験してから、何らかお囃子に入る方々の多くが最初は曳き子として関わっていた。現

子になった」と述べている。 てあった太鼓を叩いてみたら当時のお囃子の方に気に入られてお囃 に入ったが、その後お囃子に入った。 た、上町のKさん(一九四九年生)は、 に入ってもらったため、 前のお囃子練習へ行ったら、何人かに笛を渡され、 (一九四五年生) は、 泉町のDさん(一九三八年生) 町内会役員を経験した後、 翌年から参加している」と述べている。 は、 取締であったが、 同様に下町のお囃子Tさん 小頭から最初自衛隊の楽隊 「わ組会館に置い 吹いてみたら気 「お祭り直 ま

方へ戻った」と述べている。 で小頭を三年した後、 れて入った。それ以降、 て参加したが三之町お囃子楽長のKさん 方、三之町のIさん(一九五六年生) 副頭取を一年、 しばらく囃子方として活躍をした。 このようにお囃子方と曳き子を行き来 頭取を三年経験し、 (一九四〇年生) は、 「最初、 曳き子とし に勧めら 再び囃子 三七歳

に触れる機会をきっかけに加わっている している方もいるが、多くの場合、 初めは台輪運行に関わり、 楽器

ろ、 に関わり続けたいという理由で、 が祭りのため協力し合う際に役に立っているようにみえる。 間関係を築いている。そこで形成された人間関係は、 台輪を曳いてからお囃子に入った方は、 台輪を曳いていた際にできた人間関係を保ち続けたいや、 お囃子になる方が多いといえる。 台輪の時代から様々 お囃子の方々 台輪 むし な人

お囃子と女性につい

は

携わるよいきっかけになったといえる。 から教わりお囃子に入った。 たが女人禁制が厳しい三之町ではその願いは叶わなかった。 台輪に携わるのは憧れであり、誇りでもあるので女性が台輪運行に 強くとにかく興奮した」と述べている。このように、 い頃からの夢が実現した瞬間で、「やっと乗れた!」という思いが ぎ先が下町で、一○年ほど前から三味線のⅠさん(一九三○年生) 頃からずっと台輪が好きだった。ずっと台輪に携わることが夢だっ る女性の立場が変化し、それが祭りに色濃く反映しているためだ。 お囃子では、 町お囃子Tさん(一九四六年生)は「元々は三之町出身で、 台輪運行は男性だけだが、 単に後継者が不足しているだけではなく、現代での祭りに対す 三之町を除いて女性の参加は可能だ。 初めて台輪に乗れたのが八年前で、 女性が唯一参加できるのがお囃子だ。 その理由として 女性にとって でも嫁 幼い

祭りが大好きで祭りに参加したいという気持ちであり、 また、 女性にも祭りに対する熱い思いはたくさんある。 お囃子とい それは、

> 好きだから続けられる」といったことからも伝わってくる。 だから、この祭りに参加できることが楽しいしうれしい」 意は下町お囃子Tさん(一九五一年生)の「祭りそのものが大好き う機会ができたことでその気持ちは徐々に熱くなっている。 (一九八一年生) の「練習も楽しいし、祭りに出ることも楽しい。 やMさん

かち合えるのである。 この祭りであるからこそ、 このように、祭りに対する熱い思いは男女関係なく、自分の 好きであり、 参加する喜びをみんなで分 前の

四 お囃子内部で人間関係を築く

の親睦を図るものである。 しみのひとつ」と述べている。 楽しみだし、また、 子メンバーでの集まりが楽しい。 をしている。これについて下町のⅠさん(一九三○年生) を台輪組織とは別に設けたり、年に一度お囃子方のメンバーで旅行 作ってもいる。 お囃子は、 台輪組織の一部だが、 下町わ組会のお囃子では、 祭りが終わると一泊旅行に行くので、 これらは全てお囃子のメンバー 練習後に皆でカラオケに行くのも 独自に人間関係を形成する場を 新発田祭りの後の それも楽 は 一同士

自分の時間を提供することで満足感が得られる」というやりがいか あるのがよいし、祭りという限られた時間だけど、 の目標や、上町お囃子のMさん(一九四七年生) 思う。これからも「出会い」を大切にやっていきたい」という今後 入っていることで人間関係にも幅が出て、 また、四之町お囃子方会長Nさん(一九三二年生) 自分の視野も広がったと 0) しがらみなしに 「人の繋がりが の「お囃子に

部 らもお囃子によって人間形成が膨らんでくる。そのため、 での人間関係は自然に形成されていっているといえる お囃子内

ういった定期的な懇談会や催しを行うことで、お囃子方全員との調 和の取れたハーモニーや人間関係を作ることができるのであろう。 お 囃子は演奏をする際、 みんなの息を合わせる必要があるが、

五. お囃子にとっての台輪

織と一体化することで形成されている。 ここでは、 台輪運行は台輪従事者だけではなく、 お囃子という組

おいても人間関係を作っているのには変わりはない 士の集まりの場である。この場は、 同士の人間関係をより良いものにする場が必要だ。これがお囃子同 こういったさまざまな出来事がお囃子の お囃子は常に息が合ってこそ迫力のある音色を出せるので、 各町によって違うが、 方々をつなぎ合わせ、 いずれに 仲間 友

好的な人間関係を形成していっている。

三節 台輪運行に携わる人々

参加者にとっての祭り

0 ことだった。 員が祭りの場を心から大切にしており、同時に祭りが大好きという いことを尋ねると、 話を聞かせていただいた。そこで私たちが感じたことは、 いはない。 この三年間を通して私たちは多くの祭り関係者の方から様々なお 祭りに出ている事自体が楽しい」と答えてくれた。また 上町の副頭取Sさん(一九七○年生)に、祭りで楽し 「言葉で表すのは難しい。何が楽しいっていう 参加者全

> とられるものの、一〇〇%の方が「祭りは楽しい」と答えてくれて て、 備も増え、私生活との両立は楽ではなくなる。 下町のHさん (一九五〇年生) いる。なぜ、こんなにも夢中になれるのだろうか。 りと仕事の両立が安易ではないことが伺える。 して父と喧嘩になったこともあった」と話している。このように祭 る。 図れるという利点もあるが、多くの時間や手間がかかる欠点もあ る。 合いや準備、交流を経て、 た。 日でも準備でも、 三之町の小頭Tさん(一九六五年生)は 役職に就けば、責任感が芽生えると同時に、 話し合いや準備は、今まで関わることのなかった方々と交流が 現在の祭りは一年をかけて準備が行われている。 皆で集まって騒ぐことが楽しい」と話してくれ ようやく新発田祭りがひとつの形にな は 「大変なことは特にない。 「仕事より祭りを優先 しかし準備に時間が 仕事との両立につい 会合への出席や準 念入りな話し 祭り当

ことができる ることで近所の交流が生まれ、 れば、近所付き合いがないままの場合もある。 と話してくれた。同じ町内でも、 会えること。そのときに名前を覚えていてもらえたことが嬉しい」 ん(一九六五年生)は「楽しいのはお祭りでしか会わない人たちと らったので楽しかった」と話している。 始めた頃のこととして、 ろうか。両町の小頭であるSさん(一九七○年生) 参加している方々にとって新発田祭りとはどのようなもの 「近所の人を覚えたり、 祭りを通して密接な人間関係を築く 話したり関わりをもつ機会がなけ 同様に三之町の小頭のTさ しかし台輪に参加す 皆によくしても は祭りへ参加し なのだ

また下町の小頭のTさん(一九五九年生) は 「祭りに参加するこ

とは、 者同士でも、 る。 ケーションをとることが可能となる。 めて作られる人間関係もある。 た」と話していた。このように、祭りに参加することによってはじ 内も違う色々な人とたくさん出会って、 と話している。 その分、 異業種交流であり、 さまざまな業種や人がいる。本来ならば共通点がない 祭りという共通の話題や立場により、 泉町の副頭取Dさん(一九六五年生)も「仕事も町 職種に関係なく関われることが楽し 台輪には多くの方々が携わってい お祭り以外でも交流でき 新たにコミュニ Ň

ことができる。 くれた感謝の気持ちは人一倍強いのだろう。 というよりも、 頑張っているので、 てこられた。 も町外の出身で役職に就いた一人だ。Iさんは きはたいそう驚いたそうだ。三之町の小頭1さん(一九七一年 て出るようになった。 話している。 強い絆を感じる大切な場所だ。そこに参加できることが嬉しい」と の仲間を作ってくれた。自分にとって新発田祭りは特別な場所で、 また下町の副頭取であるMさん(一九五六年生) 自分は幸せ者だと思う。他の人からは、「(Iさんが) その結果として、皆に上げさせてもらえたのだと思ってい 町内の皆で集まることが好きだし、三之町が好きだから続け 話してくれた。 小頭にまでなれたことは感慨深い気持ちでいっぱいだ Mさんは下町の出身ではなく、祭りへは友人に誘われ やって当たり前のことをしているだけ、という気持 」と言ってもらえるが、自分としては頑張っている 他町の者ということは関係なく、役職を任せる 町外だったため、自分が役職に任命され 彼らは余所者だった自分自身を受け入れて 町外出身者が役職にな 「純粋に祭りが楽し は 「祭りは大勢 本当に たと 生

> ている。 うに祭りへ貢献し、 しれない。しかし近年は、 ど直接伝えられる。こうした負担があるために、 行きにくいという点も考えられる。 りにくい理由として挙げられるのは、 努力した結果、 人手不足という背景もあるが、 町内出身者であれば、 認められて役職に就く方が増え 会合に集まりにくい、 むずかし 二人のよ 回覧板な 連絡が 0 かも

間 なった」と話しているように、 集まりで家族のような時間を過ごせる幸せをかみしめられるように 変わる。三之町の副頭取Yさん(一九六三年生) だった関係が、参加することによって一人ひとりが大切な仲間 ているときが楽しい」と話しているように、 純粋に楽しめる特別な場所となっているのだろう。 ん(一九六七年生)が これらから、 もかけがえのない存在なのだろう 彼らにとって祭りは新しい仲間 「仲間と一緒に居るときと、 新発田祭りも一 参加する前は 緒に参加している仲 づくりの場 が 上町 台輪の準備をし 年に一 0 赤の 小頭Yさ であり、 他人 度の

二 役職と責任

いころから、 ることを「曳き子にとって上にいくことは憧れであり、 きる。そのため三之町の小頭Iさん 営が可能となる。 人が就けるわけではなく、 台輪には多くの人が参加し、 支えるのが副頭取や、 役職についている人は手の届かない存在としてみてい この運行の全責任を背負っているのが頭取 ある程度の条件をクリアした人のみがで 小頭以下の 役割分担をすることで円滑 (一九七一年生) 役職である。 役職は、 は役職が上が 自分も小さ な祭り運 全ての で

て上町 だけあって人の目がすごい。」と話してくれた。 は、 頭に任命された。 と話している。 緊張で食事が喉を通らなかったそうだ。同様に運行前の緊張につい 風に感じていたのだろうか。Iさんの場合、 続だった。 は特別な存在なのだ。その憧れの役職に自分が就いたとき、 と話している。ここから、 ひどく緊張することがわかる。しかし、なぜ、 の小頭Sさん(一九七○年生)は 出る前のお弁当を食べられなかったのは初めてだった_ また両町のSさん(一九七○年生) 乗っているときは緊張感がある。 同じ祭りに参加していても役職の 「役職をもらって緊張の連 総取締に就いたとき 役職に就くこと こんなにも緊張 年に一度という は 「昨年から小 どんな 方

するのか

ればならない。 くれた。このように役職が上がることは、 者のケガのことなど、考えればキリがないことだらけだ」と話して た」と話している。 子の頃とは違い、まとめるという責任感が強く感じられた。 に就いたものとしての自分はどうあるべきかを考え、行動をしなけ 役職にいけばいくほど責任は大きくなる。 けなど事前の行事から参加できるようになり、 いようなプレッシャーや経験が参加者の意識を高め と変わるきっかけとなる 四之町の小 そのため責任も重く緊張も人一倍するのだろう。 ・頭〇さん (一九六九年生) 祭りが楽しいものであるかは、 四之町の頭取Sさん(一九五九年生)は は取締になったとき 頭取は責任も重く、 責任を負うことで、 祭りの重みを体験し 彼らの腕にかかって より良いもの しかし、こ 渡り付 上の 「曳 役職 関係 3

一役職と意識の変化

になる。 後、 ドバイスを受けたりするようになった。 任を負うことで、 伸ばしなど、いろんな方から指導を受けた」と話し、 のか研究した。さらに扇子の振り方やあおっているときの足の は華段に乗り両手を離してバランスをとることが大変だった。 ことにしたそうだ。「なってから二、三年は必死にやった。 しかし「役職についてから色々学べばいい」と言われ、 際、 は、 ŋ 今までの話で役職に就くということは、 重任を務められるか不安もあり、 多くの方から支持を得ることが必要で、 当時のビデオを見て動きを分析し、どうしたら格好良く乗れる 同時に祭りへの意識を高められることがわかった。 泉町の小頭Hさん(一九六五年生)は、 台輪運行をより良くするために研究をしたり、 一度は断ったことがあった。 重い責任をおうことであ それに伴う行動が大切 小頭に決まった 役職に就く責 引き受ける そのために 一年目 その 曲げ

ると思う」と話してくれた。 い歴史を繋げていきたい。 わせてしまう。今後は若い子たちに役職の仕事を覚えてもらって若 非常に難しく大変であった。 いと強く思った。 の役割を担っているから、 年生)は「曳き子・取締のまとめ役以外にも、 ことを話してくれた。 ここで小頭に就いた多くの人が、華段に上がって視野が変化した は 「小頭は直接あおり手、 他町の台輪とぶつかる際のタイミングをとるのが 小頭について両 それを「手伝う」 大きな責任を持ってやらなくてはいけな 一歩間違えば、 同様に泉町の頭取Iさん(一九五六年 曳き子と話せるから、 一町の副頭取Mさん(一 役目を我々は持ってい 曳き子を危険な目に会 台輪運行の 楽し ″運転″ 一九六二

きたい」のように、 こう教わって今までやってきた。」という私の思いを下に伝えてい 統を教えていく番だ。せっかく上の役職にいるのだから、 の小頭Bさん 育やサポートなど、さらに広い視野を持って取り組んでいる。 指していこうと考えている」と話しているように、下の役職への教 くてはならない。リーダーシップを持って下を引っ張ることが目 の目標は、 とで強くなる。四之町の副頭取Sさん(一九六七年生)は、 ならないと思うようになる。この意識はさらに上の役職に上がるこ 先輩方にしてもらったように、運行を通して曳き子を守らなければ たことが見えてくる。さらに自分の仕事を自覚することで、 れで運行 る重要な役職である。小頭になると全体を見渡せるようになる。 現小頭にも教えていかなくてはならない。自分も常に完璧を目 曳き子は提灯で動くが、やはり小頭の言葉で動く」 頭取をサポートし、曳き子や取締など全てを見てい 準備の両面で深く祭りへ関わり、今まで見えていなかっ (一九七○年生) は「これからは、 小頭は頭取、 副頭取の言葉を曳き子たちへ伝え 私が後輩たちに伝 ゃ 「先輩に 彼らが 「今後 下 かな 町

四 台輪に携わる人々

ひとりが意識を高くもち参加できる祭りだからこそ、続いているの重ねていくことで、祭りに対する意識は変化する。このように一人れ、強い絆を築いていく。最初は曳き子としての立場から、年数を起こる変化について述べてきた。一年をかけて祭りの準備は行わここまで祭りに参加している方々の繋がりと役職が上がることで

かもしれない

ることができた。い。彼の話を聞き、改めて台輪に携われることは誇りなのだと感じい。彼の話を聞き、改めて台輪に携われることは誇りなのだと感じ最後に三之町頭取のHさん(一九五二年生)の経緯を紹介した

まとめ―台輪を支える人々―

町との繋がりについて考えてきた。ここでは、調査から得られた思いを元に、台輪に参加する意味や

ている。
第一節では、台輪と町の繋がりから伝統について述べ、そこから第一節では、台輪と町の繋がりから伝統について触れた。「町の台輪」をして町から台輪を曳き出すことがそれぞれの町が引き継いできたとして町から台輪を曳き出すことがそれぞれの町が引き継いできたとして町から台輪を曳き出すことがそれぞれの町が引き継いできたとしている。

畿の二つをみられることが、今の新発田祭りの寺数で。けに留まらずに新発田の台輪としての繋がりを重視しようとする意この伝統を守ろうと、町と台輪の繋がりを重視する意識と、町だ

第二節では、お囃子における繋がりをみてきた。この繋がりは、識の二つをみられることが、今の新発田祭りの特徴だ。

機会といえる。いま、多くの女性がお囃子の一員として活躍していいであり、今までは乗ることはできなかったという悔しさを晴らす性が参加できる場である。それは、女性にとってとてもうれしい願性が参加できる場である。それは、女性にとってとてもうれしい願める催しを重ねることで作り上げていた。また、お囃子は、唯一女長い年月をかけて形成されるもので、お囃子同士が集まり親睦を深

うと思うのか、その理由を各々の経験から考えてきた。第三節では、台輪内部の繋がりを中心に、なぜ長年台輪に関わろ

か。

係が生まれる場となっている。 係が生まれる場となっている。 保が生まれる場となっている。 とだ。 それは初めから生まれるものではなく、 役職が上る ではなく、 仕事場以外でできる密接な人間関係を築く場として捉え ではなく、 仕事場以外でできる密接な人間関係を築く場として捉え ではなく、 という思いや、 お世話に につれて曳き子たちに楽しんでもらいたいという思いや、 お世話に に対しる。 といることだ。 それは初めから生まれるものではなく、 として捉え

士の繋がりを作る縁作りの場になっているということだ。きた。これらを通してみえてくることは、祭りの場が町同士、人同の曳き子同士の繋がりから台輪を支える人々の思いについて述べて以上ここまで、台輪と町の繋がり、お囃子と台輪の繋がり、台輪

げることができる。新発田祭りは必ずしも日ごろ溜まったストレスけ深い人間関係が築け、参加し続けることでその繋がりをさらに広は「祭りだから勘弁」と言っていたとも伺った。祭りを通してそれだ何度も耳にした。また、たとえ他の町ともみ合いをしても、翌日に私たちは、調査をする中で「台輪に関わる人は家族」という言葉を

台輪を支える人々にとっての新発田祭りの魅力なのではないだろう長年関わることで培われる信頼関係と新たにできる繋がりこそが、と多くの人々が関わっているため簡単にはいかないことも多いが、まりでもない。祭りは神事であることに変わりはないし、複数の町を発散するための場というだけではないし、また単なる仲間内の集

-109-

第四章 職人町獅子舞

平田陽一、住安詩緒里、竹内元希、名古屋桂

子

る。

はじめに

霊が宿った神輿の前で職人町の獅子舞が舞われる。の境内に集合した後、神社での神事があり、その後の御霊移しで神子舞がある。新発田祭りでは二七日早朝に各町内の台輪が諏訪神社子舞がある。新発田祭りでは二七日早朝に各町内の台輪が諏訪神社の祭礼を語る上で重要な芸能として職人町の獅

その後新発田の各町内を廻る神輿渡御の先導を務めるのが獅子舞できないと捉え、重要な位置にあると認知されている。この際、獅子舞は必ず神輿の先導をして、各御旅所で悪魔祓の舞を舞際、獅子舞は必ず神輿の先導をして、各御旅所で悪魔祓の舞を舞際、獅子頭を社壇にのせ、お囃子と共に各お旅所を廻る。このできないと捉え、重要な位置にあると認知されている。

心にみていく。 職人町は獅子舞の他にも神輿奉還に参与するが、今回は獅子舞を中電人町は獅子舞の他にも神輿奉還に参与するが、今回は獅子舞を中ここでは現時点での職人町の獅子舞のようすを記述する。なお、

の方々からの聞き書き、文献を中心に記述した。 この文章は平成二二年と二三年の新発田祭りでの調査や、職人町

節 新発田祭りにおける獅子舞について

の人々が見物し参加する晴れやかな祭事で、これは、現代の人々が祭りは大きく分けて二つの面から構成されている。ひとつは多く

る部分でもある。 〝祭り〟を思い浮かべる華やかな姿であり、人々が同調し、目にす

こちらは、現代も厳粛に営まれる宗教的な側面を色濃く持っていもうひとつは、現代ではあまり馴染みのない神事の部分である。

れている。 新発田祭りでも、台輪の運行や子供台輪など見物客が多く集まる 新発田祭りでも、台輪の運行や子供台輪など見物客が多く集まる

それではここから、職人町の獅子舞についてみていこう。

職人町という町

ある。新発田の市街地に住む人々には今でも通じる。職人町は、新発田市御幸町の一部をさし、この呼び方は旧町名で

ドン、見EO に見て投合後、さるESt、後、丁さした。 建設が進むと、三ノ丸外に鍛冶町が形成された。その後人口増加にの町であった。初めは五十公野に屋敷を与えられていたが、城下の職人町は溝口氏の新発田入封の際にともに移住してきた鍛冶職人

人々が消し止めた。その功績が称えられ、お殿様から祭り一切の行内で火事があり、これを鍛冶仕事で火の扱いに慣れている職人町のが、これは職人町が「鍛冶町」と呼ばれていた頃に起きた火事がきっが、これは職人町が「鍛冶町」と呼ばれていた頃に起きた火事がきっぱい、現在の土地に鍛冶職人を移住させ、職人町とした。

藩の藩主の着物の裏紋だそうで、 行の取り締まりを行うようになったという。また、 司を任された。これにより、 頼を得ていた町だったのだ。 という。 で職人町が着る法被には菱井桁の紋がついているが、これは新発田 舞には藩から祭祀料が出ていたという。さらに、 このように、職人町は、 職人町は後述する神輿渡御の警護や運 これは職人町だけに許されていた 藩との結びつきが強く、 現在の新発田 諏訪大祭の獅子 藩から信 一祭り

資料から見た近世から平成以前にいたる獅子舞 ここでは職人町の獅子舞に関する資料から、 職人町の獅子舞に

ついてみていく

のを発祥としている。 の神明宮ももとは大黒様の場所に祀られていたと伝えられて」 の諏訪町に造営されたという因縁から」、下町神明宮祭りは 祭礼は「 訪祭礼と、九月二五日~二七日の下町神明祭りであるという。 名工がお札を張り重ねて獅子頭をつくり、諏訪神社の祭礼に舞った 職人町の獅子舞は、 (下) 』によれば、 一諏訪神社がもと職人町の大黒様の場所にあり、それが現在 獅子が舞われるのは八月二七日~二九日 享保一七(一七三二) 一九七二年刊の『新発田市史資料第五巻 年に藩主の命によって 亍 この諏 諏訪 民

俗

かをみていく。 以下では、 諏訪祭礼において職人町がどのように参加していたの 関係から、

それぞれの祭礼に奉仕しているようである。

町の祭りの任務は 『職人町御祭礼年行事取扱之覚』 一五日の道具お迎えに始まり、 (発行年不明)によると、 二七日の早朝に諏

> 取り締まりや、 り締まりを行い、 訪神社で神輿の悪魔払いを行い、 提灯をつけて帰ることになっていた。 神輿の警護は全て職人町役人の役目だった。 当日の夜にならないうちに神輿を神社におさめ その後の神輿渡御では警護運行取 神輿渡御の幸中に おける

て、

るが、 獅子舞以外にも祭りを取り仕切る為の仕事をしていたことが伺え 獅子舞はどこで舞われていたのだろうか。

れる神輿渡御のようすが書かれている。 九三七年発行の『北蒲原郡誌第三巻』 には、 藩制末期頃とみら

之町、 の技を演じながら進む。 箱 いてあとに続く。 行列は職人町の組頭四人が先頭となり、 兎の投槍などとともに、 両町と、台輪を持つ町が額面纏や伊達道具を持ち、 この次に、 次いで獅子舞が登場し、 藩主からの拝領物である差物で奴振り 職人町が額面纏を先頭にして、 上町、 中町、 各戸の悪魔払い 四之町、 台輪を曳 御先 三



職人町の獅子 义

神輿の行列となり、 人らが続く。 しながら進む。この後ろに囃子方の乗り込むデレツク台輪が続き、 最後にしんがりとして職人町の年番、 各 一町の役

興渡御行列には、 ら進んでいくので、 でいる。 末期ころの神輿渡御は、 ここでは、 現在の神輿渡御も、 職人町の獅子舞は神輿の前を悪魔払いをしながら進ん 職人町獅子舞が先導しているのみであるが、 近世からの伝統は受け継がれている。 行列に多くの町が加わっていたようだ。 神輿の前を獅子舞が先導し、 現在の神 清め 藩制 なが

節 組織 運行・日程からみる獅子舞

加え、 舞の日程 から頂いた資料をもとに、 ここからはおもに平成二二年と二三年に行った調査、 現在は八月二七日、 以下では現在における獅子舞の運行についてみていくことにする。 六月の大國主祭でも悪魔払いの獅子舞が舞われている。 運行を中心にして記述する。 二九日の諏訪祭礼と九月二五日の神明 職人町の組織、 新発田祭りにおける獅子 職人町の方 祭り ĸ

組織

は をあわせて「三役」といい、 ップは獅子頭で、 職人町獅子保存会の組織は、 職人町獅子保存会の組織は、 この「三役」だけで行う。 台輪のような頭取はい 図二に色をつけて示した。 図二 重要な場合は取締も加わり、 町内会に属している。 職人町組織図の通 ない。 会長、 獅子保存会の 小頭、 組織の決定 りである。 最重要



の場合は保存会全員に招集をかけて会議を開く。 各月の定例会で話し合う。 急を要さない 、場合

は、

談役は前々会長がつく。 保存会会長の上には顧問、 相談役があるが、 顧問は前会長が、 相

一、平成二二二年度年間日程表

5 彰および特別行事参加表』から作成した。 表一は、 一〇月一六日までの予定をのせた。 『平成二二年度 獅子保存会定例研修予定表』 ここでは、 月 〇) 日 か

職人町獅子保存会年間日程表 表一

日付	時間	場所	備考(カッコ内は主催者)		
1月10日		ジャスコ新発田店	特別行事参加 (新発田市観光公社)		
4月17日 1	19:30	職人町集会所	獅子保存会定例研修会		
4月25日		長野県諏訪大社下社秋宮	御柱拝受式(新発田市建御柱実行委員会)		
5月15日 1	19:30	職人町集会所	獅子保存会定例研修会		
6月10日~13日 1	19:30	職人町集会所	獅子保存会定例研修会		
6月12日		敬和学園大学	日本地域福祉大会第24回新潟大会(新発 田社会福祉協議会)		
6月13日		職人町内 職人町大國主神社祭枠建て			
6月15日		大國主神社	職人町大國主神社祭		
7月17日 1	19:30	職人町集会所	獅子保存会定例研修会		
8月21日~26日 1	19:30	職人町集会所	獅子保存会定例研修会		
		職人町内	諏訪神社祭枠建て		
8月22日		新発田城址公園	曳き御柱、御柱パレード(新発田青年会 議所)		
		諏訪神社	建て御柱(御柱祭実行委員会)		
8月27日~29日		職人町集会所	諏訪神社祭り		
9月21日~24日		職人町集会所	獅子保存会定例研修会		
9月25日		神明神社	神明神社祭り		
10月16日		職人町集会所	獅子保存会定例研修会		

社を出発する。

神輿渡御については、

表二 平成二二年度八月二七日職人町行程

三、平成二二年度新発田祭り行程 以下は、八月二七日、二八日、二九日に行われた新発田祭りの行

事に参加し、

記録をとったものである。

午前七時に職人町集会所に集合。七時三五分に出発するまでの 八月二七日 神輿渡御

ぞれ獅子舞が奉納される。これが終わると、八時三〇分には諏訪神 町」の提灯をたてる。八時五分から諏訪神社神殿前で獅子舞 なっている。八時に諏訪神社に到着後、 発となる。『新潟県の民俗芸能―新潟県民俗芸能緊急調査報告書 に力水や梅干しを頂き、会長の挨拶の後 一』にも梅干しなどの記述があるので、 が奉納され、次いで社務所前、 神輿殿前、 この場は職人町の伝統と 「イヨーッ」の掛け声で出 諏訪神社神輿殿に 豊国殿前にて、 「職人 (長ま

発行の『平成二二年度神輿渡御時定』をもとに作成した。 表に示した。悪魔祓いの順番は、 調査時の記録と、 諏訪神社社務所

るもので、 この神輿渡御での悪魔祓いは諏訪神社の神輿が行く先を祓い清め 神輿もその後ろをほぼ同じ行程でゆく。

-113-

表二 平成22年度8月27日職人町行程表

とお神酒、ろうそく 11 上町御旅所 (相馬銀店前) 四方舞 米、塩、酒のお供え物 7 23 茶の松屋前 記録なし 記録なし 11 高橋時計店前 四方舞 四方舞 四方舞 四方舞 11 高橋時計店前 四方舞 四方舞 11 高橋時計店前 四方舞 12 田町御旅所 (下町会館前) 四方舞 塩、米のお供え物 11 11 11 11 11 11 11		場所	獅子舞の形式	備考		
3 御旅所 (生涯学習センター) 記録なし 店内で行い、御旅所のかわりして講出さま」のお札が入った神様とお神酒、ろうそく おもちゃのとみさわ前 四方舞 米、塩、酒のお供え物 お茶の松屋前 記録なし 12 12 13 14 14 15 16 16 17 17 17 17 17 17	1		四方舞(御旅所舞とも呼ばれていた)			
お発田信用金庫 記録なし 店内で行い、御旅所のかわりに	2	個人宅	記録なし	米、塩、野菜、酒のお供え物		
4 新発田信用金庫 記録なし 「満口さま」のお礼が入った神材とお神酒、ろうそく おもちゃのとみさわ前 記録なし 四方舞 米、塩、酒のお供え物 記録なし 3 編星菓子店前 記録なし 1 旧申町御床所 (衛屋菓子店前 四方舞 酒、米のお供え物 1 高橋寺計店前 四方舞 塩、米のお供え物 1 高橋寺計店前 四方舞 塩、米のお供え物 1 日下町御床所 (下町会館前 四方舞 塩、米のお供え物 1 日下町御床所 (本高自印刷前 四方舞 塩、米のお供え物 1 日下町御床所 (東屋紋章店前 四方舞 北京なし 北京なり 1 日下新町御床所 (東屋紋章店前 四方舞 北京などのお供え物 1 日下新町御床所 (東屋紋章店前 四方舞 北京などのお供え物 1 日下新町御床所 (東屋紋章店前 四方舞 北京などのお供え物 1 日下新町御床所 (東屋紋章店前 四方舞 七本シ舞 一方舞 1 日下新町御床所 (東屋紋章店前 四方舞 1 日本の辺前 十才シ舞 一方舞 1 日本の辺前 十才シ野 一方舞 1 日本の辺前 十才シ野 一方舞 1 日本の辺前 1 日本の砂床所 (都幸町児童公園 上水シ舞 1 日か勢電御床所 (都幸町児童公園 上水シ舞 1 日かり電か所 (職人町御床所 (下)年)年 十才シ舞 1 日四と町御床所 (田之町の台輪格 約1 町のある公園前 十才シ舞 1 日本のよの名の屋前 十才シ舞 1 日本のよの音 1 日本の名はのよの音 1 日本の名はのよの音 1 日本のよの音 1 日本の名はのよの音 1 日本のよの音 1 日本のよの音 1 日本の名はの音 1 日本の名はの音 1	3	御旅所(生涯学習センター)	記録なし			
6 旧上町御旅所(相馬紙店前) 四方舞 記録なし お茶の松屋前 記録なし 記録なし 記録なし 記録なし 記録なし 記録なし 記録なし 記録なし	4			「溝口さま」のお札が入った神棚		
7 お茶の松屋前 記録なし 記録なし 記録なし 記録なし 1 1 1 1 1 1 1 1 1			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
8 内のいしい前 記録なし 9 常屋菜子店前 記録なし 10 旧中町御旅所(鈴屋菓子店前) 四方舞 11 高極時計店前 四方舞 13 旧他門御旅所(「町会館前) 四方舞 14 中村隆輔税理事務所前 記録なし 15 旧西ヶ輪御旅所(福島印刷前) 四方舞 16 神明神宮 十才シ舞 17 旧下鉄砲町御旅所(下鉄会館前) 四方舞 18 旧下新町御旅所(東屋紋章店前) 四方舞 19 魚松前 ナオシ舞 20 やまの辺前 ナオシ舞、二回寝(オオナオンと考えられる) 11 旧張橋御旅所(本福寺前) 四方舞 12 旧接橋御旅所(都幸町二丁日公会堂) 四方舞 23 太田建材前 ナオシ舞 24 個人宅 ナオシ舞 25 旧伊勢堂御旅所(御幸町児童公園 協駐車場) 四方舞 26 海子でセンター前 ナオシ舞 27 ホシノバーマ前 ナオシ舞 28 旧職人町御旅所(職人町神明神社 前) 四方舞 29 職人町公園内公会堂前(山内線) ナオシ舞 30 金子屋別館前 四方舞 31 旧三之町御旅所(四之町の台輪格 納庫のある公園前) カカ 32 魚水島前 四方舞 33 旧三之町御旅所(大衆町2ヤクルト 販売前) 四方舞 34 個人宅 カカ 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞				米、塩、酒のお供え物		
9 翁屋葉子店前 記録なし 10 旧中町御旅所 (翁屋菓子店前) 四方舞 11 高橋時計店前 四方舞 13 旧他門御旅所 (山田染物店前) 四方舞 14 中村隆輔税理事務所前 記録なし 15 旧西ヶ輪御旅所 (福島印刷前) 四方舞 16 神明神宮 ナオシ舞 17 旧下鉄砲町御旅所 (下鉄会館前) 四方舞 18 旧下新町御旅所 (東屋紋章店前) 四方舞 19 魚松前 ナオシ舞 20 やまの辺前 ナオシ舞 21 旧猿橋御旅所 (本福寺前) 四方舞 22 会堂 1日三直町御旅所 (御幸町二丁目公会堂) 23 太田建材前 ナオシ舞 24 個人宅 ナオシ舞 25 協駐車場) 四方舞 26 海洋以上のマウター前 ナオシ舞 27 ホシノバーマ前 ナオシ舞 28 旧職人町御旅所 (職人町神明神社前) 四方舞 29 職人町公園内公会堂前 (山内線) ナオシ舞 30 金子屋別館所 四方舞 31 旧四之町御旅所 (四之町の合輪格納庫のある公園前) カカ舞 32 魚水島前 カカ東 33 旧三之町御旅所 (台輪格納庫前) 四方舞 34 旧三之町御旅所 (大柴町2ヤクルト版売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	\vdash					
10 旧中町御旅所 (翁屋菓子店前) 四方舞 酒、米のお供え物 11 高橋時計店前 記録なし 四方舞 11 11 11 11 11 11 11	\vdash	•				
11 高橋時計店前		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
12 旧下町御旅所 (下町会館前) 四方舞 塩、米のお供え物 14 中村隆輔税理事務所前 記録なし 記録なし 記録なし 15 旧西ヶ輪御旅所 (福島印刷前) 四方舞 大才シ舞 17 旧下鉄砲町御旅所 (東屋紋章店前) 四方舞 米、酒などのお供え物 四方舞 外で 20 やまの辺前 ナオシ舞 一日 21 日張橋御旅所 (本福寺前) 四方舞 22 23 太田建材前 ナオシ舞 24 個人宅 日一世の方針 ナオシ舞 25 旧飛町児童公園内ふれあいコミュニティセンター前 ナオシ舞 1日職人町御旅所 (職人町神明神社 前) 27 29 職人町公園内公会堂前 (山内様) ナオシ舞 1日四方舞 1日四方舞 1日四方舞 1日四方舞 1日歌人町御旅所 (職人町神明神社 前) 1日四方舞 1日四方舞 1日歌人町御旅所 (職人町神明神社 1月万舞 1日四之町御旅所 (四方舞 1日歌人町四角旅所 (四方舞 1日四之町御旅所 (日本田の古 1日下新 1日下大学町 1日下大				酒、米のお供え物		
13 旧他門御旅所 (山田染物店前) 四方舞 塩、米のお供え物 14 中村陸輔税理事務所前 記録なし お酒や果物、米のお供え物と小さな神棚 16 神明神宮 ナオシ舞 17 旧下鉄砲町御旅所 (下鉄会館前) 四方舞 米、酒などのお供え物 18 旧下新町御旅所 (東屋紋章店前) 四方舞 20 やまの辺前 ナオン舞、二回寝 (オオナオンと考えられる) 11 11 12 13 14 14 15 15 15 15 15 15						
14 中村隆輔税理事務所前 記録なし お酒や果物、米のお供え物と小さな神棚 16 神明神宮 ナオシ舞 17 旧下鉄砲町御旅所(下鉄会館前) 四方舞 米、酒などのお供え物 18 旧下新町御旅所(東屋紋章店前) 四方舞 20 やまの辺前 ナオシ舞 二回寝(オオナオシと考えられる) 21 旧猿橋御旅所(本福寺前) 四方舞 22 会堂) 3 太田建材前 ナオシ舞 24 個人宅 17 世界 25 旧伊勢堂御旅所(御幸町児童公園 26 御幸町児童公園内ふれあいコミュニティセンター前 ナオシ舞 11 職人町御旅所(職人町神明神社 前) 17 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対				the step to the bill.		
15 旧西ヶ輪御旅所(福島印刷前)				塩、米のお供え物		
10日 10	14	中村隆輔棁埋事務所前	記録なし	To be defined. The political field of the		
17 旧下鉄砲町御旅所(下鉄会館前) 四方舞 米、酒などのお供え物 19 魚松前 カオン舞 フオン舞 フオン舞 フオン舞 フオンと考えられる) 四方舞 フオンと考えられる) 四方舞 四方音						
18 旧下新町御旅所 (東屋紋章店前) 四方舞 19 魚松前 ナオシ舞						
19 魚松前 ナオン舞 20 やまの辺前 ナオシ舞、二回寝(オオナオシと考えられる) 21 旧猿橋御旅所(本福寺前) 四方舞 四方舞 四方舞 四方舞 四方舞 22 会堂) 四方舞 四方舞 24 個人宅 ナオシ舞 25 旧伊勢堂御旅所(御幸町児童公園 四方舞 16 御幸町児童公園内ふれあいコミュニティセンター前 ナオシ舞 27 ホシノパーマ前 ナオシ舞 28 旧職人町御旅所(職人町神明神社前) 四方舞 30 金子屋別館前 ナオシ舞 31 旧四之町御旅所(四之町の台輪格納庫前) 四方舞 32 魚水島前 カナオシ舞 33 旧三之町御旅所(台輪格納庫前) 四方舞 34 旧七区御旅所(大栄町2ヤクルト 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞				米、酒などのお供え物		
20 やまの辺前						
20	19	魚松前				
22 田三宜町御旅所(御幸町二丁目公会堂) 四方舞 23 太田建材前 ナオシ舞 ナオシ舞 24 個人宅 ナオシ舞 四方舞 四方舞 四方舞 四方舞 四方舞 四方舞 四方舞 日世勢堂御旅所(御幸町児童公園 四方舞 日世 四方舞 日職人町御旅所(職人町神明神社前) 四方舞 日職人町御旅所(職人町神明神社前) 四方舞 10 金子屋別館前 ナオシ舞 日四之町御旅所(四之町の台輪格 四方舞 11 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15			ナオシと考えられる)			
23 太田建材前	21		四方舞			
24 個人宅 ナオシ舞 25 旧伊勢堂御旅所(御幸町児童公園 四方舞 四方舞 26 御幸町児童公園内ふれあいコミュニティセンター前 ナオシ舞 27 ホシノパーマ前 ナオシ舞 28 旧職人町御旅所(職人町神明神社前) 四方舞 29 職人町公園内公会堂前(山内様) ナオシ舞 ナオシ舞 30 金子屋別館前 ナオシ舞 四方舞 31 旧四之町御旅所(四之町の台輪格納庫のある公園前) カナオシ舞 32 魚水島前 ナオシ舞 田七区御旅所(大栄町2ヤクルト 四方舞		会堂)	四方舞			
25 旧伊勢堂御旅所 (御幸町児童公園 四方舞 26 加幸町児童公園内ふれあいコミュニティセンター前 ナオシ舞 27 ホシノパーマ前 ナオシ舞 28 旧職人町御旅所 (職人町神明神社前) 四方舞 29 職人町公園内公会堂前 (山内様) ナオシ舞 30 金子屋別館前 ナオシ舞 31 旧四之町御旅所 (四之町の台輪格納庫のある公園前) 四方舞 32 魚水島前 ナオシ舞 33 旧三之町御旅所 (台輪格納庫前) 四方舞 34 版売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	-					
25 脇駐車場)	24		ナオシ舞			
26 ニティセンター前 フォシノパーマ前 27 ホシノパーマ前 ナオシ舞 28 旧職人町御旅所(職人町神明神社 前) 四方舞 29 職人町公園内公会堂前(山内様) ナオシ舞 30 金子屋別館前 ナオシ舞 31 旧四之町御旅所(四之町の台輪格 内庫のある公園前) 四方舞 32 魚水島前 ナオシ舞 33 旧三之町御旅所(台輪格納庫前) 四方舞 34 旧七区御旅所(大栄町2ヤクルト 販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	25		四方舞			
28 旧職人町御旅所 (職人町神明神社 前) 四方舞 29 職人町公園内公会堂前 (山内様) ナオシ舞 30 金子屋別館前 ナオシ舞 31 旧四之町御旅所 (四之町の台輪格納庫のある公園前) 四方舞 32 魚水島前 ナオシ舞 33 旧三之町御旅所 (台輪格納庫前) 四方舞 34 旧七区御旅所 (大栄町 2 ヤクルト販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	26		ナオシ舞			
28 前) 四万舜 29 職人町公園内公会堂前(山内様) ナオシ舞 30 金子屋別館前 ナオシ舞 31 旧四之町御旅所(四之町の台輪格納庫のある公園前) 四方舞 32 魚水島前 ナオシ舞 33 旧三之町御旅所(台輪格納庫前) 四方舞 四方舞 34 旧七区御旅所(大栄町2ヤクルト販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	27	ホシノパーマ前	ナオシ舞			
30 金子屋別館前 ナオシ舞 31 旧四之町御旅所 (四之町の台輪格納庫のある公園前) 四方舞 32 魚水島前 ナオシ舞 33 旧三之町御旅所 (台輪格納庫前) 四方舞 34 旧七区御旅所 (大栄町2ヤクルト販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	28		四方舞			
31 旧四之町御旅所 (四之町の台輪格 納庫のある公園前) 四方舞 32 魚水島前 ナオシ舞 33 旧三之町御旅所 (台輪格納庫前) 四方舞 34 旧七区御旅所 (大栄町2ヤクルト 販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	29	職人町公園内公会堂前(山内様)	ナオシ舞			
31 納庫のある公園前) 四万舜 32 魚水島前 ナオシ舞 33 旧三之町御旅所(台輪格納庫前) 四方舞 34 旧七区御旅所(大栄町2ヤクルト販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	30	金子屋別館前	ナオシ舞			
33 旧三之町御旅所(台輪格納庫前) 四方舞 34 服七区御旅所(大栄町2ヤクルト販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	31		四方舞			
34 旧七区御旅所 (大栄町 2 ヤクルト 販売前) 四方舞 35 個人宅 ナオシ舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	32	魚水島前	ナオシ舞			
34 販売前) 四万舜 35 個人宅 ナオシ舞 あらかじめ毎回依頼があってまわっている 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	33		四方舞			
35 個人宅 プオン舞 36 獅子舞参加者宅前 ナオシ舞	34	旧七区御旅所(大栄町2ヤクルト 販売前)	四方舞			
	35		ナオシ舞	あらかじめ毎回依頼があってま わっている		
27 旧源計前御校正(小嶋樗内庄前) 四古舞	36	獅子舞参加者宅前	ナオシ舞			
[51] [1] [[1] [[1] [[1] [[1] [[1] [[1] [37	旧諏訪前御旅所 (小嶋精肉店前)	四方舞			

場所	獅子舞の形式	備考		
宮村製麩店前	記録なし			
旧上鉄旭御旅所(塩谷酒店前)	四方舞			
塩谷酒店前	ナオシ舞			
イシイ鉄工前	四方舞の一回寝(オオナオシと考えられる)	三つ扉の神棚		
個人宅	記録なし			
御旅所(金升酒造前)	四方舞			
金升酒造事務所前	四方舞の一回寝(オオナオシと考えられる)	諏訪神社のお札、御神酒のお供え 物		
新発田ガス社長宅前	ナオシ舞			
旧東町御旅所(市島酒造前)	四方舞			
市島酒造前	ナオシ舞			
御旅所(トマツ商店前)	四方舞			
トマツ商店前	ナオシ舞			
旧諏訪裏御旅所 (樫内ビル前)	四方舞			
旧泉町御旅所(長谷川忠勝宅前)	四方舞			
御旅所 (渡辺金物店前)	四方舞			
渡辺金物店前	ナオシ舞	御神酒の奉納		
諏訪神社神殿前	ナガマキ	神事終了(1830頃)		
	宮村製麩店前 旧上鉄旭御旅所(塩谷酒店前) 塩谷酒店前 イシイ鉄工前 個人宅 御旅所(金升酒造前) 金升酒造事務所前 新発田ガス社長宅前 旧東町御旅所(市島酒造前) 市島酒造前 御旅所(トマツ商店前) トマツ商店前 旧諏訪裏御旅所(樫内ビル前) 旧泉町御旅所(長谷川忠勝宅前) 御旅所(渡辺金物店前) 渡辺金物店前)	宮村製麩店前 記録なし 旧上鉄旭御旅所(塩谷酒店前) 四方舞 塩谷酒店前 ナオシ舞 イシイ鉄工前 四方舞の一回寝(オオナオシと考えられる) 個人宅 記録なし 御旅所(金升酒造前) 四方舞 金升酒造事務所前 四方舞の一回寝(オオナオシと考えられる) 新発田ガス社長宅前 ナオシ舞 旧東町御旅所(市島酒造前) 四方舞 市島酒造前 ナオシ舞 御旅所(トマツ商店前) 四方舞 トマツ商店前 ナオシ舞 田東町御旅所(長谷川忠勝宅前) 四方舞 御旅所(渡辺金物店前) 四方舞 渡辺金物店前 ナオシ舞		

側で待機となり、二二時からお祓いが始まる。 着後、 出発する。諏訪神社へ向から行列には町内の女性や子どもも参加で を止め、拍手で職人町を迎える。そして二○時一五分に諏訪神社到 子とともに進んでいく。大栄町の通りに入る前に整列し、 一杯ずついただく。このあとはしばし振舞い酒の時間となった。 八月二九日は一八時三〇分に職人町集会所に集合し、 二一時五五分に神輿殿前に集合し 提灯持ちが列の前後を、職人町の男性が脇を固める形で、 職人町の人々は、館付近まで見送りに行った。 八月二九日 玉串奉奠、 神輿奉納 巫女の神楽舞と進み、 祓詞を奏上の後、 鈴のお清めの後、 祓詞を奏上の後、

始まる。

初めに溝口大祖神の神輿に担ぎ棒をいれて担ぎ上げ、

神輿

組会館付近にて、職人町と青年会議所の人々が双方とも三回ずつ木

が来るが一旦戻る。再び迎えが来て職人町公会堂を出発し、

下町わ

に酒やつまみが振る舞われ、 やりを交換する。 詞奏上、神輿への祈願と進み、二三時一五分には神輿の組み立てが 台輪の待つ大栄町交差点へと入っていく。この間、台輪はあおるの つ木やりを交換する。これで渡り付けが終了し、青年会議所の人々 神殿周囲の清掃を行う。清掃が終ると、社殿階段を登って左 一旦解散し夕食となる。二一時三〇分には再び諏訪神社へ集 これが終ると、公会堂へもどり、 しばらくすると青年会議所の人々が帰 双方とも五回ず お祓い、 諏訪神社 いよいよ 御神酒を お囃

め唄われる。 殿前で木やりを一本唄う。 還はこれで終了となる。 入っていく。 殿前での木やりの後、 係なく、あくまで一服のためで、気合を入れてメリハリをつけるた たちも参加している。二三時二〇分、神輿が神輿殿前を出発 殿から出す。 を三回くり返すと、社殿では太鼓が鳴り、 面右手に時計回りに回る。 その歌詞は、 正面向かって左側に神輿を還し、 担ぎ手は職人町の人々が中心で、 社殿の正面から左奥へ向かい、 神輿あげの際に唄う。 深夜だけに唄うものもあるという。 一周に約七分ほどかかる。 神輿はくじら幕の中 青年会議 溝口大祖神の神輿奉 これは神事とは この時 後を通って正 所有志の 計回 神輿 神 ŋ 関 人

このような動作が五回ほどあった。 る途中で、 出る前に、 とがある。 豊国殿の前であったりする。 三〇分に無事おさまった。 担ぎ手は途中で給水したり、 周も回るため、 き出す。 神輿はくじら幕から出てきて、 るのかと思われるのだが、 の度も社殿の正面から時計回りで回る。 次に、二三時三七分、 溝口大祖神の神輿と同様、 くじら幕の中へ入っていくことがある。 これは、 神輿を整えるために唄うという。また、 木やりを唄う場所も変わってくる。 提灯の灯が消えてしまったりした際に、 諏訪大神の神輿を組み立て、 中から「戻れ、戻れ!」 また、 交代したりしつつ、 再び回り始める。 社殿の後方でも木やりを唄うこ 以上のような動きをしながら、 神殿前で木やり一 諏訪大神の神輿では約二八 約二八周 神輿は午前 の声が聞こえ、 そろそろ奉還す 神輿は回ってい 神輿殿の 本を唄 神輿殿より引 の間に、 が前や、 人前に ર્ટે 一時

三節 獅子舞を支える人々

する。
(一九九七年)発行、そして平成二二年度に行った調査をもとに比較年)発行、『新潟県の民俗芸能―新潟県民俗芸能緊急調査報告書―』ついて考察する。変化については、『新発田の民俗(上巻)』(一九七二 ここでは、獅子舞とお囃子の変化を通して、獅子舞を支える人々に

、舞の型

悪魔払い

悪魔払いは剣をもって舞う舞で、神前で舞うことになっている職人町の獅子舞には、悪魔払いとナオシ(直し)がある。

で、一般の場所で舞う場合は、必ず上座に神様を安置した社壇の前悪魔払いは剣をもって舞う舞で、神前で舞うことになっているの

で舞う。

する り、 魔を押さえ祓って、 大きく開いて体を左右に振る。 き」という。三段目は獅子がうずくまり、 いて、ござの上でからだを伸ばし、 が四方を剣で祓い清める。二段目は後獅子も幕に入り、 を抜いて、悪魔払いす天照大神宮」 は幕を持つ。この段では、 悪魔払いは四段に分かれている。 「ねる」という所作が入る。 右に剣、 左に幣東を持ち、 最後に社殿の柱 「天の岩戸を押しひらき、三尺二寸の剣 次に獅子が起きて、 四方を舞い 四段目はコウモリといい、 寝る所作をする。これを の唄が入り、これにのせて獅子 一段目 もしくは上座にある神様の 、祓う。 眠りから覚めてあくびを は前獅子が獅子頭 このとき、 奮迅の勢いで悪 採り物を置 後獅子 を被

徴である神棚などに獅子が噛み付いて終了となる。各段の間 いよく悪魔を払う所作をする。これを「起きる」という。 で、 勢

報告書―』には諏訪祭礼にのみ舞うとあるが、 でのみ演じられる。 いるといえる。 祭礼と下町神明神社祭礼で、 このうちの二段目の 資料にみる悪魔払いの獅子舞は、 『新潟県の民俗芸能―新潟県民俗芸能緊急調査 「長まき」の所作は神社の祭礼における神前 いずれも神殿前でこの所作があった。 ほとんど変化無く受け継がれて 平成二二年度は諏訪

ナオシ (直し)・オオナオシ

意味を持つ。 舞の記述は この舞は、 悪魔払いと比べると、ナオシはだいぶ変化がある。 おもに町内廻りに舞われる。こちらも厄除けの清め 資料によって差がある。 ح 0

る。『いは三段目から舞うなど、 と記し、 新発田市史資料編第五巻 舞は剣舞の一段目を除いたものを呼んでいて、二段目ある 時間や場所によって簡略化して舞うとあ 民俗(下)』では、漢字で「直し」

る。 では、 ま舞うもので、オオナオシは、 他方、 ナオシには、 『新潟県の民俗芸能 ナオシとオオナオシがあり、 —新潟県民俗芸能緊急調査報告書-一回寝あるいはコウモリを舞うとあ ナオシは立ったま

祓い清める舞を行うが、 は一 私たちが見たナオシ、オオナオシは後者に近いもので神社以外で 一段目に当る長まきはなかった。また、 一般の商店や住宅では、 御旅所では、 唄にのせた剣を持 必ず四方を

> 二七日職人町行程表で四方舞とある、 剣で四方を祓い清め、 ものが「オオナオシ」と呼ばれる。なお、 が悪魔を払う所作を行い、 作が入るものを「ナオシ」、唄をつけて剣で四方を祓い清め、 が入るもの、 での舞のうち、 る」やコウモリの所作を行うこともあった。 で四方を祓い清め、 つ舞がなく、 違いがないように見受けられた。 唄をつけて剣で四方を祓い清め、 獅子が悪魔を払う所作のみが入るもの、 唄にのせた剣を持つ舞がなく、 獅子が悪魔を払う所作が入るもの、 獅子が悪魔を払う所作が入る「ナオシ」の舞 加えて「ねる」 しかし職人町の人たちはこれ 御旅所での舞と、 表二 やコウモリの所作を行う 悪魔を払う所作のみ 般の商店や住宅など 獅子が悪魔を払う所 平成二二年度八月 唄をつけて剣 唄をつけて 加えて「ね 獅子

うに思われる つ意味も変わってくるよ 舞う場所の違いで舞の持 方を祓い清める舞でも でいたことから、 同じ四

を「御旅所舞」とも呼ん

は、



図三 御旅所での獅子舞

職人町の獅子舞の系統

子舞を他の地域に教えており、 田の獅子舞 職人町の獅子舞の系統について触れておく。職人町 中曽根の神楽舞、 猿橋の獅子舞がある。 その中には五十公野の大神楽や新井 は獅

にも は、 で猿橋の人たちに手伝ってもらったことがあったという。 依頼していた。 このことから獅子舞が四方を祓い清めることを四方舞と呼んでいる。 また、 人町 神輿渡御の露払いで回る地域が増え、 応援に来ていたという。 職人町の系統の町内では、 の獅子舞の調査中では、 。また、 平成二二年度の聞き書きでは笛方の人手不足 昭和五五年~平成一七年ごろまで 四方舞という表現がされていた。 新発田祭りの職人町の悪魔払い 中曽根の獅子舞に応援を

囃子

ており、14 ば、 囃子は「大太鼓一・ツケ太鼓 新発田市史資料第五巻 現在の囃子と変化は無い。 民俗 一・笛若干・社壇有」と記述され 下 (一九七二年) によれ

どがあり、 妻をあらわし、 トオリとなる。 をまわり、 となる。 神門をくぐるときのものがある。後者は拍子を上げたトオリの太鼓 これが『新潟県の民俗芸能―新潟県民俗芸能緊急調査報告書―』 また、 神社に獅子舞を奉納してからはナオシとなり、これで町内 同資料によると演奏される曲目にはトオリとナオシ、 神社に帰る。神社で神輿納めの露払いを舞うと、帰りの トオリには神社に向かう際のもの、十二提灯、 。また、 そうした気持ちで演奏するものと伝えられている。 拍子は大太鼓が雷 ツケ太鼓が雨霰 笛が稲 舞な 随

> が、 なっているとある。15 きと帰りで曲目が異 現在はともに行きの曲 へなった

(一九九七年)では、

昔は

5့ チュウ」を演奏しているとい 輿の露払いのときには 神社から職人町へ戻るときは 諏訪神社へ向かうとき、 「トオリ」、その他おもに神 現在の拍子は、 職人町 「ドウ 諏訪 から

べるといくらか違いがある 昭和の時 代と比



図四 お囃子とともに舞われる獅子舞

が、

平成に入ってからはお囃子に変化はないようである。

三 獅子舞を支える人々

るのかについてみていきたい。 る。 た、 ここからは、職人町の獅子舞を舞う、お囃子を演奏するといっ 職人町の方々がどんな思いで獅子舞と接し、 実際に獅子舞とともに祭りに参加している人々について記述す 祭りに参加してい

さん(一九五五年生)、 Gさん(一九五一年生)、 役Nさん(一九三七年生)、 今回は、 一九五六年に職人町獅子保存会入会の職人町出身の 一九六九年入会の職人町出身の取締Sさん 一九八五年入会の菅谷地区出身の小頭I 一九七〇年頃入会の職 八 町· 出 0 相談 頭 取

(一九五〇年生) の四人からお話を伺った

一 伝統を引き継いでいるという誇り

えた。 らが、 る。 ものを、 を う誇りの意識である。Nさんの「我々は先代から伝えられたもの その町が舞う獅子舞にも、 けるべきであるし、 諏訪神社からの依頼ではあるが、毎年続けてきた伝統芸能として続 先代からの伝統は守っていかなければならないという意志がうか Ļ はなるべくそのままの姿で受け継いでいかなくてはならない」と話 れた」という言葉からは、 から伝えられ三○○年以上受け継がれてきた伝統芸能であり、 が引き継いできた」という伝統を重んじる心と、 なければならない」、そしてNさん、Gさん、Sさんの うことができよう。 Gさんの の町でもできるわけではないものを自分たちは任されている」とい そのまま後世に伝えている」、Sさんの「代々伝えられてきた 時代の中で変化していくものがあるとしながらも、その中でも またGさんは 話を伺って最も強く言われてたのは、 また、 Iさんの「少子化のため維持するのが大変だが、 伝統を引き継いでいくことは重要な事柄であることがわか 四〇年以上変化がないことからも、この意識の高さをうかが そのまま後世に受け継いでいかなくてはならないと教えら 前節で記述した悪魔払いの舞や、 「勿論、 頼まれなくてもやるだろう」という言葉からも 歴史的: 昔と変わってきてはいると思うが、 生まれた年代や保存会に入会する年は違 「町内の一員として守っていくべき伝 記な経緯、 伝統があり、 「職人町という町にも お囃子で使われる楽 「獅子舞は溝口公 我々がやら それを我々 「獅子舞は 我々 が

> 継がれているのである。 らない」ものであり、絶やしてはならないものとして、大切に受け彼らにとって獅子舞は「職人町に生まれたからには守らなければな

二 獅子舞は神事である

頭 事。 存在であり、 表現から、 進むことができない。獅子舞を神輿が追い越すことはない」という が清めた所を神輿が通過するのであり、 る。 ある。これはIさんの「(職人町の獅子舞は) 一職人町がやっていることはイベントではなく神事」という認識で また、実際に職人町の組織の中で最も高い位にいるのが であること、 我々がやらなければ始まらない」という言葉からもうかがえ 一職人町の獅子舞は神輿を先導するための重要で神聖なもの」、 職人町において獅子舞は神輿が通れるように場を清 何よりも神聖なものとして扱われている。 調査中に町の方々から聞かれた 獅子舞がいなければ神輿は 祭りに欠かせ 「職人町 の 獅 ない 子舞 獅子

イベント化についての職人町の人々の考え

(三)

はなく諏訪神社祭り。 Nさんは次のようにも話している。 ではないという考えである。 ための神事だからこそ、外部に出してイベントのように楽しむもの なものか」という言葉があった。 社祭りのための伝統芸能なので、 このような考え方の中で、 現在では、 新発田祭りのイベント化に Nさんからは「獅子舞は本来、 この二つはイコールではない。 他のイベントに参加するのは 職人町の獅子舞は諏訪 「我々にとっては新発田祭りで ついては、 神社祭りの 諏訪 現

訪神社 社祭りは伝統そのものである」。また、Gさんの 在 人の思いや祭りの伝統についての意識が絡み合っており、 新発田祭りにおける神事とイベント化についての葛藤はさまざまな ントに賛成の人もいるし、「もともとは神事としての祭りであるの 田祭りでは、 に始まって職人町に終わる神事」という意見もあった。現在の の新発田 イベントのようにされたくない」との理由で反対の人もいる。 一祭りは別。 **[祭りは市にとっての観光のためのイベントだが、** 「大勢に見てもらえるのはうれしい」との理 前者はイベントだが後者は神事。 「新発田 獅子舞 解決する 由でイベ は職人町 祭りと諏 諏 新発 試訪神

四 「獅子舞に参加できないとき」にみる、獅子舞の神聖性

のにはとても難しい問題である。

あった場合、 せずに笛や太鼓などで参加していた」。Iさんは たからといって祭りに全く参加できないことはないが、 た人もいた」。Sさんは と参加を自粛する人が多かった。子供の出産を機に参加を見合わせ 認する」。Gさんは、 場合は一○○日程度経過していれば良いが、念のため寺や神社に確 ときは参加を控える。 職人町の方々はこのことをどう捉えているのだろうか。 昭和三八年頃 その他親戚は四十九日までは参加できない」という。 事では、 人の死や生理、 神事なので鳥居をくぐってはいけない。 身内の不幸で参加しないことがあった。こういう これは本人の認識次第で、どうしても出たい 「決まりは特にはないが、 「特に決まってはい 出産など、死や血による穢れを嫌う。 ない。 身内に不幸がある 「身内に不幸が 身内が亡くなっ 親兄弟は 舞うことは Nさんは いずれも

れてきたことを守っているということではないだろうか。人から教わるものである。このことについても、先の代から伝えらその行動であろう。また、こういった決まりは自分よりも上の代のれも獅子舞や獅子という存在を神聖なものとして扱っているからことはあっても、悪魔を払う役割を持つ舞には参加していない。こ身内に不幸があった際は参加を控えたり、獅子舞にお囃子で混ざる

五「祭りの終わり」から見える、神事を舞う責任感

りが 0 1 いずれも責任を全うして祭りを終えている。 う感じ」という。 会が終わったとき。これが終わると、今年も一年終わったな、 帰るとき」。Iさんは「祭りが終わって料亭で飲みながら行う反省 き」。 S さんは 祭りでは二九日深夜(三〇日未明) りが終わったとき」。Gさんは を全てやり終えたと感じるのは、 輿あげが終わったとき。ただし、 るように、 ようになど、役職でも平法被でも気を使う点は多々ある。 総決算であり、 る獅子舞を無事に終えるのは、 事として舞われる獅子舞であるが、 「終った」と感じるときについて、 運行に支障がないように、 「神輿を納めた後、 祭りの時間 来年の祭りに改めて意識を向けることでもある。 から日常の時間に戻っていくなかで、 「神明祭りが終わった後。 その年の獅子舞を舞うという責任 九月二五日~二六日の神明神社祭 職人町の一員としてやるべきこと 一諏訪神社での宮入が終わっ ツケ太鼓を叩きながら職人町へ また、 Nさんは「諏訪神社での神 祭り中は舞が滞りなく行え 運行中に怪我をしな 現在まで受け継がれて そんな祭 新 たと 発田

(六) まとめ

事を共に行っているという意識は、獅子舞を中心にして繋がりを生 うな華やかさはない。 か。 いるのは、 むだろう。 ている」という言葉からは、 ミュニティを作り上げている存在。 職人町の人々が獅子舞に注ぐ思いはそれぞれであろう。Iさんの 獅子保存会という、会社や仕事以外の、 職人町の獅子舞は神事であるため、 守り伝えていきたいという、 その中で職人町の獅子舞を受け継ぐ人々の間で保たれて 神事を任されているという「誇り」なのではないだろう 自分の子供にも獅子舞を受け継いでいってほしいと思 しかし、獅子舞を支える人々のなかで、 獅子舞が繋いでいる人の輪を大切に感 獅子舞への思いがうかがえた。 町内に住んでいるなら参加した 祭りを盛り上げる台輪のよ 自分にとって大切なコ 自



図五 神棚を前に舞われる獅子舞

人々とは違う役割を持っているという意識が強くあるように感じらば祭りは始まらない」という共通認識があり、自分たちは台輪の分たちが祭りにとって最も重要な存在だ」、「自分たちが居なけれ

まとめ

れた。

いを繋いでいきたいという意思の表れといえよう。とこまで、さまざまな角度から職人町の獅子舞についてみてきた。その誇りと重みが職人町の人たちを獅子舞に向かわせ、神事とた。その誇りと重みが職人町の人たちを獅子舞に向かわせ、神事とここまで、さまざまな角度から職人町の獅子舞についてみてきここまで、さまざまな角度から職人町の獅子舞についてみてき

わっているのだ。という神事の中核に近い役割を担うことで、新発田祭り全体と関権利でもあり、人々を繋ぐ中心でもある。職人町の人々は、獅子舞権利でもあり、人々を繋ぐ中心でもある。職人町に住む者としての郷子舞は果たすべき役割であると共に、職人町に住む者としての

〇参考文献

櫻井徳太郎『民俗儀礼の研究 櫻井徳太郎著作集 第九巻』

吉川弘文堂 一九八六年

15 14 13

新発田市史編纂委会編『新発田市史資料第五巻 民俗(下)』

新発田市史刊行事務局 一九七二年

鈴木秋彦著「11職人町獅子舞」新潟県教育委員会編 新発田市史編纂委員会編 一九七二年 『新発田の民俗(上巻)』野島出版 『新潟県の 民

俗芸能—新潟県民俗芸能緊急調查報告書—』新潟県教育委員会 一九九七年

櫻井徳太郎 一九八六年 二七ページ

2 鈴木秋彦著「11職人町獅子舞」新潟県教育委員会編 一九九七年 五三ペー 「一 伝承地」内『日本歴史地名大系第十五巻 新潟県の地名』引用文よ

3 新発田市史編纂委会編 一九七二年 三二一ページ

同上三二三ページ表四三

5 同上三二一ページより引用

7 6 第三巻』の記事が主として述べられている部分より『職人町御祭礼年行事取 新発田市史編纂委員会 野島出版 一九七二年 五三二ページ『北蒲原郡誌 同上三二一ページより引用

8 同上

扱之覚』参考の文章から

鈴木秋彦著「11職人町獅子舞」 新潟県教育委員会編

お話による 職人町獅子保存会相談役Nさん、 頭取Gさん、 小頭Iさん、取締Sさんの 九九七年 五三ページ

10

12 11 職人町獅子保存会Mさんのお話による

鈴木秋彦著「11職人町獅子舞」新潟県教育委員会編

新発田市史編纂委会 新発田市史刊行事務局 一九七二年 三二三ページ 九九七年 五三ページ

鈴木秋彦著「11職人町獅子舞」新潟県教育委員会編 同上三二〇ページ表四三

九九七年 五三ページ

「塩津潟が復活した要因」二

―古文書・市町村史に視点を当てて―

伊藤 國夫

はじめに

絵図に視点を当ててである。刊号に「塩津潟が復活した要因 一」として紹介した。副題は、古のときである。その間に見つけた「古絵図」を、『新発田学』の創 私が「塩津潟」の存在に気がついたのは、五十年以上も前の十歳

古絵図が現存していたことが大きかった。図』(一六四五年)や『越後国蒲原郡岩船郡絵図』(一七〇〇年)等の図』(一六四五年)や『越後国蒲原郡岩船郡絵図』(一七〇〇年)等の塩津潟が、約二八〇年ぶりに紫雲寺潟から復活したのは『越後絵

そのうち三回は、二大学・一高等学校の学園祭である。これを機会に、「塩津潟図展」を今年六回開催することができた。絵図が数篇現存していることを多くの市民に理解していただいた。

て作成したものである。④と⑤の絵図は、国立公文書館の所蔵であ市が所蔵(文化財指定)しているが、これは江戸幕府の命令によっ後国絵図・下』(一八二二年)である。②と③の絵図は、現在新発田船郡絵図』(一七〇一年)、④『越後絵図』(一六四五年)、③『越後国蒲原郡岩公開した古絵図は、次の五篇である。①『越後国地図』

る。

史に視点をあてて考察する。 今回は、「塩津潟が復活した要因 一」とし、古文書や各市町村

一 古文書や市町村史に見られる塩津潟

一『中条町史』昭和五十七年七月発行

「高井道円 時茂 譲状案」

で誰でも調べることができる。 中条町史に、記載されているの胎内市の文化財に指定されている。中条町史に、記載されているの存在している。「しうつ」は、塩津のことである。この古文書は、存在している。「しうつ」は、塩津のことである。この古文書は、塩津潟の「塩津」の名称が古文書に最初に見られるのは、「高井塩津潟の「塩津」の名称が古文書に最初に見られるのは、「高井

たると考えている。 し」と一緒に記述してあるので、現在の塩津という集落の場所に当いと考えている。「しうつ」という村は、「おおつか」や「しばはつ」からして塩津潟が、一二七七年には存在していたと推察してよこの記録は、建治三年(一二七七年)に作成されている。「しう

図版8「高井道円譲状案」(28号)

建治三年(一二七七)二八「高井道円 時茂 譲状案」

あなくいここから そみのかく いからんでしき ですべる するけんというう りまいっとうするっ このまでのすいことからり もつうましいしきうち をうらるちで月せい すこいこころうう よりですることろうこ たらううり ますれ おりり するいるとでのでは 一つつち 図版 8 高井道円譲状案 (28号) いてわのくにとこまいのかう、 元 しやらくたんの事し、 たるへし、さをいあるへからす、よつて かの所くい、ひこ一郎よしなからちきゃう さかみのくにべつむちのやしき、 かな川・ますかは、なかべし、 ふたつやなき・ハレハムし 七きさは、おにつか、しうつ、 高井道円 時茂 譲状案 ゆつりしやうにつふごなり、 このきたのさかいい、三郎とりもちか けんち三年四月十八日 まこひこ二郎よしなかにゆつり くにおく山のしやうのうちの事 わたすそりやうとも、あちこの

『中条町史』(昭和五十年七月発行)二三三ページより

る。

いる。 ぶる良好で、 に至っている。 発田藩が所蔵していた。そして溝口家から新発田市に寄贈され現在 が協力して作成し、 『正保二年越後絵図』(一六四五年)は、新発田藩や村上藩や高田藩 新発田藩は、 『新発田市史』昭和五十五年十一月発行 この古絵図は、 非常に貴重な古絵図である 塩津潟を領有していた時代があった。 同絵図は、平成八年に新潟県の文化財に指定されて 原本を江戸幕府に提出し、 色彩が鮮やかで正確なうえに保存状態がすこ その控えの絵図を新 現存している

> に記述してある。 事業、一紫雲寺潟新田の開発の山麓から潟端へ」の中で、次のよう『新発田市史・上巻』の八一五ページ、「第二節新田開発と治水

ページに「塩津潟(紫雲寺潟)」という記述と図がある。 まわりには・・・」と記述すべきである。この『新発田市史』 の・・・」とする紫雲寺潟は間違いである。 記述してある。 絵図には、紫雲寺潟とは記述されていない。「塩津潟」と明確に 非常に正確なものである。 いる。この古絵図は、三代将軍徳川家光の命令によって制作された 説明に、 (現中条町)等数えるほどの村しか見えない。・・・」とある。 、現加治川村)・中山村(現加治川村)・船戸村(現中条町)・築地村 この記述ミスが、 「正保二年越後絵図を見ると、 『正保四年越後国絵図』 「正保二年越後国絵図を見ると紫雲寺潟のまわり 塩津潟の復活に大きな役割を果たしたの そしてここが重要な部分だが、この古 (新発田付近の部分図)を使用して 紫雲寺潟のまわりには、 正しくは、 「塩津潟の 貝 (塚村 で

る。 発」ではなく、「塩津潟の新田開発」に訂正されていたと思われついていれば、『小学校用社会科副読本』は、「紫雲寺潟の新田開のいていれば、『小学校用社会科副読本』は、「紫雲寺潟の新田開



『新発田市史・上巻』(昭和五十五年十一月発行)

『加治川村誌』平成十七年二月増補版発行二〇ページ及び八一五ページロ経

(三)

使用して記述してある。(一六四五年)御絵図公儀より貸付のもの(溝口家所蔵)』の古絵図を事業として発行している。この『加治川村誌』には、『正保二年旧加治川村は、加治川村生誕五十周年と新発田市への合併記念

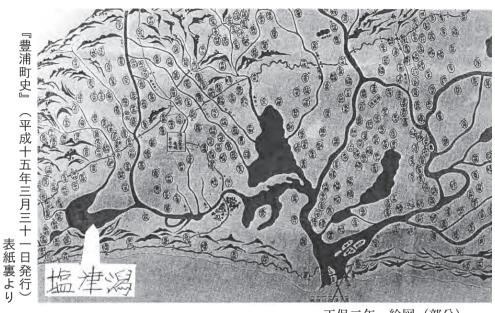
ジまで、「塩津潟(紫雲寺潟)」という表記で一貫している。節塩津潟(紫雲寺潟)の干拓と記述し、六十八ページから七十九ペー第二章塩津潟(紫雲寺潟)の開発、第一節塩津潟(紫雲寺潟)、第二



『加治川村誌』(平成十七年二月増補版)六八ページより

纂している。 旧豊浦町は、新発田市と合併を目前にして『資料編』を編集・編四 『豊浦町史』平成十五年三月三十一日発刊

「塩津潟」 『豊浦町史』の表紙の裏に、 が明確に判明できる絵図がある。 『正保二年絵図』部分を使用して



正保二年 絵図 (部分)

(五) 『中条町史』(平成十六年三月発行)

図入りで記述している。 『中条町史』は、 図の中に「正保絵図にみえる塩津潟周辺」を絵

また、 「奥山荘の概略」 の中でも、 塩津潟を記述している。



「正保絵図にみえる塩津潟周辺」

110ページより

がっています。 多くの潟が信濃川や阿賀野川ともつながっていて、 る絵図である。 後国絵図』には、 後絵図』の拡大図が展示してある。 同館の 」と記述してある。 「蒲原郡では、 『常設展示図録』 塩津潟(紫雲寺潟)・嶋見前潟など 勿論 の十六ページ『正保二年越 「塩津潟」

(六)

『新潟県立歴史博物館常設展示図録』

この歴史博物館には、

「近世の新潟」

のコーナーに『正保二年越

と記載されてい

水路が縦横に広

(平成十二年八月発行

『中条町史』 現胎内川 C 切田 (平成十六年三月発行) 旧塩津湯 マップは20万分の1「村上」

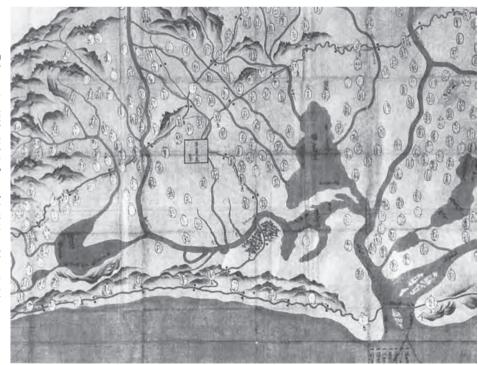
「奥山荘の概略」

※貝附。

里俣

夏井(旧地)

B



かんばら 蒲原郡では、塩津潟 ・嶋見前潟など多くの潟が信濃川や阿賀野川とも (紫雲寺潟) つながっていて、水路が縦横(以下略)

『新潟県立歴史博物館常設展示図録』十六ページより

(七) 胎 内川沿岸土地改良区は、 胎 『内川の恵み』 平成十四年五月発行 五十周年記念事業として『胎内川

を発行している。 が明記された絵図を五篇掲載してい 胎内川の利用 今と昔」 の中 に、

内市の 沢・ 旧 思川村 塩谷に山塩がとれた塩井戸があり、 「塩の (現胎内市)に胎内川沿岸土地改良区はある。 塩が生産されていた。 黒 Ш の 胎 塩



と呼ば これが

れた

り出されたの いう港から送 中条の塩津と 胎内川を下り

「塩津潟」

ある。

由来で 「塩津

『日本輿地図』

(国立公文書館所蔵)

(1756年)

る。

その塩は

ト地点に当た

のスター

(5) 塩津潟の干拓

新発田市から胎内市にかけて、むかしとてもおおきな 温がありました。その潟の名前を塩津潟といいます。

塩津潟は、どのようにして、今のすがたにかわったの でしょうか。



(旧 竹島小学校より 塩津方面)

- 『」でかこまれているところが,潟のあったところ の一部です。
- ·全体の大きさは,横4km·長さ6kmと記録に残っています。

『わたしたちの郷土・胎内市』(平成十八年三月発行)

胎 内市は、 小学校三・四年生用の社会科資料集(九二ページ)

に

0

(八)

塩 恵

お

いて

「塩津潟の干拓」を学習に取り入れている。

九 各種パンフレットに見られる塩津潟

十二月に発行したものであり「塩津潟」が明記されている。このパンフレットは、新潟県新発田地域振興局が平成二十年①(『阿賀北・新発田地域〔史跡〕ビューポイントマップ』



② 『奥山荘歴史の広場』

跡として塩津潟の位置と大きさを絵図にして紹介している。胎内市の「奥山荘歴史館」のパンフレットの中には、塩津潟



三 古文書と古絵図との補強及び相互関係

書が、果たした役割は非常に大きい。村史の発刊により塩津潟の名称が公式に認められたのである。古文村史の発刊により塩津潟の名称が公式に認められたのである。古文村史と文化財として指定された古絵図が密接に関連しあい、相互に村史と文化財として指定された古絵図が密接に関連しあい、相互に

ことが多いのに驚いている。た。それらの関係者に紫雲寺潟のことを訪ねても、認識していないの公共機関に所蔵されているものを含め十数篇確認することができの公共機関に所蔵されているものを含め十数篇確認することができ

おわりに

十二月二日から九日まで新発田学研究センターを会場として古絵図昨年の「塩津潟が復活した要因 一」を受けて、平成二十二年当てた立証事例と実践事例を取り上げながら記述した。―古絵図に視点を当てて―」に次いで、古文書や市町村史に視点を私は『年報新発田学』創刊号の「『塩津潟が復活した要因 一』

昨年の「塩津潟教育研究所では、「塩津潟の啓発」の実践と関い、土二年に塩津潟教育研究所では、「塩津潟が復活した要因」と題して講演を実施した。中日の十二月六日には、「塩津潟が復活した要因」と題して講演を実施した。

政の努力と工夫に視点を当てた考察」をしたいと考えている。 次は、 「塩津潟が復活した要因 三」として、 「埋蔵文化財と行

《引用·参考文献》

- 中条町史編さん委員会『中条町史』平成十六年。
- 胎内市教育委員会編『奥山荘歴史の広場』平成十四年。
- 加治川生誕五十周年・合併記念事業推進委員会

『加治川村誌』平成十七年。

「新発田市史編纂委員会『新発田市史』昭和五十五年。

豊浦町・豊浦町史編さん委員会『豊浦町史』平成十五年。

伊藤國夫著『塩津潟は塩の道』平成十五年 新潟日報事業局。

新潟県立歴史博物館編『新潟県立歴史博物館展示図録』

平成十二年。

- 敬和学園大学『新発田学』平成二十二年。
- 胎内川沿岸土地改良区編『胎内川の恵み』平成十四年。
- 胎内市教育委員会『わたしたちの郷土』平成十八年。
- 新潟県地域振興局編

『阿賀北・新発田地域ビューポイントマップ』平成二十年

―能楽的手法などについて―映画「男はつらいよ」を読み解く

佐藤 榮征

はじめに》

なっている。しかし一時の人気は沈静化しているようだ。ははしば空隙があるし東京・葛飾柴又の寅さん記念館は観光名所と作関係の各種書物の出版は続いている。ビデオ店でのDVDの棚は年、のことなので顧るのに適したスパンになったかもしれない。本年)のことなので顧るのに適したスパンになったかもしれない。本年)のことなので顧るのに適したスパンになったかもしれない。本年)のことなので顧るのに適したスパンになったかもしれない。本年)のことなので顧るのに適したスパンになったがもしているようだ。

れど、 らこそだろう。 を語っている。 に思う。 から二十九年の長きにわたって撮られ特別篇 ついて考えてみることにした。映画は一九六九年(昭和四十四 館やTV或はレンタル媒体で漫然と見ていたこの人情喜劇の手法に 本作品も採りあげ、 「今の日本では生活の型や人間のバックボーンが失われているよう 敬和学園大学は二○一○年、 を含め四十九作が上映された。山田監督は創作の動機を問われ それを探ってみたい。 映画を通じてそれにモデルを与えてみたい」と抱負の一端 その思惑が当たったのだが、 詳細については著書にはあまり述べられていないけ 講演を筆者も傍聴した。これを契機にして映画 場面設定、 市民講座『映画・人・世界』 人物作り、 周到な構想があったか (主演逝去後 口語・所作と文 を催し の集大 年

に能楽と関わる作品構想について論じてみよう。

字・文章表現

(コミュニケーション)

の比較などを採り上げる。

伝統芸能からのインスピレーション

これを幾度も見ていると、狂言に出てくる山伏(修験者)を連想とれとよく似ているのである。

現代のTVドラマを含め映画や演劇ひいてはコミックが伝統芸能現代のTVドラマを含め映画や演劇のいなコミックが伝統芸能のはから材を得ている。山田監督はこの映画作成に当たって能楽の―幽から材を得ている。山田監督はこの映画作成に当たって能楽の―幽から材を得ている。当世紀の大学がら霊感を吹き込まれて、それを手がかりにしているや東西の文学から霊感を吹き込まれて、それを手がかりにしているの。単一では、またのでは、またいでは、またのでは、またいでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、

一 寅さん映画は現代の山伏狂言か

[とらやの設定、寅と山伏の扮装]

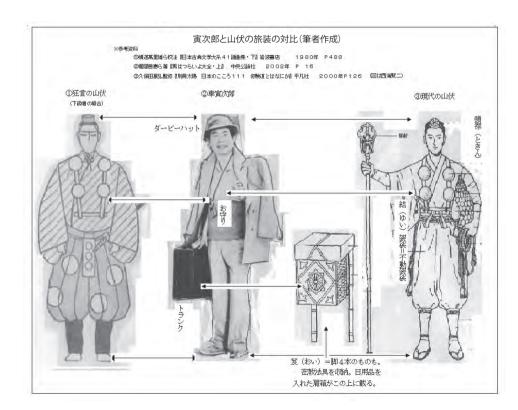
とらや(第四○作から″くるまや″)は団子屋だが、団子や餅は

抱擁力 浸して柔らかくした炊かない米をついて粉にし、それを水でこねもともと神さまに供える粢から派生したものと言う。これは「水 ア_四 ジ ー てい 甘 れてくれる。 味料を加え丸めた食べ物」のこと。店は神聖な手職にたずさわ があり身内の寅は勿論 ル Щ Ш .田監督はここと周辺 駆込み寺=として設定しているのも頷ける。 不遇な人びとを困った時には受け (柴又)を寅の家庭であると同時 とらや 「水に

る。 させるのはあながち牽強付会ではあるまい。 彼はいささか誇りとしているらしい。 I 時代 帝 写 釈天→ 真は昭和二十年代に来た修験者の客だろうが、 初期だ」 ねられると「弁慶がダンゴを食っている写真があるから、 → 庚申待ち→の事実から山伏を寅さんにオーバーラッ**エニラームホホ (第三八作 「知床慕情」・一九八七年) 寅は人にとらやの 実家の生態 と言って 創業 1

に 応し な か 山 の図のように多くの点で寅次郎の服装は山伏 で寅次郎は仲間の墓参においてさえ帽子をとらない。 田監督は ている。 1.修験者を模して寅の扮装を決めたと思われる。 頭襟はダービー ット、 袈裟も寅がさげたお守 (下級) のそれ 帽子 映 は ŋ 画

と自負している。但し寅は薬の神・神農の使徒をも気取っている大日如来の宝冠をシンボライズしており、聖別されている(選民



、伝統と現代」

映画の素材に適合していることを。 模範例を見出したと言いたい。とりわけ狂言の諧謔がこの人情娯楽*マージュ どの相違が思い浮かぶ。それにも拘らずこの映画はやはり芸能史に か、 活動するエリアは能舞台に比べ格段に広いし、 に本番でオブジェ的) 意味するだろう。また能楽と映画ではセリフ、演技 く換骨奪胎して、 役者の表情のアップは能楽では観客に示されることはない、 (文学、 芸能など)を現代に活かすと言う場合、 その時代に合わせた新たな息吹を吹きこむことを 時空の場面設定で大きな違いがある。 直面がためん (能舞台では常 (素顔) 剽窃ではな かどう 寅が な

車寅次郎という男〕

どもがない彼らはさくらを立派に育ててくれた。 る。 くらを弟夫婦 られ商業学校 の間に長男 実母とは生き別れ。 (は庶子。父、 (兄) と妹 (今の中学校) (車竜造=おいちゃん、妻はつね) 平造はだんご屋を経営していたが遊び人。正妻と 母、 (さくら)。 兄が相次いで死去。 をプイと退学して家出。平造は店とさ 寅は父の浮気でできた子であ 寅は不良、 この家族の血縁は に託して死ぬ。 父に叱

> 香具師として二十年も放浪し柴又に帰ってきた。さくらの夫、淡く、紐帯は各メンバーの努力によって維持されてしる。ここになって、 られ として他人の難儀に介入、 欠けるが楽天的で行商に出ては行く先ざきで、 をもつ。 人々=菩提寺の和尚・御前様、 (印刷工)、 何時までも独り者の境遇。 性格は天真爛漫、 叔父夫婦、 甥ぉ ・ ^{境遇。 稚気愛すべき人物ではある。 コンサルタントをかって出るが、} まともに学校へ行っていないので教養に 満男に囲まれ、 隣のタコ社長 (桂梅太郎) らと交流 また人情厚 義侠心の疼きを動機 公下 主人公は 女に 町 Ò

とする。 とする。 とする。 とする。

ら伝統的プレゼンテーションが窺われる。 お礼に腰痛を祈祷で治す。 は大峰・葛城で修行した山伏が久しぶりで伯父を訪ねて歓待され、 的。 層心理のなかで結んでいるらしい。 を表象、 彼の人格を考えるとアニマ(女性原理・女神) 叔父やさくらに勝手なことを言っては困らせる。 「年寄りをなぶりにきたな」と不興をかう話 老賢人には御前様 効きすぎて腰が過度に伸びたり縮 (副次的には恩師、 寅次郎は甘えん坊で自己中心 坪内散歩先 としては妹さくら 映画の出だしか 狂言 を深

とを東ねた車善七(屋号でもある)と言う人がでてくる。この姓は車の姓について作家の杉本苑子は「江戸時代の浅草に下層の人び

ングとして適切と思われる。 『一遍聖絵』に描かれた移動テントの車から発した姓だろう。山田『一遍聖絵』に描かれた移動テントの車から発した姓だろう。山田

登場の時は四十一歳。 お主演の渥美清 年ぶりに帰宅した」と言うから、 では定時制高校志願の履歴書 寅次郎の年齢は常に壮年である。 では六十八歳であった。 からすると二十九歳である。 (本名・ 存命中の最終、 田所康雄) (第二六作「かもめ歌」・一九八○ その計算では三十六歳となる。 ところが「十六歳で家出して二十 第一作 は一九二八年生れなので第一作 四八作「紅の花」 「男はつらいよ」 (一九九五 上 映 な 時

寅にもそれが疑われる。(第一作に少年の寅が父に手痛く折檻されとすぐ切れてけんかする症状がある。幼少期の心的外傷が一因で、近頃問題になっている 人格障害の一つに、他人に認められない

どに、 王様』)の姿をとって設定されている。 て騒ぐ。 しても非難するわけにはいかないから。 るのを隠した、 映画で寅は突然帰ってきては、 よく愚者、道化者さらに子ども こうした人物、 自分の部屋に下宿人がいるなどと言いがかりをつけ いわゆる狂言回しは演劇 とらやの皆が旅行や花見に出 (例・ なにしろ彼らがいたずらを アンデルセン『裸 映 画 童話な Iかけ 0

第一作から四作あたりまでは、すでにエキスパートとの評判が高

見られるような神事的な儀礼だったのだろうか。 「神祇の礼を交わす」と小説のなかで書いているが、古くは相撲にれど。 侠客や寅のような渡世人が交わす挨拶のことを永井荷風はれど。 きょうかく とせいたん かった山田洋次も手探り気味で、寅のキャラクターは洗練 未し。かった山田洋次も手探り気味で、寅のキャラクターは洗練 未し。

褒め言葉でもある。涯、同じ歌をうたっ も馴れ合いに陥らずコンビネーションがよかった。 作目 と新鮮にポピュラーなおかしさを醸し観客を楽しませた。 深刻な事案を変容させて材料とし世相を切る一などに留意、 の人格的成長や小道具、 らには、それを一つずつ巧く映画化すれば続く。 のシリーズの驀進が始まった。 カ月間に製作された。 第四作 同じ歌をうたっている」と揶揄する向きもあるが、 「望郷篇」(同年八月)から観客動員が七十二万人を突破、 「新・男はつらいよ」(一九七〇年二月) 彼は①類型に少しずつズレを持たせる(主人公 映画全盛の終期だった。滑り出しがよく第五 電話機やTVのモデルチェンジなど)② 男女の出会いで生が紡がれていくか 山 まではわずか七 マンネリは 田監督は 俳優たち 生

や宛ての葉書)ということになる。 「今はただ後悔と反省の日々を過ごしております」(旅先からとらを示すことができる―との謂いだろう。寅もさんざん吠えたあと、件となりおかしくもない。やり過ぎないことでかえって人間の現実後に「死ぬほどのことはない。やーめた」と止める。決行すれば事の大蔵流狂言方の山本東次郎は演目『鎌腹』をあげて均衡ある表現

三 狂言の映画への活用とオリジナリティ

〔セリフ・演技・シーンの妙〕

候素の たが、 は車、 よく名乗り、 とおり ・・」というふうに関心を引きつける。 劇や 通小町』では坊さんが「これは八瀬の山里に一夏を送る僧にてょるこまち ボルテージの高い口上にチャームされ、 名は寅次郎、 「私は生まれも育ちも葛飾柴又です。 ・映画は冒頭の十五分間が観客をひきつけるカギとなる。 幕が開く。啖呵売は今では縁日の低迷とともにすたれ 人呼んでフーテンの寅と発します・・」 寅は香具師だから例 帝釈天で産湯を使い姓 つい屋台に足が向 と威勢 能 0

りは 言葉) チャラ流れるお茶の水」は能の の映画に投影していることを知る。 『お茶の水』 狂 しよう。 熊坂の長範」 言は仏教用語 に由来する。 (水汲とも) 0 「三十三で野垂れ死にした小野小町」 また口上 狂 言綺語 からとったものだろう。まさに能楽がこ 中の「バクチの (道理に合わない物言 『熊坂』、 開幕の技法については後でなお 『小町もの』 (又は人殺しの)始ま いや飾り立てた や狂言の 「チャラ

形浄瑠璃『曽根崎心中』の道行を髣髴させた。 男と泉が逃げてくる―云々」と得意技を披露し、近松門左衛門の人様」(一九九四年)で甥の満男と泉の恋を「木枯らしの吹く夜、満様」(一九九四年)で甥の満男と泉の恋を「木枯らしの吹く夜、満様」(オペラの単独歌唱)と珍重していた。第四七作「拝啓車寅次郎渥美清は独白が巧みで、関係者はそれを「渥美さんのアリア」

能樂の大半には独白が入る。映像でなくセリフで話を進める必要

さん映画は一時間半ほどである。からいきおい長めのようである。なお狂言の演技は三十分程度、からいきおい長めのようである。なお狂言の演技は三十分程度、

寅

合いが割に自由だったのだろう。 ものが多い。 たという。現代に伝わる能楽の脚本は、 5 「出て行け!」に対して「それを言っちゃお終いよ」 マクラ取ってくれ」などはリハーサル中のアドリブから生まれ 「画では渥美はじめ出演俳優のテンションが高く、 猿楽や室町時代のセリフでは 草創期ではスジ書きだけの 演技者のとっさの お とか 1 ち んんの ささく

「山伏狂言の応用―あれこれ

の曲 む。 る。 孤独な理髪師の女性を助け、好きになるけれど、 画 の方に向けること。 でユリ・ゲーラのように験比べ。 逃れに茶が熱いのぬるいのとクレームをつけ取り替えさせては飲 待、 1 主人公が山伏風に造形されたのかどうか、 そこへ羽黒山で修行してきた山伏が来て験を誇る。 「禰宝山に 第三三作 三乗り 邪念を見破った禰宜と山伏が言い争い、 勇、 伏 トニーがからんで結局、 「夜霧にむせぶ」(一九八四年) 神職が御幣を担いで氏子回り。 茶屋の亭主が人為的に動かし禰宜が勝つ。映 課題は大黒さまの像を念力で自分 彼が青年を説き伏せ別れさせ 決着をつけようと二人 更に検討してみよう。 =寅次郎が北海道で それにオートバイ 氏子の茶屋 Щ 伏は茶銭 が

テキ屋仲間の常三郎が重い病で危篤。「死後、女房を頼む」と言わ真似をさせられ墜落。第二八作「紙風船」(一九八一年)=九州で②また『柿山伏』=柿を盗むため木に登った山伏が持ち主に鳥の

n 寅は親切にするが結婚には踏み切れ 寅も 妻の光枝は東京に出てきて旅館のした働きに。 ない。 何 かと

が辺鄙。 の柿 ②の柿山伏は 笑につつまれたとか。 信 られるのである。 どうをみていた娘がボーイフレンドとモーテルに行ったと怒る」 ①では自信過剰な寅が欲張 構成されている。 ここでお婆さんの私生活に関与し過ぎたら深刻な事態が起きたかも くろは人に知られたくない老婆の過去を示しているのだろう。 お母さんくらいの齢の人よ」(第三作 の二人はもう大人なのよ」とか「お兄ちゃんに適するのはあ 頼みとは言え、 (寸前で我に還る) (抱いてやれ) 州の不遇なお婆さんを援護するが最後は専門家の女医に委ねる。 ハラが減っ かか の木に登る。 演目がある にな田舎の老婆宅に泊り、 がいっぱい一と言う怪談めい 『黒塚』 このようにプロットは伝統を踏まえたピカレスクとして 「かもめ歌」・一九八〇年)寅は、 た)!」と酔った客が叫んだところ誰かが 「早々に立ったれば、ことのほかもの欲しゅうなっ (安達ケ原) 大阪 第四〇作「サラダ記念日」 いささかアンフェアの感がある。 映画で寅は人妻の色香に迷っている。 イヤ、 が が寅のい 観客の目はたしかである。 天王寺の あれにみごとな柿がなっている」 って失敗するプロ は阿闍梨、 いとこやないか」とやり返し客席は爆 弟子が制止を無視して部屋をのぞく 映 |画館で寅の濡れ場で たストーリーで有名である。 「フーテンの寅」)とか窘め 祐慶に率いられた山崎がいかい ツ (一九八八年) 妹のさくらから「あ トと並 Ш だから、 伏狂 一行する。 「アホー・それ 如何に親友 言は他にも い と他人 は寅が 伏一行 の人の てまえ ゕ 寅 た

> に 局

> > 「平衡感覚― 第三二作 口笛を吹く寅次郎」・ 九八三

が駄目になる。寺の出戻り娘に含 け、 で説教を試み檀徒から喝采を受け、 酔いの住職に代わって法事に出向き、 統な欲望を肯定するお経」 この舞台は備中高梁 さくらの説得や御前様の叱責で修行を断念、 本人はかなり真面目 あまつさえ秘密経典『般若理趣経』 一戻り娘に寅が懸想し、 ニワカ坊主の寅はハットでなく儀式用 (岡山県) なのだが傍から見れば不誠実である。 で素人に危険とされているものだ。 彼女と結婚しようと、 の真言宗寺院、 婿養子の希望がでてきたわ 機転で弁舌を振るい駄ジ を読んでいる。 結婚の希望は 僧侶 0 を志願する (架空) 頭巾をつ は ヤ 正

袖を詐取された」と怒り罵った。 人気者になった挙句、擬す。 人気者になった挙句、 てうっかりニセ坊主 『きのうとおる小傘が今日も通り候」 『きのうとおる小傘が今日も通り候』 狂 取された」と怒り罵った。 は村 (食い詰めたバクチ打ち) 人が在所にお堂を建てた。 布施 の金品をもっ と機知を働かせて歌 って逐電。 を雇う。 適当な坊さんとし 老女は 博徒は小 経に

いる。 V) は大違い を効かしたつもりでも、 映画とこの演目を勘案すると、 監督 (『春秋山伏記』 |俳優は聖と俗の綱引きを面白く且つリアルに映像化して 頭隠して尻隠さず。 修行の実績のなさは覆うべくもな 寅はいっき 一休宗純のように 藤沢周平が 機転、 描く本職と 頓な知ち

第四一 マの誘惑 泉にあうため柴又から佐賀までバイクをとばす旅の途 「ぼくの伯父さん」 に危うく陥いるシー (一九八九年) ンがある。 瀬戸内寂聴 の挿話では満男 0 "秘花] が恋 「オ

ていたのだろうか。である。山田監督は世阿弥の苦悩(足利将軍義満との秘事)を知ってある。山田監督は世阿弥の苦悩(足利将軍義満との秘事)を知っ(世阿弥の伝記)に思いが及ぶが、この小説は映画よりあとの出版

[映画冒頭のシーン『夢』―複式夢幻能的手法]

言う。 当代 が、 手さがあると思う。 タクル様に展開していく。 州をめざす曲 て進むが。 れないが、 これは能楽の手法「複式夢幻能」によく似ていると思う。 映画では導入のため多くの作品に寅次郎がみる夢を設けている。 ざっと登場人物の置かれた状況を説明している。 判り易くするためプロローグが必要となる。 (現代) 勿論、 脚本が遠い過去の出来事から題材をとり幻想的になる場 能の『船辨慶』 どの能楽でも映画、 がテーマの場合はおおむね単式で、 目。 昔の複雑な物語なので先ず山伏姿の武蔵坊辨慶 は源義経が頼朝と不和になり吉野から奥 この映画には能の観世小次郎光信流の派*+四 歌舞伎でも場面転換 これをかく術語で 特に長い導入は入 以後、 (幕) スペク を追っ 能楽で

れが送りの亀 でおり誰も彼を知らない。玉手箱を開けると白い煙がもくもく。 玉手箱をもらって帰宅すると柴又は荒れ野原。 エリア) では第二七作「浪花の恋」(一九八一年)の夢をとり上げてみよ リア)なので導入部分を夢とし、「お伽話」シリーズは当代をテーマにしているのだが、 これはお伽話『浦島太郎』をデフォルメして使っている。 「ハードボイルド」「科学者もの」の四種類をアレンジした。 (源公) にかかってたちまち白髪に―。 そこは異界(架空の 家族はとっくに死ん 「時代劇」 寅が神社で目 寅が 西部

といい仲になる。り投げる。これが導入となっている。以下、大阪の芸者おふみさんり投げる。これが導入となっている。以下、大阪の芸者おふみさん神社の池に。ところがいきなり指を噛まれ大慌て。やっと水面に放をさますと少年たちが亀をいじめている。五百円札をだして買取り

きいたお説教を垂れている。 る。 俗な連中にふさわしい。 ばかりでお酌ひとつしてくれないのを訝るので に女にはからきし意気地がない」とからかい、 んたは乙姫の居所を前方にばかり求めている」 この作品のなかで「乙姫様はどこにいる」とあせる浦島に亀は のつま弾く琴の曲を のつま弾く琴の曲を「聖諦」をもてあましている風流人、 さん』と言うパロディがある。 この夢は映画として成功しているかも知れない。 サービスの証文をとるようなことはないのだ」となかなか気 竜宮では客がきたら客を忘れて親睦をはか 大きな赤海亀を多弁な老賢人、 (仏教の根本真理) ここで太宰は浦島を丹後の水江の閑 乙姫は浦島に微笑む 「人間界の宴席は卑 「威張っているくせ と措定してい 太宰治に 乙姫様 □*±± 島

気で、 時 意、 に解き放たれ パンドラの箱と玉手箱との異同を検討、 た。 い」と亀に頼んで丹後に帰り、 人びとこそ可憐で美しい。こんないいところで遊ぶ資格は私にはな 浦 すでに高齢なのに、 復讐が感じられる。 冒険とは信じる力だ」と語った。 島さんは接待に飽きて我に還り、 箱の底には何もない。 『希望』のみが人間の手元に残った。 なお十年ほど余命を保った。 玉手箱の煙を浴びた浦島は私の解釈では当 家族に 〈開くな〉 太宰は続けてギリシャ神話の 「無聊をかこつのはもう止め 「ケチでこそこそ生きている の戒めは、 「前者は開けたら禍が」があるとい 精気は どうも神々の 煙は竜宮の 取り扱 斉

親切を讃えている。化)されること―それが救いだ。聖諦の曲に耳を傾けよう」と亀の化)されること―それが救いだ。聖諦の曲に耳を傾けよう」と亀のに注意―程度のもの。歳月が経ってゆくこと、全てが忘却(且つ浄

推すと山田洋次は太宰を読んでいるらしい。

「忘れるのが救いなんだ」と慰める場面から寅が弟を失ったふみを「忘れるのが救いなんだ」と慰める場面からンは印象的。痛いっ!と叫んで現実に帰り、渡世に出るのだから。 寅次郎は太宰の浦島さんに似ていなくもない。亀に噛まれるシー寅次郎は太宰の浦島さんに似ていなくもない。

四 社会の変化と寅さん映画

[寅の人格を支えるもの]

類とみなされがち。後者はもともと露天商である。具師はやや違う。ただ自己主張が強く、時には腕力をふるうので同芸人入るべからず」の札を立てる村がみられた。(快客(極道)と香川端康成の『伊豆の踊り子』に出ているように昔は「物乞い、旅

天商) で商いに励む。 は店棚を持って定住、 阿弥が活躍した十五世紀 「呼び売り(振売り)」がある。 この行商人の系統に寅は連なる。 座を結成した。以下の者には 商工業は大いに発展した。 天秤棒で荷を担ぎ、 彼らは時に座から 「立売り」 Ŀ 級 路湾 商 人

排撃され人びとから警戒される。

V) のは辛いが、それが寅の美学である。 い」から意味を決めればよい。 よく言う「渡世人を殺すのに刃物は要らない。 力沙汰は見られない。一種のジャレ合いに抑制されている た紙が巻いてある。寅も笑いという緩和剤があるので武器は要らな びていない。 題名の つらい立場の寅次郎は僻んでよくけんかをするが、 彼のバトルはほとんどとらやで起こり、 「つらい」は主題歌の 能楽では刀、 槍も用いるが全て木製。 要するに義理と人情を貫いて生きる 「男はめかたで計れない」とか寅が 外部の人や女性との 雨の三日も降 弓の弦には撚っ 身に寸鉄も帯 呼ればよ

待できるのに。(寅の帰還でとらやの営為は更新する。) よって、密閉された定住共同体が風穴を穿たれ活性化することも期われつつある。異界から寅次郎のような人間を呼び寄せることにい地縁血縁に基づく共同体が機能を低下させ、人どうしの絆が失ない。個人商店や専業農家は急速に数を減らしている。これに伴

ので、 くも何か人の温もりを感じさせる。 でついて回った。 し各地で見世物小屋を興行して歩いた坂入尚文 は根室や釧路で撮られ、 め右往左往するのは無理からぬことだ。 うした状況を映画は底辺から描いている。 その一方、高度産業社会が出現し更にグローバル化してい 間道』)は「北海道で貧しい小学生の姉弟が私のあとを自転 飴を二本と小銭をあげた」とその頃を回想している。 お祭りの小遣いさえ親からもらえなかったような 時代の雰囲気が出ている。 寅はハンディを抱えてはいる 第三三作 人びとが拠りどころを求 (飴 「夜霧にむせぶ」 トラックを運転 **紅細工師** る。 著書 車

[寅次郎の鞄の中身は何か?]

学の本 に昔、 野山で今でも売っている。 政府によって禁止されてから久しい。 んはヤシだから伝統的には薬種が第一候補。 ンの渥美清は台本なしで通し、 ているからにはもっと貴重なものが入っているに違いない(ベテラ ラリと見ると変哲のない着替えなどの には欠かさないトランクに何が入っているのだろう。 役の行者が発明したという万能薬、 役の行者が発明したという万能薬、陀羅尼助も。それた 『神農本草経注』くらいは入っているかも知れない。 勿論、 彼らの信奉する神農さまの薬 日用品。 カバンに資料はない)。 しかしその販売は 後生大事に持ち歩い それなら高 映画 それ 寅さ 明治 でチ

の気概だけは受け継いでいるつもりなのだ。
定した。香具師はこれの末徒として同一性を維持している。人助け定した。香具師はこれの末徒として同一性を維持している。人助け来の人は、一般は、日本の人が、一般には

登山用の酸素ガスボンベはどうだろう。これなら太宰治の玉手箱登山用の酸素ガスボンベはどうだろう。これなら太宰治の玉手箱をか。それはカラであっても人を粛然とさせる。サリンの筈はない。空ととの様、至るところで志気を励起できる。サリンの筈はない。空ととか。それはカラであっても人を粛然とさせる。サリンの筈はない。空ととか。それはカラであっても人を粛然とさせる。日本国と言う大きとか。それはカラであっても人を粛然とさせる。日本国と言う大きと同様、至るところで志気を励起できる。これなら太宰治の玉手箱を法人の代置として。

ム)から来て、降臨した所で人びとを祝福し去っていくのだから。く見てくれば寅次郎は一種の遊行者である。異界(冒頭のドリートランクは少なくとも善人であることのシンボルなのだろう。か

「寅が人との交流で得るものは?」

あるようだ。 少女を救いだした。 さ) の映画は第七作「奮闘篇」 恐れず、非力な僧侶が本領を発揮している。 少女を勇気ある坊さんが奪還する物語だが、 を押し殺してはいない。能『自然居士』(観阿弥作)と少し違う。魚は水を得て生きていく。寅もDNAの 渡っていく。勇気凛々のドンキ・ホーテか。 !情な浮世を寅次郎は 寅の資質は主演俳優、 「義人の自己を売り込むこと」 (一九七一 寅もDNAのままで、 年 渥美のキャラクターでも これと同曲(狂う面白 それは練磨された自信 狂気と思われることを で、 寅は知恵遅 は誘拐された を指 れ 針 に

は世界(世間)を活性化させている。大地のうえを流れ歩き、ところどころで温暖な空気で氷を融かして水河が融ければ大地は隆起すると言う(地殻均衡説)。この男は

ボディブローのように効いてくる。ように共振し、鬱屈にカタルシスを促す。それは速効的に、或いはように共振し、鬱屈にカタルシスを促す。それは速効的に、或いは巧みな演出によって我われはすんなりと画面に入り物語と音叉の

腕は蟷螂の斧。 い景色や人情を満喫できる。 つ軽視しているようだ。その代わり私たちは寅とともに各地の美し も携帯電話を持っていない。 新には無頓 剰余価値」の獲得をめざすはずである。 寅は行商人なので、 着。 運転免許と中 寅が団子屋にもってくるオミヤゲは貧相。 その商行為は 客観的に見るとセールスマンとしての どうも彼は先端産業になじめなく、 古バンは勿論、 「貨幣、 ところが商品開発や技術革 昭和六十年代になって あわよくば増殖し これ は庶 且

たり、 路」・一九八九年)。そのため彼でも一念発起して堅気として勤 に 民 兀 のほとんどがあずかれない剰余価値とかを示している。 (P・ブリューゲル画 . の 学問に取り組むけれどいずれも三日坊主で終わる。 獲物を肩に、 ヘトヘトに疲れて帰ってきた狩人たちのよう 『雪のなかの狩人』=第四 作 小 たっ の旅 X た

前述の「夢」を熟術する。第二〇作「寅次郎頑張れ!」(一九七七年) 前述の「夢」を敷術する。第二〇作「寅次郎頑張れ!」(一九七七年) だったとは!義弟、博の指示で寅の摺りきれたトランクと帽子をク だったとは!義弟、博の指示で寅の摺りきれたトランクと帽子をク がゴミとして処分するため持ち去ろうとする。「待てーッ」と 叫んで今度はほんとうに覚醒する。レジデンスはハイレベルのエリ 叫んで今度はほんとうに覚醒する。レジデンスはハイレベルのエリ いてみると彼は軸足をかろうじて自分と柴又エリアに置いてい こうしてみると彼は軸足をかろうじて自分と柴又エリアに置いているけれど、心は両義的で不安定である。

[女性と寅次郎]

れた」 を描いているらしいが、それと結ばれることはない。能 性は妹のさくらは別として、泉鏡花作『婦系図』のお蔦のような人 ないあら麦を与えられて立腹。 人留守番している人妻の家に上がりこむ。 では寺男が美女 狂 寅は各地で困っている女性を助けては去って行く。彼の理想の女 言 と逆襲されたが、見ればなかなかの美形。 『節分』は蓬莱山から来た鬼が豆を食べたいと節 を大混乱させた。 (蛇の精) に魅惑されたばかりに梵鐘の完成式(女 寅のケースも女性へのニアミスに近 「食べ物を粗末にするから鬼に生ま 豆の代わりに脱穀してい 言い寄るうちに隠 分の日に 道 (成寺)

> うと、女とその恋人だけが幸せを手にする。 である。 が、 太郎冠者は山の芋が蛇→太刀へと変化、 し、皆このパターン。第三者に漁夫の利をさらわれる。 好意を寄せた女性が結局、 で連想されるのが映画・第二四作「春の夢」 れ蓑や打ちでの小槌をとりあげられ豆を打たれ追 寅次郎にとって立身出世はとてもとても。 有能なタンカーの 発展するのを期待している 狂言『成り上 船長と結婚するわけだ (一九七九年) 彼の美学はつらい い出される。 意地悪く言 |がり||で 寅が 0

く後味がよい。人に尽くしたのだからもって瞑すべしか。
うに「やるまいぞ、やるまいぞ」と寅が懲らしめられるシーンはなも言える。この点はチャップリン映画と同じである。ただ狂言のよ結局、シテとなる。潔いけれど、女たちにうまく利用されていると主人公(シテ)が寅次郎の筈だが、多くは本来ワキのマドンナが主人公(シテ)が寅次郎の筈だが、多くは本来ワキのマドンナが

いのステージに立つことも多かった。

読みその思考・感情を辿って撮影に臨むだろうが、青年時代はお笑
ギーを吹き込むのだと言う。勿論、彼は俳優だから役柄のセリフを
まれた型(省略と誇張)を自家薬籠中のものとしその型にエネル
を追奏清は「私は形から入る役者だ」と語っている。狂言方も仕込

れたことになり物語を追うことができる。いる。観客の私たちは巧みな型によって倍率のよいルーペを与えら作りに活用したと聞く。何気ないシーンにおいても背中で演技して渥美は大変な読書家でまた折りあるごとに映画、演劇を観賞し役

うこ(両沢葉子)だが、南北朝~室町時代(十四世紀中葉以降)に″わわしい女』の概念を提唱したのは女性史研究家、もろさわよ****

現れた庶民階級の元気のよい自立的な女を指す。

らぶつ掛ける。たまらず太郎は逃げ出した。「卑怯者め、さあ飲めやい!」とドンドン酒をのませ最後には頭か「卑怯者め、さあ飲めやい!」とドンドン酒をのませ最後には頭かけ者で利き酒と称してタダ酒をせびる。妻は堪忍袋の緒を切って狂言『川原太郎』=太郎の妻はよい酒を醸し市で商い。亭主は怠狂言『川原太郎』=太郎の妻はよい酒を醸っていまきな

切な台所用品だった。 がすかさず「今宵ぞ出づる身 料にたった一つ箕をもらい、それを被って出て行く。 れ。 の出来に感心して妻を呼び戻し仲直り。 は思わず 番があたり、 家計に余裕がないと拒否、 箕被』は洗練された笑話。 「未だ見ぬ二十日の宵の三日月(箕被) 自宅を提供することに。 (箕) こそ辛けれ」と付ける。 愛想を尽かして離縁を申し出、慰謝ことに。用意を命じられた妻は大むく 連歌好きの亭主に仲間との会合の当 箕は勤勉な主婦にとって大 は」と詠むが、 それを見た夫 男は句

シュン。 間違っているよ」と強烈な啖呵を切るのは圧巻。ギҕッ゙のことで寅が文句を言うのに対しリリーが ている。 コ蝶々) にも及ぶ。 のは彼女だけ。 九七四年・ (俳優・浅丘ルリ子) だろう。寅に半分、惚れているが面罵できる そのほか寅次郎の実母 「画のマドンナから「わわしい女」を捜すなら、 しかしその諫言は思いやりがこめられている。 や旅さきで知りあった踊り子 しかし姐御肌で気風がよい。彼女が登場するのは五いかし、 第一五作「相合い傘」(一九七五年)では 同 実力はあるが不遇な歌手で安キャバレーを渡り歩 春川ますみ)も相当わわしい お蝶 (第七作 (第 奮闘篇 四 作 さすがの寅次郎も 「寅さん、 子 筆頭はリリー メロ 守り歌 俳優 厭味ではな ンの分 作品

たちが箕を振っては穀類を管理していた、あの音と通じる。を足踏みミシンで縫っている。その心地よいリズムは室町時代の女てシャカシャカと氷を削り客にイチゴ氷を出す。さくらは満男の服実直な女はおばちゃんやさくらだろう。つねは機械の把手を廻し

五 寅次郎のコミュニケーション

、寅次郎の活字嫌い

聞けば、すぐさま我われは漢字の表記とともにその島を想起する。文字をあやつることは人間文化の基礎である。例えば尖閣諸島

明に必須なのだ。文字・文章と口語(音声言語)と

刷所 をからかいケンカとなる。 長。彼は何時もとらやに遊びに来るのではなく印刷屋である。ボスはタコ社 日本文の文字と文章がその通話 やでは殆ど生の 段が気にかかる を囲んでいる家族には遠慮 柴又のコミュニュ (隠喩として)。これは鉄工所など (初期の作品では共栄印刷) 定位置はアガリガマチ。 音声。 図 ケ を参照 隣り ĺ シ 脇から寅 0 彐 茶ぶ台 ンの 朝 とら では 0 日 丰 印 手

からきびしい現実を突きつけられる彼は理想と現実をつなぐ道化者、社

コミュニケーション能力の比較

◇凡例:●=得意、○=普通、▲=不得意、×=標準以下_					
項目 人物	身振り	口語 (音声)	文字 と文章	備考	
源公	A	×	×	聴覚に障害?	
寅次郎	0	•	A	啖呵売が専門	
タコ社長	0	0	•	印刷会社社長 文字と文章の扱いが仕事	
博		0	_	印刷会社の職工。インテリ 級。サラダ記念日も校正	
さくら	0	0	•	言語能力は標準以上	

だけでなく、 いるわけだ。車のギアを入れアクセルをふかすように。 と反応していきり立つ。タコは上流階級を陰画として代理している 寅さんを批評することに依って駆動力となり助 けても

辛辣である(第四二作)活字偏重への忌避は明らかだが、よるのである(第一作)本ばかり読んでいる冷たいインテリているし(第一作)本ばかり読んでいる冷たいインテリ だわっている。 代直前なのだが、彼は タブリッシメントの占有と彼が見なしているからだ。 中継を見て結果を知っていても翌日、 を否定するほど愚かではない。或るプロ野球チームのフアンがTV 音声言語の復権を図ろうとがんばる。インターネット、 寅は人を拘束する力のある文字と文章を嫌っている。 (文字と文) と人間生活は密接している 縁日でタタキ売りする商品に月遅れの雑誌が含まれ 本ばかり読んでいる冷たいインテリ教師には 「対面してジカに腹を割って話すこと」 新聞で勝利を確認するように 寅は身 それ 携帯電話時 寅は書物 張りや は にこ 工 ス

いる てアー 1 の職工だが、 .階級と違うの隠喩)。また区役所の「皆さまの職工だが、彼は血のつながりが無い義弟である さくらの夫、 と書いてあるのでマイクと早合点、 ワーと吹き込むのは滑稽で、且つ役所の形式主義を皮肉って 博は俵万智の歌集を校正できる 「皆さまの声」 寅と源公が箱に口を寄 (第四○作) (目に一丁字も無 0) ?投書箱 レベル 世 に

よう。 かに検事が偽りの起訴状を書く昨今では彼の糾弾は正鵠をついていかに検事が偽りの起訴状を書く昨今では彼の糾弾は正鵠をついてい して息巻いている 判 決文だとて 間 違が (第一七作 いがあると、 「夕焼け小焼け」・一九七六年) 寅次郎は 芸者ぼたんの借財に同 確た情

仕 .ぐさや口語及びその限界

> くれたさくらをアメリカ流に抱締めて頬ずり。 リカ人の薬売り しぐさと身振りの効用も相対的である。またとらやに下宿したアメ ところ「目にゴミが入ったの?」と尋ねられガクッ。 高校生にハガキの代筆を頼む)としても 通 交 能力は高い方だ。 はなかなか弁舌さわやかだし、文章を書くのが苦手(通りがかり 加えると言う留保は付けているが。この筆法をもってすると寅次郎 身振りや口語がそのまま正確な意思伝達の手段とはなれず、 じ を与えたのは、 史家、 ただ題経寺の令嬢、冬子に懸想した寅がウィンクで愛を告白した 「身振りは口語と並び文字、文章の源である」とした。 宮崎市定は史記を著した司馬遷 市で催される雑劇の身振りと掛合いである一 (第二四作) 、マイケル・イデルマンが親切にして (前 一世紀) 「狎れなれしい」と 誤解が解けて仲 の文章に生彩 (第一作)。 洗練を 勿論 と論 Ó

を埋めるには身振りだけでは不充分だと教えて 寅さんはよくとんでもない聞き違いを侵す。 いる。 良しに―。言葉は差別のカベの一つだろう。この挿話も文化

寅の立腹をかい、取っ組み合いのケンカとなっ

た。

の違

遊子悲しむ (音声) →真田十勇士 (寅の 聴 取

_" →都々逸 同右

神経衰弱が " \downarrow 1 口 7 ゼ (女好き 寅 の造

などが見てとれる。

風ウィット 業人でさえ厳密には巧言令色なのだから、 寅の混線は意図的な冗談であり、道化に 言でも似た手法が採られている。 配慮を使いつつ勢力均衡させている。 先の 寅の啖呵売と同列だろう。 .なって場の険悪な空気を ぱなって場の険悪な空気を 「箕被と三日月_ 堅気の職 は誤解

めている。言う、聞く―の間違いは演出に奥行きを刻む。 ようとする舟だから一櫂(ヒトカイ)だ」と風刺を効かせてやりこが「人聞きの悪いこと言うな」と言い争い。この坊さんは「出港しが「人聞きの悪いこと言うな」と言い争い。この坊さんは「出港しが「人間きの悪いこと言うな」と言い争い。 『自然居士』では僧侶がが新たな創造に結びついた稀な例である。 『自然居士』では僧侶が

たところ、

監督から出演依頼があり一転、

歓喜に。

「製作グル

を誤解していた訳だ。

言われドキッ。

「健さんはスジ者と関係あるのかしら」と悩んでい

言語 ないけれど、 つまらない。 している。 画館でこの作品を楽しんだ事実は、 の言葉は琉球語をそのままセリフとした。本州人は殆んど理解でき 第二五作「ハイビスカスの花」 の復権に 更には作品の社会的共有も。 かかわる。 雰囲気で判る。 マニュアル通りの 視覚に障害のある人が東京・渋谷の (一九八〇年) 雄弁に音声言語の有効性を証明 繰返しになるが市も活きた コンビニ店員の言葉では などでは現地 の 映

葉より真実の言葉の重視を布置して言語少数者に声援を送っている。(個性の摩滅化)状況という。寅は使い方の倒錯によって、よい言けほど人の差異に寛容ではなく、何でも一般化してしまい平板な舎弟の源公は言葉が不自由。或る社会学者によると、現代は見か

文字、文章の基底には人智に勝るものがあると言いたかったのか。クメネ(人間の文化圏)に画することに寄与している。監督は言語、る。定時に響くその音は人間に大自然の秩序を告げ、この世をオイー方、この寺男は誰もできない大切な鐘撞きを立派に果たしてい

六
 山田監督の視座について

、映画のなかのTV画面多用など〕

色調、 デル、 フェルメールはよく「画中画」 物がパノラマ的に一挙に炳現する。らやの人びとが気づく」場面(第四1 などを全部入れる手法である。 TVフレームの中、 濃淡、 画架のキャンバスにはその髪、 質感を範としていたという。 寅さんが阪神大震災で奉仕活動 を描いた。 (第四八作) 山田監督はこの画家が好きで、 ネーデルラントの 画中の絵には当時 絵をかいている自分やモ がある。 これなら登場人 風 の宗教戦争 それ 俗 画 その

ことをはかったのであろう。 座 箇所 離り り TV画面の寅次郎を団子屋 見の見」 (神戸と柴又)を撮影し、 その効果を確かめている。 (演技者の内省) 高 の茶の間に描きこんだのは、 監督はそ知らぬ顔で客席に に相似するかも知れない。 所に立 作者の目が観客のそれと統合する った複眼的手法と言えまい 混じって 世 同 時 阿 . 弥の

〔映画における時間の流れ〕

える。人生と悠久の自然の時間が感受される。ウィーンに出かけたう」という謎めいた文句で始まるが、川の流れを象徴したものと伝能の『翁』は「とうどうたらりたらりら、たらりあがりららりと

路 寅次郎 れ 流れてどこかの海に注(そそ)ぐんだろぅ―」 はドナウの流れをじっと見つめ 九八九年)ともの思いに耽っている。 「どこの 川も 第 兀 同じだなぁ。 作 小 0) 旅 流

円運動だけになったプレーヤーでもない。のただ流れはゴム紐を引っ張ったような直線でもなく、またある。ただ流れはゴム紐を引っ張ったような直線でもなく、またのでは、から、に相当する。川の流れは映画の時間のそれでも 寅が登場するのは銀幕で言うと左手の江戸川堤。能舞台の橋掛り

ている。 形に応じて自ら道を開 どころに断絶を刻みつつ螺旋状に流れていく。 渉しつつ膨らんでいく。 在 らやが能舞台のようにほぼ固定し日常と非日常ともここで演じられ り抓るシーンの次には列車のなかで満男が恋人、「寅次郎の告白」(一九九一年)で寅を女将、聖 ても同 →彼らが自殺をはかる をしているだろう した大学教授が作っている。 と手を重ねている。 の時間は彼と美人の考古学徒が、 組んであるようだ。 つの時間が次にはより大きな波紋となって マドンナ登場シリーズ しかし寅の過去の時間を山形の少女が共有しているし、 (主人の想定)→家来が砂糖をくすねる 「葛飾立志篇」 くように。 (虚偽) これと対応している。 これは狂言『附子』で、正しく留守番 の三種類の時間がサイクルをなし干 (例・ 強し 失恋したあとは寅と女性に懸想!形の少女が共有しているし、現 3 (第一六作・一九七五年) リリーもの) て言うと、 作品 地面を流れる水が地 聖子がじれったくな 現れ 泉の膝の手にそっ 個 に関しても、 の時間はところ 々の作品につい る。 第 (事実) 四 はと 四 作

《おわりに》

セリフと合致する 言には人間を救ってくれるところがある」と述べた。奇しくも寅の で「人生は辛いと思った時に、 一九八七年)と教えている。 ろう。そのために生きているんだ」 は 材に応じた。そして次作の構想は空しく名優は九六年に遠逝した。 清が初めてNHKのドキュメンタリー の舞い納めにかかったようだ。 とかつて被災地で人びとを労らったが、 狂言方一体で演じる。 満 この翁は神霊を励起し万人を祝福する最も格式の高いますな。 「そらあお前、 男の少年らしい生真面目な質問、 *** 生れてきてよかったなぁーと思える時があるだ 寅は「皆さん、 前記の山本東次郎も高校生向きの著書 第四八作撮影時で、 いやそうばかりじゃないんだ―と狂 本当にごくろうさんでした」 『クローズアップ現代』 (第三九作 人生の目的について寅次郎 この 曲目のように人生劇 「寅次郎物 克己禁欲な渥美ストイック 曲 目 語 ~ の取

| 了

||者=新発田市五十公野在住・新発田郷土研究会会員)|

注

* 寅さん倶楽部編『男はつらいよ・寅さん読本』

PHP研究所、 九九六年

宮家準 『山伏―その行動と組織 一』 評論社、 一九八三年、 一四七頁

横道萬里雄ら校注『日本古典文学大系謡曲集上・下』

小川弘志校注『日本古典文学大系狂言集上・下』

岩波書店、

一九八〇年、船辨慶は下巻一五〇頁以下

『無縁・公界・楽』 平凡社、 一九九一年、 岩波書店、一 二二五頁 九八〇年

Ŧi. 四 飯田道夫『日待・月待・庚申待』人文書院、 網野善彦 一九九二年、 一五七頁

今泉淑夫『世阿弥』(人物叢書二五七)

永原慶二『体系日本の歴史6・内乱と民衆の世紀』 吉川弘文館、二〇〇九年、

*

t

小学館、 一九八八年、 一九九頁と月報

坂井博美ら『新日本女性通史』

//

朝日新聞出版、二〇一〇年、一〇〇頁

* 八 小羽俊士『境界性パーソナリティ障害』

みすず書房、二〇〇九年、七頁

* 九 新田匡央 山田洋次ら『シナリオを作る』 『山田洋次』ダイヤモンド社、二〇一〇年、 筑摩書房、一九九四年 四八頁など

永井荷風『濹東綺譚』 新潮文庫、一九七八年、 九九頁、 一〇九頁

平凡社、二〇〇五年

* 十二 油谷光雄編 『狂言ハンドブック』 三省堂、二〇〇〇年、一五〇頁

* + -

山本東次郎ら『狂言入門』

* 十 三 西野春雄編『新訂増補芸能狂言事典』

梅原猛 『うつぼ舟Ⅱ』 角川学芸出版、 平凡社、 一九九九年、二七一頁 二〇〇九年、

* 十 五 * 十 四

太宰治

『日本の文学65

お伽草子』

中央公論社、

一九六四年

* 十六 渥美清『わがフーテンの人生』 大下栄治『知られざる渥美清』 毎日新聞社、 一九九六年、一〇七頁。 廣済文庫、二〇〇二年

添田知道『香具師の生活』 雄山閣、 一九八一年、 四四頁、六一頁

沖浦和光『旅芸人のいた風景―遍歴・流浪・渡世―』

文春新書、二〇〇七年、 五四頁。

* 十八 坂入尚文『間道 見世物とテキヤの領域

婦系図』 新宿書房、 二〇〇六年、二二三頁

*十九 泉鏡花『鏡花全集巻十 岩波書店、 一九七四年、 三三五頁

*二十一梅原猛『うつぼ舟Ⅰ』 大澤真幸『ナショナリズムの由来』講談社、 角川学芸出版、 100七年、 二〇〇九年、 三九三頁。 一六三頁

〔参考文献

一七九頁

*堀間善憲ら『男はつらいよ大全 上,下 中央公論社、二〇〇二年

*森英介 *福田陽一郎 『風天 『渥美清の肘突き』 渥美清のうた』 文春文庫、二〇一〇年 岩波書店、二〇〇八年

*木の実ナナ『笑顔で乗り切る』 講談社、二〇〇二年。

*小林責ら『笑いの芸術狂言』 *NHK製作班『渥美清の伝言』 KTC中央出版、一九九九年 婦人画報社、 一九九八年

*茂山千之丞『狂言じゃ、 狂言じゃ』 二〇〇一年

*野村萬齋

『萬齋でござる』

朝日新聞社、

一九九九年

*林屋辰三郎ら『中世の都市と民衆』 *小林直樹『上方文化講座 曽根崎心中』和泉書院、二○○六年。 新人物往来社、 一九八六年

*松竹㈱企画『人生に、 寅さんを』 キネマ旬報社、二〇〇八年。

*秋山さと子『ユングの心理学』講談社、一九九〇年、 ·伊豫谷登士翁『グロバリゼーションとは何か』 いよたにと しゃ

平凡社、 二〇〇五年、 一一二頁。

*藤沢周平 『春秋山伏記』 新潮文庫、二〇〇九年。

*久保田展弘監修『別冊太陽 日本のこころ一一一 修験道とは何か』

中央公論社、二〇〇二年。

新潮文庫、二〇一〇年、五八頁。

*宮崎市定『身振りと文学―アジア史論考・中巻』 *尾崎彰宏『西洋画の巨匠⑤フェルメール』小学館、二〇〇六年。 *中野孝次『ブリューゲルへの旅』河出書房新社、一九九七年、一八頁。

*瀬戸内寂聴『秘花』

朝日新聞社、一九七六年、四七五頁。

*田邉元『哲学入門』 *プラトン、藤沢令夫訳『パイドロス』 岩波文庫、一九九三年、 筑摩書房、一九七八年、二三三頁。 一三三頁=テウト神とタムス神。

*浜島書店編集部『総合資料日本史』同書店、

一九九四年、三二頁。

※下総葛飾郡大嶋郷戸籍=寅とさくらの名づけ資料か。

〔映画"男はつらいよ"作品一覧〕

No	題名	上映年	マドンナ女優	No	題名	上映年	オンナ女優
1	男はつらいよ	1969	光本幸子	26	寅次郎かもめ歌	1980	伊藤蘭
2	統・男はつらいよ	1969	佐藤オリエ	27	浪花の恋の寅次郎	1981	松坂庚子
3	フーテンの實	1970	香山美子	28	寅次郎紙風船	1981	音無美紀子
4	新・男はつらいよ	1970	栗原小巻	29	あじさいの恋	1982	いしたあゆみ
5	望郷篇	1970	長山藍子	30	花も風も寅次郎	1982	田中裕子
6	純情篇	1971	若尾文子	31	旅と女と憲次郎	1983	都はるみ
7	審闘 篇	1971	榊原はるみ	32	□笛を吹く寅次郎	1983	竹下呆子
8	寅次郎·恋歌	1971	池内淳子	33	夜霧にむせぶ寅次郎	1984	中原理恵
9	柴又森情	1972	吉永小百合	34	寅次郎真実一路	1984	大原麗子
10	寅次郎・夢枕	1972	八千草薫	35	實次即恋愛塾	1985	樋口可南子
11	忘れな草	1973	浅丘ルリ子	36	柴又より愛をこめて	1985	栗原小巻
12	私の寓さん	1973	岸恵子	37	幸福の青い鳥	1986	志穂美悦子
13	寅次郎恋やつれ	1974	吉永小百合	38	知床恭情	1987	竹下呆子
14	寅次郎子守歌	1974	十朱幸代	39	寅次郎物語	1987	秋吉久美子
15	寅次郎相合し傘	1975	浅丘ルリ子	40	寅次郎サラダ記念日	1988	三田佳子
16	葛飾立志篇	1975	樫山文技	41	寅次郎心の旅路	1989	竹下呆子
17	寅次郎夕焼け小焼け	1976	太地喜和子	42	ぼくの伯父さん	1989	後藤久美子ら
18	寅次郎翰特詩集	1976	京マチ子	43	寅次郎心の休日	1990	夏木まりら
19	寅次郎と殿さま	1977	真野響子	44	寅次郎の告白	1991	吉田日出子ら
20	寅次郎頑張れ	1977	藤村志保	45	寅次郎の青春	1992	風吹ジュン
21	わが道をゆく	1978	木の実ナナ	46	寅次郎の縁談	1993	松坂庚子
22	噂の寅次郎	1978	大原麗子	47	拝啓車寅次郎様	1994	小林幸子ら
23	翔んでる寅次郎	1978	桃井かおり	48	寅次郎町の花	1995	浅丘ルリ子
24	寅次郎春の夢	1979	香川京子	※ 渥美)	清、逝去(1996 年・平成 74	年8月・68歳	Ð
25	ハイビスカスの花	1980	浅丘ルリ子	49	ハイビスカスの花 特別篇	1997	浅丘ルリ子

投稿文執筆者紹介

神田ゼミ学 生 中野絵美 (内山拓也 渡邉紋優子 渡辺みゆき 高橋剛文 李 坤 平 平田陽一 佐 住安詩緒里

竹内元希 名古屋桂子)

國 夫 新発田学研究センター一般研究員/塩津潟研究所所長

伊

藤

征 元新発田市立図書館長 (新発田学研究センター一般研究員の推薦による)

佐

藤

榮

「年報新発田学」投稿要領

ことを目的として発行される。報」)』は、「新発田学」に関する研究・活動の成果を発表する一、(目 的)『新発田学研究センター年報(仮称、以下「年

長を選任する。
う。当該委員会はその業務の実行のために編集長ならびに副編集二、(編集・発行)編集と発行は新発田学研究センター委員会が行

る。学生が投稿する場合は、本学教員の指導ならびに許可を必要とす員、③本学教員もしくは一般研究員の推薦のある者とする。本学三、(投 稿 者)年報に投稿できる者は、①本学教員、②一般研究

四、(原 稿)原稿の条件は以下のとおりである。

① 未発表の原稿であること。

の限りではない。

③ 使用言語は日本語を基本とするが、編集長が認める場合はそ

稿も一部同封することとする。限りではない。また提出にあたってはプリントアウトされた原ファイル)の提出を原則とするが、編集長が認める場合はその。電子原稿(マイクロソフトワードファイルもしくはテキスト

⑤ 原稿の作成にあたっては、別に定める投稿論文執筆要領に基

ついて行うこと。

編集長の責任で原稿の修正を求めることがある。定は新発田学研究センター委員会で行う。また必要がある場合は、与し、公表上の問題を含まないものとする。投稿原稿の採否の決五、(内容・審査)投稿できる原稿の内容は、新発田学の発展に寄

修正は原則認めない。校(再校)では字句の修正等にとどめることとし、原稿の大幅な穴、(校 正)著者校正は原則として二校まで行う。ただし、二

十五日までに行わなければならない。十一月十五日までに投稿の申し込みを行い、原稿の提出を十二月七、(日 程)年報は年度末に発行する。投稿を希望する者は、

の守吏な女中を引いることをひこうのこころ。八、(著作権)投稿された著作物は、電子化公開に関する著作権

九、(別 刷)年報執筆者は、希望する場合、一校の段階で別刷の行使を敬和学園大学に許諾されたものとする。

ラー原稿は、カラーのまま印刷されないこともある。十、(申し込み)投稿希望者は左記の申込書を提出する。なお、カを有償で申し込むことが出来る。

二〇一一年度 新発田学研究センター年報 投稿申込書

題目 (仮) ::

二〇一一年十一月 日

所属:

職

名 ··

氏 名

(必要な場合) 推薦者E-mail :

「年報新発田学」投稿論文執筆要領

る場合に用いる一、二、三・・・等と区別するためです)。番号としては(1)、(2)、(3)・・・を使用する。(本文中に文節がある場合に用いる一、注は一括して論文末につけてください。本文中及び論文末の注

さい)。
三、原稿のはじめにテーマ、氏名を記す(既刊号の方式を参照くだ二、文章中の文節記号は、原則として一、二、三・・・とする。

四、注は、原則として以下の表記に倣ってください。

引用文献表記 和文著書:著者、書名(書名には『 』を用いる)、

出版社名、刊行年、頁。

和文論文:著者、論文名(論文名には「 」を用

いる)、雑誌名(雑誌名には『』を

用いる)号数、刊行年、頁。

欧文著書:著者、書名(書名にはイタリックを用

いる)、出版社名又は発行地、刊行年、

頁 (p. を用いる)。

欧文論文:著者、論文名("〇〇〇"を用いる)

雑誌名(雑誌名にはイタリックを用い

る)、号数、刊行年、頁 (p. を用いる)。

例

事業社、二〇〇八年、一〇頁。 大竹静市郎『新発田想い出写真帳:懐かしの昭和』新潟日報

同書、五頁。 □書、五頁。

(2)

- Totman Conrad, A History of Japan, Black Well Pub, 2000, pp.10-
- J. Rawls, "Justice as fairness: Political not metaphysical" *Philosophy and Public Affairs* 14, 1985, pp.223-251.

(5)

員会の方針により、一部変更することがあります。その他については、一般的表記に従ってください。また、編集委

編集後記

『年報 新発田学』第二号をお届けします。

議会が中心となって運営している 阿賀北口 本誌には マン賞」 新 発田学 受賞作品 ,研究センター、 並びに、 「まちカフェ 本学共生社会学科、 投稿文として本学学生、 ・りんく」 の活動紹介、 新 発田· 地 市社会福 域 0 第)研究員 祉協 回

ましたことに感謝申し上げます。れて活動できましたこと、また、その成果を『第二号』にまとめることができれて活動できましたこと、また、その成果を『第二号』にまとめることができ

方々の

研究成果を掲載いたしました。

二〇一〇年度も、

地域の皆様に支えら

こざら、 できてつみてつがでは長さな痛でさいましょうな頂いいとしまし。」 を新たに設けました。 『年報 新発田学』の一層の充実のため何卒ご理解本誌の編集にあたっては創刊号の「投稿要領」に加えて、「投稿論文執筆要

、ただき、次号にも多くの研究成果を投稿下さいますようお願いいたします。

寄与することを願っております。

この

写年

報

新発田学』

第二号が、

地

域

の更なる発展と新たな歴史の創設に

最後になりましたが、担当の渡邉様をはじめ株式会社タカヨシの皆様に厚く

御礼申し上げます。

(編集委員 伊藤敦美)

2011年2月24日発行

年報 新発田学 第二号

編集・発行 敬和学園大学

代表者鈴木佳秀

〒957-8585 新潟県新発田市富塚1270番地 電話 0254-26-3636代

印刷 所株式会社 タカヨシ

〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 電話 025-381-2000代

表紙解説

新発田市立図書館所蔵「新発田十二才市繁栄之図」紀興之編『越後土産 初編』元治元年(1864)より (詳細は創刊号本文の鈴木秋彦「新発田十二斎市の成立と展開(一)」参照)